

文 学 部

学修ガイドブック

2026

SCHOOL of LETTERS

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン 「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

文 学 部

学修ガイドブック

2026

令和8年度

専 修 大 学

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは、みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み、紛失することのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は、幅広い教養と人間の営為に関する高度で体系的な知識を有し、専門分野における研究を通じて自由で柔軟な発想と思考力を身に付け、文化の継承と創造に寄与することができる人材を育成します。この方針に基づいて各学科において以下の知識や能力を修得した者に対して、日本文学文化学科，英語英米文学科，哲学科，歴史学科，環境地理学科では学士（文学）の学位，ジャーナリズム学科では学士（ジャーナリズム学）の学位を授与します。

日本文学文化学科

- (1) 日本の文学と文化に関する基本的な知識を修得した上で、それらを体系的に理解し、説明することができる。(知識・理解)
- (2) 日本の文学と文化及びそれに関連する文献・史料による情報を正しく読み解き、自分自身の思考や判断として適切に伝達することができる。(汎用的技能)
- (3) 幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し、論理的に分析して課題解決に適用することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 広い視野から多文化共生社会を生きる能力を身に付け、主体的に行動することができる。(態度・志向性)

英語英米文学科

- (1) 英語圏の文学・文化や歴史に関する知識を修得し、文化・歴史・言語・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け、それらについて説明することができる。(知識・理解)
- (2) グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身につけ、他者に対し、自分自身の思考や判断を的確に表現することができる。(汎用的技能)
- (3) 国際的な視野から知識を統合し、活用することによって、様々な課題を論理的に分析し、問題解決に導くために応用することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 英語圏文化における多様な価値観を理解し、倫理的な判断を踏まえた上で、国際的な視点から独自の考えを構築することができる。(態度・志向性)

哲学科

- (1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け、哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し、それらを説明することができる。(知識・理解)
- (2) 多様な文献を正確に読解する能力に基づいて、自分の解釈を適切に表現し、他者に伝えることができる。(汎用的技能)
- (3) 哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し、ものごとを多様な視点から分析的にとらえ、筋道立てて思考することを通じて、課題の新たな捉え方や解決策を提示し、社会の諸問題の解決に寄与することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 自分の考えをむやみに絶対視することなく、他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって、社会に参画することができる。(態度・志向性)

歴史学科

- (1) 文化・社会・自然などについての教養を幅広く身につけた上で、日本および世界各地の過去の歴史について深く掘り下げて理解し、説明することができる。(知識・理解)
- (2) 歴史上の様々な課題を解明するために必要な、言語または非言語の情報・データを収集・

分析し、適切に表現することができる。(汎用的技能)

- (3) 歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し、知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め、独自の成果を創出することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて、社会の諸課題に対して、倫理観をもって主体的に取り組むことができる。(態度・志向性)

環境地理学科

- (1) 地理学における一般的及び専門的な知識・理論を体系づけて理解するとともに、文化・歴史・社会、自然等について幅広い教養を身に付け、それらを説明することができる。(知識・理解)
- (2) 言語運用能力や情報・データリテラシーを身につけて活用し、地域や環境に関するデータを収集、処理するとともに、分析の結果や自己の考え等を適切な表現で他者に伝えることができる。(汎用的技能)
- (3) 地理学における知識体系や理論を基盤とした思考方法と世界の諸地域についての知識を活用し、地球的視野から創造的に地域や環境に関する社会の諸課題に取り組むことができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 「社会知性」の意義を理解した上での地域や環境に関する調査活動を通じ、人間理解や倫理観を基礎にして社会生活上の諸課題の解決に取り組んでいける能力を更新し続けることができる。(態度・志向性)

ジャーナリズム学科

- (1) ジャーナリズム学(ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス)の基本的な知識・理論を理解するとともに、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、説明することができる。(知識・理解)
- (2) 社会事象に関する情報・データを収集・処理し、それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる。(汎用的技能)
- (3) ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ、氾濫する情報を複眼的、批判的、論理的に分析し、現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し、良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる。(態度・志向性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業を開講します。

日本文学文化学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として、1年次に科目区分「社会知性基盤科目」には「S i 基礎科目」、「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し、説明することができる能力を養成するため、科目区分「教養科目」には、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ、活用することができる能力を養成するため、科目区分「外国語科目」には、「英語」、「英語以外の外国語」、「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって、学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため、科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

- ・科目区分「専門科目」には本学科の学位授与の方針をふまえ、以下のような科目群を配置しています。
- ・日本の文学と文化に関する基本的な知識を修得した上で、それらを体系的に理解し、説明することができる能力を養成するため、日本文学、日本文化、中国文学、出版文化、ビジュアル文化、児童文学、書道などの領域に関連する科目を配置しています。
- ・日本の文学と文化及びそれに関連する文献・史料による情報を正しく読み解き、自分自身の思考や判断を適切に伝達することができる能力を養成するため、日本文学研究、日本文化研究、文藝創作、マンガ研究、演劇研究、映画研究、書道史などの科目を配置しています。
- ・幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し、論理的に分析して課題解決に適用することができる能力を養成するため、「ゼミナール1～3」、「卒業論文」を配置しています。
- ・広い視野から多文化共生社会を生きる能力を身に付け、主体的に行動することができる能力を養成するため、中国文学研究、比較文学研究、比較文化研究、書道美学論などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践する教育として、「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に、「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において

実施し、必修科目として、1年次に全員が学びます。

- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データ分析入門」、「データサイエンス入門」、「データサイエンス実践」、「A I 基礎」、「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」および「S i セミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は「教養科目」において実施し、10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上）、英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」、「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき、以下のように実施します。
- ・古典文学や近現代文学の他、日本文化と関わりの深い分野の基礎的な知識・理解を得るための講義科目や、書道などの実技科目を1年次から履修することができます。
- ・古典文学や近現代文学の他、日本文化と関わりの深い分野の高度な知識・理解を得るための講義科目や、自分自身の発想や思考を説明する応用力の養成をはかる演習科目を2年次から履修することができます。これらの「専門科目」群の中から56単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し、論理的に分析して課題解決につながる自己設計力を養成するための科目のうち、「ゼミナール1~3」は2~4年の各年次に学び、必修科目として12単位修得することを卒業要件としています。「卒業論文」は4年次において定時外に実施し、必修科目として8単位修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i 基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、S T E A M教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業

科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また，「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

1年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」，「言語文化研究」は，講義形式とします。

④単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は，個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」では，日本の文学と文化に関する専門の骨格を正確に把握させるとともに，科目間の関係や履修の順序，単位数等に配慮し，系統性と順次性のある教育課程を編成しています。「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習）で実施します。

1年次から幅広く履修し知見を広げるために，古典文学や近現代文学の他，日本文化と関わり深い中国文学，書道など，各分野における基礎的な科目が配当されています。また，文藝創作や演劇・雑誌編集に関する講義，書道の実技などの科目も設定されています。2年次からは，ゼミナールに所属し，少人数の演習形式の授業が展開されます。各自が研究テーマを設定し，卒業論文・作品を作成します。

英語英米文学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「社会知性基盤科目」には，「S i 基礎科目」，「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって，学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため，科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

- ・科目区分「専門科目」には、本学科の学位授与の方針をふまえ、以下のような科目群を配置しています。
- ・英語圏の文学・文化・歴史や言語に関する知識を修得し、文化・歴史・言語・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け、それらについて説明する能力を養成するため、「英語英米文学概論1・2」、「特別総合講義」などの科目を配置しています。
- ・グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身につけ、他者に対し、自分自身の思考や判断を的確に表現する能力を養成するため、「Integrated English 1・2」、「英語プレゼンテーション1・2」などの科目を配置しています。
- ・国際的な視野から知識を統合し、活用することによって様々な課題を論理的に分析し、問題解決に導くために応用することができる力を養成するため、「国際理解1・2」、「異文化理解」、「異文化コミュニケーション」などの科目を配置しています。
- ・英語圏文化における多様な価値観を理解し、倫理的な判断を踏まえた上で、国際的な視点から独自の考えを構築する能力を養成するため、「イギリスの歴史と文化1・2」、「アメリカの歴史と文化1・2」などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践する教育として、「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に、「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し、必修科目として1年次に全員が学びます。
- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データ分析入門」、「データサイエンス入門」、「データサイエンス実践」、「A I 基礎」、「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受け入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（Si 応用科目）」の「分野横断科目」および「Si ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」、「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき、以下のように実施します。
- ・英語圏の文学・文化や歴史に関する知識を修得し、文化・歴史・言語・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け、それらについて説明する能力養成のための科目は、1年次から展開します。
- ・グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身

につけ、他者に対し、自分自身の思考や判断を的確に表現する能力を養成するための科目は、その多くを必修科目として、1年次から学びます。

- ・国際的な視野から知識を統合し、活用することによって様々な課題を論理的に分析し、問題解決に導くために応用することができる力を養成する科目は、2年次から展開します。
- ・英語圏文化における多様な価値観を理解し、倫理的な判断を踏まえた上で、国際的な視点から独自の考えを構築する能力養成のための科目は、2年次から展開します。
これらの専門科目群の中から、英語コミュニケーションコースは86単位以上、英語文化コースは74単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・ゼミナール1～4は、3年から4年の各年次を実施し、必修科目として8単位、卒業研究は4単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基礎科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」では、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

④単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）で実施します。1年次に履修する専門科目の学修につながる導入科目としての「英語英米文学概論1・2」は、英語英米文学にまつわる基礎的な知識を身につけられる内容であり、演習形式とします。

1・2年次においては、聞く・話す・読む・書くという英語4技能それぞれに特化した科目と4技能統合科目をそれぞれの学生の英語力に応じて学修できるように習熟度別クラスにて必修科目として演習形式で展開します。2・3・4年次では、英語力をさらに高め、自分自身の思考や判断を的確に表現するための能力を身につけるために「英語プレゼンテーション」など、多種の上級英語スキル科目を選択必修科目として演習・実習形式で履修します。

2・3・4年次で履修する、英語圏の文学や文化、英語学、応用言語学に関する専門科目である「イギリスの歴史と文化1・2」、「アメリカの歴史と文化1・2」などは専門的な知識を理解する内容であり、選択必修科目として講義・演習形式で展開します。他にも、「国際理解1・2」、「異文化理解」、「異文化コミュニケーション」などは、国際的な視野から知識を統合し、活用することによって様々な課題を論理的に分析し、問題解決に導く能力を身につける内容であり、講義・演習形式とします。

3・4年次では、全員がゼミナールに属し、各自の学問的関心の涵養に努め、英語英米文学に関する研究の方法を身につける内容であり、少人数の演習形式とします。

哲学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基礎科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として、科目区分「社会知性基礎科目」には、「S i 基礎科目」、「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し、説明することができる能力を養成するため、科目区分「教養科目」には、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ、活用することができる能力を養成するため、科目区分「外国語科目」には、「英語」、「英語以外の外国語」、「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互解放によって、学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため、科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

- ・科目区分「専門科目」には、本学科の学位授与の方針をふまえ、以下のような科目群を配置しています。
- ・哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し、それらを説明することができる能力を養成するため、哲学の各分野のもっとも包括的な科目として概論科目を、哲学・思想の流れを学ぶ科目として思想史科目を配置しています。
- ・多様な文献を正確に読解する能力に基づいて、自分の解釈を適切に表現し、他者に伝えることができる能力を養成するため、「専門入門ゼミナール」を配置しています。
- ・哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し、ものごとを多様な視点から分析的にとらえ、筋道立てて思考することを通じて、課題の新たな捉え方や解決策を提示し、社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するため、哲学・思想の特定の分野の哲学系の概説科目と、狭義の哲学をこえて広く思想・文化・芸術を扱う概説科目とを

配置しています。

- ・自分の考えをむやみに絶対視することなく、他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって、社会に参画することができる能力を養成するための科目として、ゼミナール、卒業論文を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基礎科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基礎科目」は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践する教育として「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に、「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は、「社会知性基礎科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し、必修科目として、1年次に全員が学びます。
- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データ分析入門」，「データサイエンス入門」，「データサイエンス実践」，「AI基礎」，「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」および「S i ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上）、英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」，「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき、以下のように実施します。
- ・哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し、それらを説明することができる能力を養成するための科目、多様な文献を正確に読解する能力に基づいて、自分の解釈を適切に表現し、他者に伝えることができる能力を養成するための科目は、1年次から実施します。

哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し、ものごとを多様な視点から分析的にとらえ、筋道立てて思考することを通じて、課題の新たな捉え方や解決を提示し、社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するための科目、自分の考えをむやみに絶対視することなく、他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって、社会に参画することができる能力を養成するための科目は、2年次から実施します。

これらの専門科目群の中から74単位以上修得することを卒業要件としています。

- ・哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し、ものごとを多様な視点から分析的にとらえ、筋道立てて思考することを通じて、課題の新たな捉え方や解決策を提示し、社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するための科目、自分の考えをむやみに絶対視することなく、他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって、社会に参画す

ることができる能力を養成するための科目のうち、ゼミナール1～3は、2年から3年の各年次に実施し、必修科目として12単位、卒業論文は8単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基礎科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学修経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

④単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習）で実施します。

- ・概論科目や思想史科目は、哲学の基礎的な知識を身につけ、哲学の専門的な知識を理解する内容であり、講義形式とします。
- ・「専門入門ゼミナール」は、文献から得た情報についての自分の解釈を適切に表現し、

他者に伝えることができる能力を身につける内容であり、演習形式とします。

- ・哲学系の概説科目と広く思想・文化・芸術を扱う概説科目は、哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し、ものごとを多様な視点から分析的にとらえて課題の新たな捉え方や解決を提示する能力を身につける内容であり、主に講義形式とします。
- ・「ゼミナール1～3」「卒業論文」は、他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって、社会に参画することができる能力を身につける内容であり、少人数の演習形式とします。

歴史学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として、科目区分「社会知性基盤科目」には、「S i 基礎科目」，「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって，学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため，科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

- ・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。
- ・日本および世界各地の過去の歴史について深く掘り下げて理解し，説明することができる能力を養成するため，「世界史講義1～8」，「欧米文化史1・2」，「イスラーム史1・2」などの多彩な科目を配置しています。
- ・歴史上の様々な課題を解明するために必要な，言語または非言語の情報・データを収集・分析し，適切に表現することができる能力を養成するため，「歴史資料研究法1～20」などの科目を配置しています。
- ・歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し，知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め，独自の成果を創出することができる能力を養成するため，「ゼミナール1～3」などの科目を配置しています。
- ・多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて，社会の諸課題に対して，倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成するため，「卒業論文」などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する教育として，「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に，「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の専修大学入門ゼミナールにおいて実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。
- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「デー

タ分析入門」,「データサイエンス入門」,「データサイエンス実践」,「A I基礎」,「データサイエンス活用演習」において実施します。

- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i応用科目）」の「分野横断科目」および「S iゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上）、英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」,「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき、以下のように実施します。
- ・日本および世界各地の過去の歴史について深く掘り下げて理解し、説明することができる能力を養成し、さらに、多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて、社会の諸課題に対して、倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成するための科目は、1年次から実施します。

このうち「日本史概説1・2」,「アジア史概説1・2」,「欧米史概説1・2」,「総合世界史1～4」,「古文書学概論1・2」,「考古学概論1・2」は1・2年次に実施します。「日本史概説1・2」,「アジア史概説1・2」,「欧米史概説1・2」のなかから8単位以上修得することを卒業要件としています。

上記の他の科目は2～4年次に実施します。「総合世界史1～4」,「古文書学概論1・2」,「考古学概論1・2」を含めた科目群のなかから42単位以上修得することを卒業要件としています。

- ・歴史上の様々な課題を解明するために必要な、言語または非言語の情報・データを収集・分析し、適切に表現することができる能力を養成し、さらに、歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し、知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め、独自の成果を創出することができる能力を養成する科目は、2年次から実施します。

このうち「歴史資料研究法1～20」は2年次において実施し、4単位以上修得することを卒業要件としています。「古文書学実習」は3・4年次、「考古学実習1・2」は2～4年次で実施します。

- ・歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し、知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め、独自の成果を創出することができる能力を養成し、さらに多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて、社会の諸課題に対して、倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成する科目のうち、1年次に「専門入門ゼミナール」を実施し、必修科目として2単位を修得します。

「ゼミナール1～3」は、2年から4年の各年次に実施し、必修科目として12単位、「卒業論文」は8単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大

学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

④単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）をとります。

- ・「専門入門ゼミナール」は歴史学を学ぶための基礎的スキルを身につける内容であり、演習形式とします。
- ・「日本史概説1・2」「アジア史概説1・2」、「欧米史概説1・2」は、各領域の基本的な知識を学ぶ内容であり、講義形式とします。
- ・「日本文化史1・2」、「アジア文化史1・2」、「欧米文化史1・2」は、それぞれの地域が生んだ文化の特色について専門的な知識を理解する内容であり、講義形式とします。
- ・「世界史講義1～8」、「イスラーム史1・2」、「ジェンダー史1・2」は、現代社会の諸問題を踏まえて歴史学が取り組んでいる最新のテーマについて学ぶ内容であり、講義形式とします。
- ・「総合世界史1～4」は、時代や地域、学問の固有の性格を超えて、世界史的視野から歴

史研究の多様性・共通性を学ぶ内容であり、講義形式とします。このうち「総合世界史1・2」は、学科の専任教員全員がオムニバス形式で授業を担当します。

- ・「歴史資料研究法1～20」は、歴史研究のもとになる資料を収集するための技術や、資料を読みこなす力など、研究に必要な基本的能力を身につける内容であり、演習形式とします。
- ・「古文書学実習」は、古文書の取り扱い方法・解読能力を身につける内容であり、演習および実習形式とします。
- ・「考古学実習1・2」は、考古学的調査に必要な様々な基本的技術を学ぶ内容であり、実習形式とします。これらの科目で学んだ技術は、夏期休暇期間に実施される「発掘調査実習1・2・3」において、実際に発掘調査に参加して実践します。
- ・「ゼミナール1～3」は、3か年の間に卒業論文を作成するための能力を身につける内容であり、演習形式とします。「卒業論文」は歴史学科での学びの集大成となるもので、ゼミナールの教員の指導のもと、自らの立てた研究課題について資料・関連論文を収集し、その批判的検討をへて論文として完成させます。

環境地理学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として、科目区分「社会知性基盤科目」には、「S i 基礎科目」、「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し、説明することができる能力を養成するため、科目区分「教養科目」には、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ、活用することができる能力を養成するため、科目区分「外国語科目」には、「英語」、「英語以外の外国語」、「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって、学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため、科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

本学科の学位授与の方針をふまえ、以下のような科目群を配置しています。

- ・地理学における専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や、主体的に問題の解決に取り組む能力を身につけるため、「都市環境学1・2」、「農村環境学1・2」、「歴史環境学1・2」、「社会環境学1・2」、「地誌学1・2」、「地形環境学1・2」、「気候環境学1・2」、「地域生態学1・2」、「環境地図学1・2」等の、基礎から発展・応用的内容へと段階的な科目を配置しています。
- ・情報・データリテラシーを身につけて活用し、地域や環境に関するデータを収集、処理するとともに、分析の結果を適切な表現で他者に伝えることができる能力を養成するため、「空間情報学1・2」、「地理情報システム実習1・2」、「リモートセンシング実習1・2」等の科目を配置しています。
- ・地理学における知識体系や理論を基盤とした思考方法と世界の諸地域についての知識を活用し、地球的視野から創造的に地域や環境に関する社会の諸課題に取り組むことができる能力を養成するため、「ゼミナール1・2」等の科目を配置しています。
- ・地域や環境についての調査活動を通じて、人間理解や倫理観を基礎にして社会生活上の諸課題の解決に取り組んでいける能力と、それを更新し続けることができる能力を養成するため、「卒業論文」等の科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する教育として，「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に，「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。
- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データ分析入門」，「データサイエンス入門」，「データサイエンス実践」，「A I 基礎」，「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」及び「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は，「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」及び「S i ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は，「教養科目」において実施し，10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は，「外国語科目」において実施し，英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」，「単位互換2」及び「単位互換3」において，他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。
- ・地理学分野の一般のおよび専門的な知識・理解を体系的に得るための科目を，主として1年次から3年次に実施します。
- ・フィールドにおける現地観察によってその地域の特性・特色を幅広く把握できる能力を入学後の早い段階で身につけるため，1年次に選択必修科目「地理学エクスカッション」を設けています。
- ・地理学分野の地理空間情報等のデータや地図等を分析し，情報・データリテラシーの応用力養成をはかる科目を2年次から実施します。
- ・フィールドワークの実践等を通じて問題解決力や自己設計・管理能力を養成する科目として2年次以降に「野外調査法1」，3，4年次に「ゼミナール1」「ゼミナール2」を設けています。必修科目として各4単位計12単位を修得することを卒業要件としています。
- ・卒業研究を通じて地域や環境に関する課題解決を模索する中で，人間理解や倫理観，社会的責任についての意識の向上を図る科目として4年次に「卒業論文」を実施します。必修科目として8単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思

考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i 基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

- ・英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。
- ・1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。
- ・英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、導入・基礎・応用と、それぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。
- ・異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は講義形式とします。

④単位互換科目

- ・他大学の学生との交流及び多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）で実施します。

- ・地理学分野の一般のおよび専門的な知識・理解を体系的に得るための「都市環境学1・2」、「農村環境学1・2」、「歴史環境学1・2」、「社会環境学1・2」、「地誌学1・2」、「地形環境学1・2」、「気候環境学1・2」、「地域生態学1・2」、「環境地図学1・2」等の科目は講義形式とします。
- ・フィールドにおける現地観察によってその地域の特性・特色を幅広く把握できる能力を身につける「地理学エクスカッション」は実習形式とします。
- ・地理学分野の地理空間情報等のデータや地図等を分析し、情報・データリテラシーの応用力養成をはかる「空間情報学1・2」、「地理情報システム実習1・2」、「リモートセンシング実習1・2」等の科目は実習形式とします。
- ・フィールドワークの実践等を通じて問題解決力や自己設計・管理能力を養成する「野外調査法1・2」、「ゼミナール1・2」及び卒業研究を行う「卒業論文」は少人数の演習形

式とします。

ジャーナリズム学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「社会知性基盤科目」には，「S i 基礎科目」，「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって，学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため，科目区分「単位互換科目」を配置しています。

②専門科目

- ・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。
まずカリキュラムを編成するにあたり，「ジャーナリズム」，「情報文化アーカイブ」，「メディアプロデュース」，「スポーツインテリジェンス」の4つの学びの柱を設けています。また科目間の関係や履修の順序，単位数等に配慮し，系統性と順次性のある教育課程を構築し，「基礎科目」，「基幹科目」，「発展・応用科目」の科目群を配置しています。
- ・ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる能力を養成するため，「基礎科目」を配置しています。
- ・社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成するため，「情報表現実習（基礎）」「情報表現実習（応用）」「情報表現実習（展開）」（3科目6単位）などの科目を配置しています。
- ・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するため，「基幹科目」，「発展・応用科目」，「関連科目」を配置しています。
- ・広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成) するため，「発展・応用科目」，「関連科目」を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する教育として，「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に，「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。

言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養

成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し、必履修科目として、1年次に全員が学びます。

- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データ分析入門」,「データサイエンス入門」,「データサイエンス実践」,「A I 基礎」,「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」および「S i ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上）、英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」,「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

②専門科目

- ・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき、以下のように実施します。
- ・ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに、文化・歴史・社会、自然、スポーツなどについて幅広い教養を身に付け、説明することができる能力を養成するための科目である「基礎科目」は、1年次から実施し、「ジャーナリズム論」など5科目10単位を必修科目、12科目24単位を選択科目として配置しています。特に社会事象に関する情報・データを収集・処理し、それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成するための科目である「情報表現実習（基礎）」「情報表現実習（応用）」「情報表現実習（展開）」（3科目6単位）などを配置しています。
- ・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ、氾濫する情報を複眼的、批判的、論理的に分析し、現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するための科目、広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し、良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目である「基幹科目」（23科目46単位を選択科目）,「発展・応用科目」（5科目14単位を必修科目、1科目を必履修、34科目68単位を選択科目）「関連科目」（8科目16単位を選択科目）とし、2年次から実施します。
- ・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ、氾濫する情報を複眼的、批判的、論理的に分析し、現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するための科目、広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し、良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目のうち、ゼミナール1～4は、3年から4年の各年次に実施し、必修科目として8単位、卒業論文・制作は6単位を修得することを卒業要件としています。
- ・これらの専門科目群の中から、82単位以上修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

④単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

⑤専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）で実施します。主にジャーナリズム学を構成する4つの柱（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、説明することができる能力を養成するための科目、社会事象に関する情報・データを収集・処理し、それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成するための科目である「基礎科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）で実施します。

主にジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ、氾濫する情報を複眼的、批判的、論理的に分析し、現代社会における諸問題や実践的な課題を解決すること

ができる能力を養成するための科目，広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目である「基幹科目」，「発展・応用科目」，「関連科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。



文学部長
高久 健二

はじめに

ご入学おめでとうございます。専修大学文学部の教職員一同、みなさんを心より歓迎いたします。

専修大学の文学部には、日本文学文化学科、英語英米文学科、哲学科、歴史学科、環境地理学科、ジャーナリズム学科の6つの学科があります。各学科では工夫を凝らしたカリキュラムが展開されており、幅広い教養を身につけるとともに、研究を深めていくための多種多様な科目が充実しています。4年間にこれらの科目を計画的に履修して、単位を修得し、各自の学修・研究の成果を卒業論文（卒業研究、卒業論文・制作）としてまとめて卒業することになります。そのための指針を示したものが、このガイドブックです。

大学の授業は高校とは大きく異なっています。本書の第1章には、授業科目、卒業までに修得すべき単位数、履修計画の立て方、履修登録の方法、試験と成績などについて解説されていますので、まず専修大学におけるカリキュラムの基礎をしっかりと理解してください。第2章には、アカデミックスキルを修得して専門的な研究へとスムーズに移行していくための「社会知性基盤科目」、幅広い教養を身につけるための「教養科目」、グローバル化に対応する国際的なコミュニケーション能力を修得するための「外国語科目」について解説されています。これらは主として1～2年次に履修する科目群です。第3章には、各学科の特色、卒業要件、専門科目を含めた履修方法などについて科目一覧とともに記されています。第4章と第5章には、文学部で取得できる様々な資格について説明されています。本書を熟読したうえで、まず大学4年間の目標とそこに到達するまでの計画を立ててみましょう。その計画に沿って授業の履修計画を立ててください。大学生の学びの場は、大学での授業だけとは限りません。研究資料の収集、フィールドワーク、芸術鑑賞、創作活動、語学留学、資格取得、インターンシップなど学外での活動にも目を向けましょう。これらの目標や計画は大学で様々なことを学びながら変化していくかもしれないので、常に見直していくことが大切です。

文学部の各学科では、多様な専門科目とともに、ゼミナールが開講されています。ゼミナールは専門分野を深く研究する場であり、文学部で最も重要な授業といえます。ゼミナールでの学修の集大成として4年次の卒業論文（卒業研究、卒業論文・制作）があります。通常の講義科目以外に実践的なスキルを身につけるための実習や調査科目が開講されていることも文学部の特徴です。また、他学科の授業であっても多くの専門科目が相互履修できるので、異なる分野の研究に触れることもできます。さらに本学の国際交流センターでは、海外の大学等と協定を結び各種の留学プログラムが設けられており、様々な国へ短期・中期・長期の留学が可能です。これらの特色を理解したうえで、履修計画を立てるとさらに充実した4年間になることでしょう。文学部のカリキュラムは学生の主体的な探求心を重視して自由度が高くなっています。みなさんの積極的な参加に期待しています。

目 次

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	3
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	5
はじめに	23
第1章 卒業までに何を学ぶか	
I 大学の授業科目	31
1 専修大学の学士課程教育	31
2 専修大学の科目ナンバリング	32
3 専修大学の数理・データサイエンス・AI教育	35
4 全学公開科目	37
5 授業科目の種類	38
6 単位制と履修年次指定制	38
7 単位の考え方と算定基準	38
8 オンライン授業による修得単位の上限について	38
II 大学卒業の要件と科目の履修	39
1 大学卒業の要件	39
2 履修計画の立て方	40
3 履修上限単位数	40
4 科目の再履修	41
5 履修モデル	41
III 科目の履修登録	42
IV 試験と成績評価	43
1 試験の種類	43
2 受験上の注意, その他	44
3 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価	45
4 卒業論文, 卒業研究, 卒業論文・制作	45
5 成績評価と通知	46
V 卒業	48
1 卒業見込証明書の発行	48
2 卒業発表	48
第2章 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目の学び方	
I 社会知性基盤科目	51

S i 基礎科目	51
S i 応用科目	56
II 教養科目	57
人文科学基礎科目	57
社会科学基礎科目	59
自然科学系科目	60
保健体育系科目	63
III 外国語科目	65
英語	65
英語以外の外国語	69
海外語学研修	72
留学プログラム	73
IV 外国人留学生の特例履修科目	77
V 単位互換科目	78

第3章 専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか	81
-------------	----

日本文学文化学科

I 日本文学文化学科の特色	82
II 卒業要件と科目の履修方法	83
1 卒業要件	83
2 科目の履修方法	84
文学部日本文学文化学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目一覧, 単位互換科目	89
文学部日本文学文化学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目一覧, 単位互換科目	90
文学部日本文学文化学科専門科目一覧	91

英語英米文学科

I 英語英米文学科の学生のために	93
1 英語英米文学科の特色	93
2 1年次の履修に当たって	94
3 コース分けについて	95
II 卒業要件と科目の履修方法	95
1 卒業要件	95
2 科目の履修方法	97
文学部英語英米文学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	104
文学部英語英米文学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	105

文学部英語英米文学科（英語コミュニケーションコース）専門科目一覧	106
文学部英語英米文学科（英語文化コース）専門科目一覧	107

哲学科

I 哲学科の特色	109
II 卒業要件と科目の履修方法	111
1 卒業要件	111
2 科目の履修方法	112
文学部哲学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	117
文学部哲学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	118
文学部哲学科専門科目一覧	119

歴史学科

I 歴史学科の特色	121
II 卒業要件と科目の履修方法	122
1 卒業要件	122
2 科目の履修方法	123
文学部歴史学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	129
文学部歴史学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	130
文学部歴史学科専門科目一覧	131

環境地理学科

I 学科の目的・課題・方法	133
II 卒業要件と科目の履修方法	134
1 卒業要件	134
2 科目の履修方法	135
III 履修モデルと資格認定手続き	140
1 履修モデル	140
2 資格の取得のための条件と手続き	142
文学部環境地理学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	143
文学部環境地理学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	144
文学部環境地理学科専門科目一覧	145

ジャーナリズム学科

I ジャーナリズム学科の特色	147
II 卒業要件と科目の履修方法	148
1 卒業要件	148
2 科目の履修方法	150
文学部ジャーナリズム学科社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧	155

文学部ジャーナリズム学科(外国人留学生)社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧 …	156
文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧 ……………	157
文学部専門科目一覧 ……………	159
第4章 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について	
I 科目設置の趣旨と教育の目的 ……………	167
II 文学部で取得できる資格について ……………	168
III 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目 ……………	169
IV 文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格 ……………	175
V 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料 ……………	177
第5章 資格課程について	
I 教職課程 ……………	189
II 司書・司書教諭・学校司書課程 ……………	190
III 学芸員課程 ……………	190
IV 大学院教職課程 ……………	191
V 科目等履修生 ……………	191
付 録	
I 専修大学履修規程 ……………	195
II 専修大学定期試験規程 ……………	198
III 定期試験における不正行為者処分規程 ……………	202

第1章

卒業までに何を学ぶか

- I 大学の授業科目
- II 大学卒業の要件と科目の履修
- III 科目の履修登録
- IV 試験と成績評価
- V 卒 業

I 大学の授業科目

1. 専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんは、これからの4年間を専修大学で過ごし、所定の要件を満たすことで、各学科の専攻分野を付した「学士」として卒業し、社会への第一歩を踏み出します。この入学から社会への第一歩を繋ぐ「学び」の道りが学士課程であり、そこでの学びが「学士課程教育」です。この学士課程教育は、中学や高校の勉強とは異なります。大学では、一人ひとりが「学び」を選択し、自ら研鑽することが求められます。つまり、受動的・画一的な「学習」ではなく、能動的・自律的な「学修」が必要となります。

専修大学の学士課程教育は、「社会知性基盤科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」「単位互換科目」の5つの科目区分で構成され、各学科の教育課程（カリキュラム）は、みなさんが目的に沿って学修を進め、「社会知性の開発」が実現できるように設計されています。これらの科目区分にはそれぞれの役割があり、それを理解することが学修成果の向上につながりますので、その概略を紹介します。

社会知性基盤科目では、学士課程教育の土台として、現代社会に不可欠な力を身につけます。1年次に学ぶ**専修大学入門ゼミナール**では、大学での学修と生活に適応し、大学で求められる基礎的知識と技能を修得します。この授業科目を通して、専修大学生としての心構えを得ることができるでしょう。そのほかにも、英語による授業や海外研修などで世界に視野を広げる**グローバルスタディ**、複数の学問領域を横断的に学ぶ**分野横断科目**など、社会知性の基盤となる授業科目が設けられています。

教養科目は、「人文科学基礎科目」「社会科学基礎科目」「自然科学系科目」「保健体育系科目」で構成され、8学部20学科を擁する専修大学ならではの多彩な授業科目が開講されており、興味を持った分野を深く学ぶことができます。外国語科目は、「英語」「英語以外の外国語」「海外語学研修」で構成され、グローバルな教養を身につけます。外国語の重要性については、みなさんも十分に理解していることでしょう。専門科目は、それぞれの専攻分野について、基礎から応用へと段階的に学修できるように配置されています。これらの授業科目を履修することで、興味や関心を深化・発展させ、専門分野を多角的に考察し、社会に通用する力を養います。

このような専修大学の学士課程教育を通じて、所属する学部・学科に関わらず、社会に出てからも必要とされる知識や技能を学び、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを修得します。そして、一人ひとりの「学修」を将来の持続的成長につなげていくこととなります。

みなさんの将来は、無限の夢と希望に満ち溢れています。しかし、内外の環境は急速に変化しており、それらに対応しつつ世界に飛翔するためには、国際的通用性を備え、先見性・創造性・独創性に富み、積極的に社会を支え、改善する意欲と能力が求められます。「学び」は生涯続く長い道のりです。高い志を持ち続け、今の時代を生き抜くために、専修大学での学びを通して人生の礎を築いてください。

2. 専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。専修大学では科目ナンバリングを6桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」によって表しています。コースコードを活用することで、学びたい分野で開講されている授業科目とそのレベルを把握することができます。各授業科目の詳細な内容は講義要項（シラバス）で確認することができるため、興味、関心を最大限に活かした、より体系的な履修計画を立てることができます。

なお、コースコードは講義要項（シラバス）に表示されるほか、単位修得学業成績証明書（和文・英文）および二種複合証明書に記載されます。コースコードは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目ごとに固定されています。

1. 「科目ナンバリング」の意義

みなさんが履修する授業科目を検討する際に、授業科目の分類や、標準的な学修の段階・順序を理解したうえで選択することが可能になります。

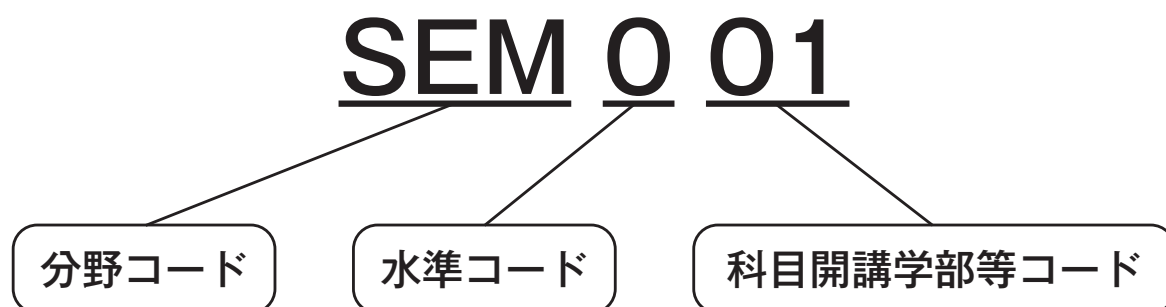
また、コースコードの構成は全学部で統一されているため、他学部で開講されている全学公開科目を履修する際にも、学問分野や授業科目の水準など、開講科目の位置づけを容易に把握することができ、主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

そして、コースコードは学外にも公開されているため、国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や、在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する際の単位互換などを円滑にすることが期待できます。

2. 「コースコード」の構成

「コースコード」は、「①分野コード（科目の学問分野を表す）」「②水準コード（科目のレベル、水準や難易度を表す）」「③科目開講学部等コード（開講学部や科目区分等）」から構成され、授業科目毎にコードが付されます。

例えば、社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合、次のようなコースコードが付されます。



<各コードの意味>

①分野コード 専修大学で開講している授業科目を113の分野に分け、3桁のアルファベットで表します。

科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード
会計学	ACC	地理学一般	GGR	数理科学	MAT
アラビア語	ARA	情報学一般	GIN	学芸員課程	MCP
考古学	ARC	グローバルスタディ	GLS	経営情報学	MNI
芸術一般	ARL	心理学一般	GPS	金融・ファイナンス	MOF
地域研究	ARS	ギリシャ語	GRK	新領域法学	NFL
美学・芸術諸学	ASA	アジア史・アフリカ史	HAA	自然科学一般	NSC
文化財科学・博物館学	CAS	ヨーロッパ史・アメリカ史	HEA	海外語学研修	OSS
中国語	CHI	人文学一般	HMN	他大学等の授業科目	OUC
中国文学	CHL	思想史	HOT	財政・公共経済	PFM
民法法学	CIL	史学一般	HSG	哲学一般	PHE
臨床心理学	CLP	人文地理学	HUG	自然地理学	PHG
商学	CME	人間情報学	HUI	計算基盤	POI
キャリア科目	CRE	人体病理学	HUP	政治学	POL
刑事法学	CRL	情報通信技術	ICT	精神神経科学	PSS
文化人類学・民俗学	CUA	国際開発問題	IDG	公法学	PUL
発達心理学	DEP	分野横断科目／融合領域科目	IDS	地誌学	REG
デザイン学	DES	国際経済政策	IEP	宗教学	RES
経済史	ECH	国際法学	ILA	ロシア語	RUS
経済政策	ECP	インドネシア語	IND	社会科学一般	SCS
経済統計	ECS	国際関係論	INR	ゼミナール	SEM
理論経済学	ECT	情報システム	INS	空間情報科学	SIS
教育心理学	EDP	イタリア語	ITL	学校司書課程	SLP
教育工学	EDT	日本文化	JAC	特別支援教育	SNE
教育学	EDU	日本文学	JAL	社会学	SOC
英語一般	ENG	日本語教育	JLE	社会情報学	SOI
英語学	ENL	日本語学	JLI	社会法学	SOL
経済学・政治経済学	EPE	日本史	JPH	社会心理学	SOP
環境政策・環境社会システム	EPS	日本語	JPN	特殊講義	SPL
英語 読む・聴く	ERL	ジャーナリズム	JRN	スペイン語	SPN
英語 話す・書く	ESW	コリア語	KOR	スポーツ科学	SPS
倫理学	ETH	ラテン語	LAT	社会システム工学	SSE
実験心理学	EXP	司書課程	LCP	統計科学	STS
美術史	FAH	図書館情報学・人文社会情報学	LHS	SWP 科目	SWP
外国語教育	FLE	英米・英語圏文学	LIE	教職課程	TCP
フランス語	FRE	文学一般	LIG	卒業論文・卒業研究	THE
基礎法学	FUL	言語学	LIN	司書教諭課程	TLP
ジェンダー	GDE	論理学	LOG	世界の言語と文化・言語文化研究	WLC
ドイツ語	GER	経営学	MAN		

- ②水準コード 学士課程4年間における各授業科目の位置づけ（学修段階）に基づいて、1桁の数字で表します。授業科目に設定されている配当年次とは異なりますので、3・4年次に水準の低い科目を履修することも、1・2年次に高い水準の科目を履修することもあります。

水準コード	学 修 段 階
0	転換教育および導入教育を目的とした科目
1	学問分野の初級レベル，入門的位置づけの科目 (主に大学1年次を想定したレベル)
2	学問分野の中級レベル，基礎的位置づけの科目 (主に大学2年次を想定したレベル)
3	学問分野の上級レベル，発展的・応用的位置づけの科目 (主に大学3・4年次を想定したレベル)
4	学士課程で学修する最高水準の科目 (主に4年次を想定したレベル)
9	他大学等で開講する科目やレベル分けが困難な科目

- ③科目開講学部等コード 科目を開講している学部等を2桁の数字で表します。

科目開講学部等コード	科 目 開 講 学 部 等
01	社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目
02	資格課程科目
03	SWP科目
04	単位互換科目
11	経済学部
12	法学部
13	経営学部
14	商学部
15	文学部
16	ネットワーク情報学部
17	人間科学部
18	国際コミュニケーション学部

3. 専修大学の数理・データサイエンス・AI教育

近年、AI（人工知能）は私たちの生活に深く浸透し、スマートフォンの音声アシスタント、SNSのレコメンド機能、地図アプリの経路予測など、日常的に活用されています。また、大学生活のスタートラインに立った皆さんの中には、受験勉強でAIを活用した経験がある方も多いのではないのでしょうか。例えば、生成AIを使って英作文の添削をしたり、数学の解法を調べたり、AIは受験勉強のパートナーとしても活躍しています。

内閣府は2025年にAI戦略の中間とりまとめを発表し、AIを活用した社会の構築を国家戦略として位置づけました。AIは経済成長の原動力であると同時に、倫理・プライバシー・安全保障の面で課題も生み出します。政府は、AIの透明性や安全性を確保するためのガイドライン整備、国際的なルール形成への参画、そしてAI人材の育成を柱とした政策を推進しています。

同時に、大学教育も大きな転換点を迎えています。文部科学省は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の導入を推進しており、文系・理系を問わず全ての大学生が学習することを勧めています。

専修大学では、こうした流れを受け「Si データサイエンス教育プログラム」を全学部で展開しています。この「Si」とは「社会知性（Socio-Intelligence）」の略で、AI・データサイエンスを通じて社会課題の解決に貢献できる人材の育成を目指すものです。このプログラムは文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベル及び応用基礎レベル双方に認定されています。

「Si データサイエンス教育プログラム」の基礎リテラシーレベルは、基礎的な情報処理能力、データ分析力、情報倫理の修得を目標としています。また、応用基礎レベルは、専門分野の学問とデータサイエンスの融合から新しい知の創出を目指し、基礎リテラシーレベルの内容をさらに深く・広く展開して学べます。

専修大学文学部では、基礎リテラシーレベル、応用基礎レベルの修了要件を次ページの表のとおり定め、修了者には世界共通の技術標準規格に基づいて発行されるデジタル証明書「オープンバッジ」を授与します。

【基礎リテラシーレベル修了要件】

学部	学 科	科 目	単位数	必修・ 選択必修	修了要件
文	日本文学文化	データサイエンス入門	2単位	○	2単位
	英語英米文	データサイエンス入門	2単位	○	2単位
	哲	データサイエンス入門	2単位	○	2単位
	歴史	データサイエンス入門	2単位	○	2単位
	環境地理	データサイエンス入門	2単位	○	2単位
	ジャーナリズム	データサイエンス入門	2単位	○	2単位

【応用基礎レベル修了要件】

学部	学 科	科 目	単位数	必修・ 選択必修	修了要件	応用基礎レベ ル修了要件
文	日本文学文化	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	
	英語英米文	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	
	哲	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	
	歴史	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	
	環境地理	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	
	ジャーナリズム	データ分析入門	2単位	○	2単位	8単位修得
		データサイエンス実践	2単位	○	2単位	
		AI基礎	2単位	○	2単位	
		データサイエンス活用演習	2単位	○	2単位	

4. 全学公開科目

(1) 全学公開科目とは

本学では、各学部・学科の教育方針に則して、多様な授業科目を開講しています。このうち、「専門科目」は学部別に開講されているため、他学部で開講している専門科目に興味があっても、以前は履修することができませんでした。

多様な履修希望に応え、他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう、「学部間相互履修制度」が設けられました。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」です。

(2) 公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではありません。どの科目を「全学公開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定めます。

どの科目が「全学公開科目」として履修できるかは、ホームページで公開します。

(3) 講義内容

「全学公開科目」の講義内容を確認したい場合は、当該科目の講義要項（シラバス）を確認してください。講義要項（シラバス）はホームページから確認できます。

(4) 履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修者数の制限を行うことがあります。そのため、その科目担当者の履修許可を得なければ履修することができません。

履修手続・選考等の詳細は、ガイダンスおよびホームページで告知します。

(5) 修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定されます。各学科で卒業要件単位に認定される上限単位は下表のとおりです。

学 科	認 定 上 限 単 位
日 本 文 学 文 化 学 科	28 単位
英 語 英 米 文 学 科	16 単位
哲 学 科	30 単位
歴 史 学 科	28 単位
環 境 地 理 学 科	24 単位
ジャーナリズム学科	24 単位

5. 授業科目の種類

大学で履修する科目は、必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など、次の4種類に分類されます。

- 必修科目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（専門科目一覧では○印で示す）
- 選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目（専門科目一覧では◎印で示す）
- 選択科目……適宜選択履修できる科目（専門科目一覧では△印で示す）
- 必修履修科目……指定された年次に必ず履修しなければならない科目

6. 単位制と履修年次指定制

1つの科目の授業を受け、試験に合格する等の成績評価基準を満たすことで、その科目についての「単位」が与えられます。「単位」とは一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるもので、大学で開講している各授業科目には、科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められています。大学において学修する場合、すべて単位数によって勉強の達成度が計算され、卒業の可否が決定されます。これが単位制です。

また、一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければなりません。これを履修年次指定制といいます。所定の年次で単位を修得することが、次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もあります。履修方法は学科によって違いがあるので注意してください。

7. 単位の考え方と算定基準

大学の授業は、講義、演習、実験、実習、実技などによって行われます。そして、単位とは、授業の受講に加え、事前の準備や事後の展開という学修の課程に要する時間を加味したもので、学修の量を数字で表した学修成果の指標といえます。なお、単位数はそれぞれの科目により異なります。

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることとなります。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしています。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければなりません。漫然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてください。

みなさんは、まずこの単位制度を充分理解し、学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に修得していく努力が求められます。

8. オンライン授業による修得単位の上限について

令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大において、本学を含む多くの大学では、インターネット等を介して教室以外の場所でも授業を受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ、普及してきました。

本学では、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、オンライン授業とする授業科目（総授業回数の半数以上をオンラインで行う授業科目）から修得することができる単位数の上限を、専修大学学則（第5条の4第2項）において60単位と定めています。

各授業科目の授業運営方法（対面・オンライン）は、講義要項（シラバス）などに掲載しますが、ガイダンスでのお知らせや、年度ごとに配布する時間割などの資料を確認のうえ、各自でこの上限単位数を踏まえた学修計画を立ててください。

Ⅱ 大学卒業の要件と科目の履修

1. 大学卒業の要件

大学を卒業するためには、(1)4年以上（休学の期間を除いて8年以内）在学すること、(2)所定の科目の単位を修得すること、の2要件が必要です。卒業要件を充たした者は、学位記が授与され、日本文学文化学科、英語英米文学科、哲学科、歴史学科、環境地理学科では学士（文学）の学位を、ジャーナリズム学科では学士（ジャーナリズム学）の学位が与えられます。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**といいます。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており、大学の決めた卒業要件単位を修得しなければ卒業することはできません。

本学における文学部の卒業要件単位は、各学科とも下記のとおりです。各区分ごとの内訳については第2章「社会知性基盤科目と教養科目、外国語科目の学び方」および第3章「専門科目の学び方」を参照してください。

卒業要件単位

学 科	コ ー ス	卒業要件単位					合計
		社会知性 基盤科目	教養	外国語	専門	自由 選択	
日 本 文 学 文 化		2	10	8	76	28	124
日本文学文化(外国人留学生)		2	10	8	76	28	124
英 語 英 米 文	英語コミュニケーション	2	10	4	86	22	124
	英 語 文 化	2	10	4	74	34	124
英語英米文(外国人留学生)	英語コミュニケーション	2	10	8	86	18	124
	英 語 文 化	2	10	8	74	30	124
哲		2	10	8	74	30	124
哲(外国人留学生)		2	10	8	74	30	124
歴 史		2	10	8	76	28	124
歴史(外国人留学生)		2	10	8	76	28	124
環 境 地 理		2	10	8	80	24	124
環境地理(外国人留学生)		2	10	8	80	24	124
ジャーナリズム		0	10	8	82	24	124
ジャーナリズム(外国人留学生)		0	10	8	82	24	124

2. 履修計画の立て方

それぞれの個性と志向に応じて、4年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で、各年度の具体的な履修計画を立ててください。

ただし、大学生活全体の大枠を考えるとと言っても、入学当初から上級年次の選択科目の履修計画をたてることは難しいでしょう。なぜなら、学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断ができるようになるからです。しかし、各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかは、あらかじめ考えておく必要があります。この際、下級年次で比較的多く、上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明です。とくに4年次には卒業論文、卒業研究、卒業論文・制作に取り組み、就職活動等があるため、あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよいでしょう。このように計画することによって上級年次になってから、余裕をもって広い範囲から選択科目を選び、また自主的な学修を深くすすめることができるようになります。

科目の選択に際して、社会知性基盤科目と教養科目、外国語科目については、第2章の「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の学び方」をよく読み、また、専門科目については、学科・コースによって異なるので、第3章の「専門科目の学び方」をよく読んでください。

履修計画を立てる際の注意事項は次の通りです。

- ① 年度はじめに in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料を確認し、シラバスを活用して各自の履修計画をたてる。
- ② 科目の年次配当を十分考慮し、履修機会を逃さない。
(原則として配当年次以外の履修は認められない。)
- ③ 各年次ごとに相応の単位を修得する。
- ④ 必修科目、選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得するようにする。
- ⑤ 卒業要件単位は、必要な最低修得単位なので、実際にはこれを上回る単位数を履修する計画をたてる。

3. 履修上限単位数

各年次ごとに、履修できる上限の単位数が定められており、文学部では各年次一律に48単位が上限となります。

海外語学短期研修及び資格課程科目については、年間の履修上限単位数には含めません。また、履修上限単位数には、再履修科目も含めます。

4. 科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得するようにしてください。必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には、原則として次の年次にそれらの科目を再履修してください。ただし、次の年次に進級すると、その年次に配当されている必修科目や選択必修科目があり、それらと再履修科目が時間割の上で重複し、両方を同時に履修できない場合があります。もし、そのような場合は、**再履修科目を優先して履修してください**。必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけてください。

なお、この原則は選択科目にはあてはまりません。自らの判断で再履修しても良いでしょう。

不明な点は、各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課文学部窓口にお問い合わせください。

5. 履修モデル

専修大学の文学部ホームページの各学科のページに、「履修モデル」を掲載しているので、履修の際に参考にしてください。ただし、「履修モデル」はあくまで目安です。履修登録をする際には、必ずこの学修ガイドブックに記載されている、自身が所属する学科の「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧」と「専門科目一覧」で、卒業要件が満たせる計画であることを確認してください。

Ⅲ 科目の履修登録

科目の履修登録は、みなさんが考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段です。各自、学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って、その年度に履修する科目を選択し、定められた期日までに登録します。次にあげる注意事項をよく確認し、誤りのないよう履修登録を行ってください。

- ① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合、その年度の授業科目の履修は認められず、単位は修得できない。
- ② 履修登録手続きに関する各種登録方法や重要事項等については、履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および文学部時間割（冊子・データ）で確認すること。
- ③ 一部の科目については、抽選や履修者選抜を行う場合があるので、履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および文学部時間割（冊子・データ）で確認すること。
- ④ 履修登録期間後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。
- ⑤ ゼミナールの所属は原則として、履修する前年に、テーマ、募集人員、選考方法などについてのガイダンスがあり、選考のうえ、決定する。
- ⑥ 同一期間・同一曜日・同一時限においては、1科目しか登録できない。
- ⑦ 前年度までに単位を修得した科目は、指定された科目を除いて再度履修することはできない。
- ⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は、それに従って科目を履修しなければならない。
- ⑨ 同じ名称をもつ科目は、指定された特定の科目を除いて2つ以上は履修できない。
- ⑩ 必修科目は、指定された年次で必ず履修しなければならない。なお、当該年度に修得できなかった場合は、翌年度必ず再履修しなければならない。
- ⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる（一部の科目を除く）。

IV 試験と成績評価

試験は、日常の学修成果を問うものです。したがって試験には、厳正な態度で臨んでください。遅刻や自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意してください。

定期試験は、定期試験規程（p.198を参照）に基づいて実施されるので、規程を熟知し、さらに次の事項についても十分理解してください。※実施の時期は変更することがあります。

1. 試験の種類

(1) 前期試験

前期のみの半期授業科目について7月から8月の間に実施する。

(2) 後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について1月から2月の間に実施する。

(3) 追試験

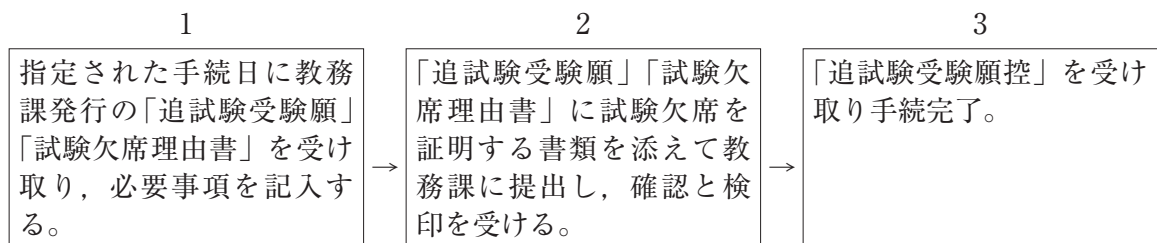
前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、当該授業科目について前期追試験を8月、後期追試験を2月から3月の間に実施する。

なお、本学では、「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう、厳しい基準を設けています。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は、「やむを得ない理由」とは見なされません。

① 追試験受験手続

追試験の受験希望者は、指定された期間に追試験受験願と、試験欠席理由を証明する書類を教務課文学部に提出し、受験許可を得てください。

◎追試験受験手続きの手順



② やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は、次のとおりである。

- | | |
|-------|---------------|
| ・教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| ・就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| ・公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |

・天災その他の災害	被災を証明するもの
・二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・本人の病気又は怪我	医師の診断書
・交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

2. 受験上の注意, その他

(1) 受験について

受験上の注意については、定期試験規程にも定められていますが、さらに次の点にも十分注意してください。

- ① 同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので、自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し、間違いのないようにすること。
- ② 同一科目でも、試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。
- ③ 試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。
- ④ 答案用紙の再交付は行わない。
- ⑤ 試験場内での私語は、不正行為と見なされるので絶対にしないこと。

また、廊下等での私語は、受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

(2) 定期試験時間割

定期試験時間は、授業時間とは異なり、原則として60分です。定期試験時間割は、試験実施前にin Campusでお知らせします。ただし、資格課程科目の試験時間割は、教務課資格課程からのお知らせを確認してください。

【注意】

学生証不携帯者は、いかなる理由があっても受験できません。

ただし、当該試験開始時刻までに教務課窓口申し出た場合は、当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができます。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は、所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがあります。

試験当日は、不測の事態に備えて試験開始30分前には登校し、学生証の携帯と試験場を必ず確認してください。

なお、遅刻をした場合に受験が認められるのは、試験開始後20分までに試験場に到着した場合です。

3. 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては、平常点で成績評価が行われるため、前期試験、後期試験は実施されず、したがって追試験も実施されないものがあります。

平常点で評価される科目の場合、各科目の授業期間を通しての、授業への貢献度や授業での発表内容、レポート、授業の中で実施されるテスト等（注1）によって総合的に成績評価が行われます。

注1）授業の中で実施されるテストは、期末テスト、授業内テスト、中間テスト、小テスト等と呼ばれ、定期試験規程に定められた試験ではないため、追試験は実施されません。

ただし、これらのテストのうち、授業期間の最終週に実施されるものの中には、授業科目担当教員の判断によって、定期試験規程を準用して実施する場合もあり、その授業科目については、追試験が実施されます（追試験を受験するためには、前述の追試験受験手続をとり、受験許可を得ることが必要です）。

4. 卒業論文、卒業研究、卒業論文・制作

① 卒業論文

卒業論文は、文学部（英語英米文学科、ジャーナリズム学科を除く）では必修科目です。卒業論文は4年次で提出し、その審査に合格しなければなりません。卒業論文は、専門的かつ自主的な研究の中核であり、指導教員の指導を受け、その指導による学修の成果として提出するものです。

(1) 卒業論文提出締切

提出締切日は12月中旬とする。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し、期限を厳守してください。

(2) 卒業論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従ってください。

(3) 提出時に携行すべきもの

学生証、卒業論文題目届（題目届、論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要です。）

(4) 口述試験

1月中旬～1月下旬

欠席すると単位は与えられません。この期間はスケジュールを空けておくようにしてください。

② 卒業研究

英語英米文学科の学生は4年次に卒業研究を履修し、提出する必要があります。卒業研究は、指導教員のもと、各自の4年間の学修・研究の成果をまとめるものであり、それぞれの成果にふさわしい形式を選択することが出来ます。詳しくはp. 100の「(d)ゼミナールおよび卒業研究」を参照してください。

③ 卒業論文・制作

ジャーナリズム学科の学生は4年次に卒業論文・制作を履修し、提出する必要があります。

卒業論文・制作は、指導教員のもと、各自の4年間の学修・研究の成果をまとめるものであり、それぞれの成果にふさわしい形式を選択することが出来ます。

(1) 卒業論文・制作提出

提出締切日は12月中旬です。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し、期限を厳守してください。

(2) 卒業論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従ってください。

(3) 提出時に携行すべきもの

学生証，卒業論文・制作題目届（題目届，論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要です。）

(4) 口述試験

1月中旬～1月下旬

欠席すると単位は与えられません。この期間はスケジュールを空けておくようにしてください。

5. 成績評価と通知

(1) 成績評価の方法について

学業成績は，授業科目ごとに行う試験（筆記試験，口述試験，実技試験またはレポート）によって評価されますが，科目によっては，それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や，平常点だけで評価する場合があります。

成績評価は，100点を満点とし，60点以上を合格とします。また，授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（G P）を付与し，G P A（Grade Point Average）を算出します。

(2) 成績評価の区分

評点	評価	G P*	内容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A+	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B+	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C+	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。
履修中止	W	—	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。

※G P = グレードポイント

(3) G P A（Grade Point Average）制度について

G P A制度は，国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので，授業科目ごとの成績評価（本学ではSからFの8段階）に対してグレードポイント（G P）を付与し，この単位当たりの平均を算出した値がG P Aです。具体的な算出方法は次のとおりです。

$$(S \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{ の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{ の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{ の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{ の修得単位数} \times 1.0) + (F \text{ の単位数} \times 0.0)$$

総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）

【GPAに関する各種要件】

- ・ GPAの算出対象となる科目は、卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など、自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。
- ・ 留学等で単位認定された科目（N）は、GPAに算入されない。また、履修中止した科目についても、GPAに算入されない。
- ・ 不合格（F）の科目を再度履修した場合、成績の合否にかかわらず、GPAには最新の評価が反映される。
- ・ GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで表示とする。
- ・ 一度単位を修得した科目を、次学期以降に再度履修することはできない。

(4) 履修中止について

「履修中止」とは、履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる制度です。履修中止申請期間は、前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定されます。日程、手続き方法、その他詳細については、お知らせを確認してください。

なお、履修中止申請をする際には、以下の点に注意してください。

- ①履修中止した授業科目については、当該授業への出席、定期試験の受験、単位の修得はできない。
- ②履修中止した授業科目の単位は、年間の履修上限単位に含まれる。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。
- ③履修中止した授業科目は、GPAに算入されない。
- ④履修中止により、当該年度の履修登録科目がなくなる場合は、履修中止申請が認められない。
- ⑤履修中止申請した授業科目について、履修中止申請期間後に申請を取り下げることができない。

(5) 成績通知について

学業成績の結果は点数で表し、9月（前期科目）および3月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は、大学のホームページを経由して閲覧することができます。

なお、就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には、修得した授業科目のみをSからCの評価で記載されます。併せて、通算のGPAも記載されます（GPAには不合格科目も算入されます）。

※資格試験、留学などの結果により単位を認定する科目もあります。この場合、認定される科目の評価は、点数などで表さず、すべて「N」と記載します。

V 卒 業

1. 卒業見込証明書の発行

就職活動等に際し必要となる書類の1つに**卒業見込証明書**があります。みなさんが3年次までに修得すべき最低限の単位を修得し、4年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類です。企業が、採用の適否を判断する資料の1つとして卒業見込証明書の提出を要求する場合があります。3年次までにしかるべき卒業要件単位を修得することで、卒業見込証明書を発行できます。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき、万全を期して履修計画を立て、勉学に精進してください。

卒業見込証明書の発行条件

発 行 年 次	発 行 条 件
4 年 次	3年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2. 卒業発表

- (1) 卒業が決定した学生については、2月下旬に第1次卒業決定者としてホームページで発表します。
- (2) 2月下旬に行われる追試験の結果、卒業が決定した学生については、3月中旬に第2次卒業決定者として、ホームページで発表します。
- (3) 卒業の可否は、ホームページおよび成績通知書を確認すること。電話での問合せには一切応じません。

第2章

社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目， 単位互換科目の学び方

- I 社会知性基盤科目
- II 教養科目
- III 外国語科目
- IV 外国人留学生の特例履修科目
- V 単位互換科目

I 社会知性基盤科目

社会知性基盤科目

大学での学びは、高校までとは異なり、自らの関心や目的に応じて主体的に取り組むことが求められます。そのためには、講義を聴くだけでなく、図書館やパソコンを活用して情報を収集し、必要に応じてフィールドワークを行い、学んだ内容を他者に伝え、レポートや論文にまとめる力が必要です。

「社会知性基盤科目」は、専修大学が掲げる「社会知性の開発」に由来しています。学士課程教育の土台として、大学での学修に必要な力と、現代社会で求められる力を身につけるために設けているものであり、「S i 基礎科目」と「S i 応用科目」の二つに区分されています。

この社会知性基盤科目を通じて、みなさんは大学での学びの基礎を築き、情報化・複雑化が進む社会で活躍するための力を身につけていきます。社会知性の開発の第一歩として、積極的に学んでください。

1. S i 基礎科目

(1) 専修大学入門ゼミナール

専修大学入門ゼミナールは、みなさんが高校生活から大学生活への転換を図り、専修大学の学生としての自覚を持ち、大学での学修に必要な基本的なスキル（技法）を身につけることなど、以下の3点を目標としています。

第1に、大学で学ぶことの意味を十分に理解することです。大学の学修では、将来の展望も踏まえながら、主体的かつ積極的に学びを深める姿勢が求められます。

第2に、専修大学の学生としての自覚を持つために、専修大学の歴史を学ぶことです。これから4年間を過ごす「学びの庭」である専修大学の成り立ちと、それを築いてきた先人たちの努力の歩みを知ることは、専修大学で学ぶ意義を理解することにつながります。

第3に、アカデミックスキルを修得することです。具体的には、「講義の聴き方」「資料の収集方法」「学修成果の伝え方」「討論の方法」「成果のまとめ方」などを学びます。たとえば、講義でのノートの取り方、文献や資料の探し方、報告の方法（レジユメの作成）、討論の進め方、レポート・論文の書き方など、大学における学修方法を身につけていきます。

専修大学入門ゼミナールは、これらのことを達成するために、1クラス25名前後の少人数で実施されます。学修のための入門科目であると同時に、みなさんが新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った仲間や教員との交流を通じて、語り合い、励まし合いながら、大学生活を充実させるための基礎づくりの場でもあります。

なお、ジャーナリズム学科において専修大学入門ゼミナールは、単位の修得は義務づけられてい

ませんが、必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合次年度に履修することはできません。

(2) データ分析入門

大学の講義では分野によらず、データを根拠として推論された結果が語られることが多くあります。そして、社会ではさまざまな意思決定にデータの分析結果が用いられます。みなさんも、新聞やテレビの報道などでさまざまな調査データについての分析結果を、見たり聞いたりすることがあるでしょう。犯罪の件数、内閣の支持率、ある病気による死亡率、企業の売上高、さらにそれらの経年変化など、多くの調査結果が報道で取り上げられます。データによって示される結果は、私たちと身近なところで関係があることから、一見すると関係がないとも思えることまであります。たとえば、読んで味わう文学作品でさえ、作品中の表現の頻度や表現の間の関係をもとに数量的に分析されることがあります。

発表されたデータに基づく指標や表・グラフを見聞きして驚くことがあるかもしれません。もし発表が自分の感覚とずれている場合、自分が持っている指標のイメージが実は間違っていたり、そもそも発表する側が間違った印象を与える指標や表・グラフを（時には故意に）用いていたっている可能性があります。

したがって、データが示すことを正しく読み取る力を身につけておかななくてはなりません。他者が発表した分析結果を批判的に評価する力も重要です。さらに、自分がデータに基づいた報告を行う立場になったときに、相手にその内容を効果的に伝える表・グラフを作成することができれば、報告書やプレゼンテーションはより良いものになるでしょう。このようにデータを扱う基本的な力をデータリテラシーと呼びます。データリテラシーを身につけるために、**データ分析入門**が設置されています。

なお、**データ分析入門**は1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

(3) データサイエンス入門、データサイエンス実践、AI基礎、データサイエンス活用演習

専修大学では、S i データサイエンス教育プログラム基礎リテラシーレベルとして、**データサイエンス入門**を設置しています。**データサイエンス入門**では、S i データサイエンス教育プログラムの学修内容、データサイエンスの基本的な考え方、AIが社会でどのように利用されていて、倫理的な側面を含む留意点について、実習を行う授業と動画で学びます。また、データサイエンスの基本的な事項について表計算ソフトウェアを通して学びます。なお、**データサイエンス入門**は他の科目の学修や実社会での活動に必要なスキルですので、積極的に学修することを推奨します。

基礎リテラシーレベルの内容をより深く・広く学びたい学生のために、S i データサイエンス教育プログラム応用基礎レベルの科目として、**データサイエンス実践**（1～4年次配当）に加え、**AI基礎**（2～4年次配当）、**データサイエンス活用演習**（2～4年次配当）を設置しています。

S i データサイエンス教育プログラムの修了要件に定められた科目（詳細は、数理・データサイエンス・AI教育のページを参照）の単位を修得することで修了が認められ、データやAIを活用するためのスキル（情報・データリテラシー）を身につけることができ、就職活動でも利用可能な修了証を得られます。

<p style="text-align: center;">データサイエンス入門の学修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専修大学の情報システムの利用法 ● 社会におけるデータ・AI利活用とデータ・AI利活用における留意事項 ● 表計算ソフトウェアを利用した基本的なデータ分析 <ul style="list-style-type: none"> > データの集計（適切な集計方法） > 計算式による分析方法の指定法 > さまざまなグラフによる可視化や不適切なグラフ ● e-Stat（政府統計の総合窓口）などのオープンデータを利用した分析・レポートの作成 	<p style="text-align: center;">データサイエンス実践の学修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 数値、文字などの表現方法 ● 表計算ソフトウェアを使って、相関関係などの統計分析、回帰分析 ● 時系列データの分析 ● 表計算ソフトウェアを通して、微積分・行列などの学修 ● プログラミング（Python）の学修 ● アンケート調査データの分析（クロス集計、可視化、テキスト分析）
<p style="text-align: center;">AI基礎の学修内容</p> <p>AIを利用・活用するための実践的な知識の基礎部分を理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AI発展の経緯や概念理解 ● AIの基礎理論・技術・手法の理解 ● AI技術の活用分野の理解 ● AI活用に必要な統計基礎知識の理解 ● AI活用に必要な基本数理の理解 ● AI活用に必要な適用方法論の修得 ● AI活用に関連する法知識・情報管理 ● AI活用に関連する認定資格 	<p style="text-align: center;">データサイエンス活用演習の学修内容</p> <p>データサイエンス活用のための一般知識を総括。グループワークとして、具体的なテーマを選定して、活用のための推進企画を立案し、相互発表・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データサイエンス活用プロジェクト推進方法論の修得 ● データサイエンス活用のために必要な知識を総括・補完 ● 生成系AIも活用しながら、各グループワークチームで、企画書策定・発表

(4) キャリア教育科目

S i 基礎科目に位置付けられているキャリア教育科目は、「大学生活において、さまざまな選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか、卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには、将来どのような働き方をしたいか、そのために大学4年間をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し、デザインすることが必要です。

そもそも、「キャリア(carrier)」の語源はラテン語で、「車道」や「車輪の跡(轍)」などを意味しています。ですから、ある人のキャリアとは、その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から、キャリアは「個人のさまざまな立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義さ

れています。一方、「デザイン」は、「設計」や「構想」を指します。したがって、キャリアをデザインするとは、「自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば、過去の人生を踏まえながら、未来の自分の生き方、働き方や学び方について深く考え、そのために現在自分は何をすべきかを認識すること、となります。そのためにキャリア教育科目では5つの科目を用意し、体系的にキャリアを形成できる仕組みを整えています。

①キャリア入門

キャリア入門は、自分の性格や価値観を知ることから始め、社会の成り立ちや具体的な仕事の内容、働くことにまつわる法律などを知ること、さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが、主な目的です。1年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで、将来に対する漠然とした不安感を取り除き、自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし、充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。**キャリア入門**を受講すると、大学内外での学びを意識しながら、キャリアに対する知識を獲得し、職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。あるべき自分を早い段階で意識し、己の進むべき道を主体的に選択できるよう、キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお、キャリア入門は、1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

②キャリア科目1（キャリア開発）

企業の採用活動や業界・企業研究の方法、将来働き続けるために必要な姿勢・行動を、ゲスト講師からの講話を通じて学んでいきます。自分のこれからのキャリアについて考え、大学生活ですべきことを計画し、実践できるようになることを目的に授業を実施します。

③キャリア科目2（キャリア研究）

企業研究を通じて、企業が抱える問題を把握し、問題解決のための情報収集・整理の基本ステップを学びます。ゲスト講師からの課題提示を受けて、課題達成のためのチーム活動から解決策のプレゼンテーションを実施します。

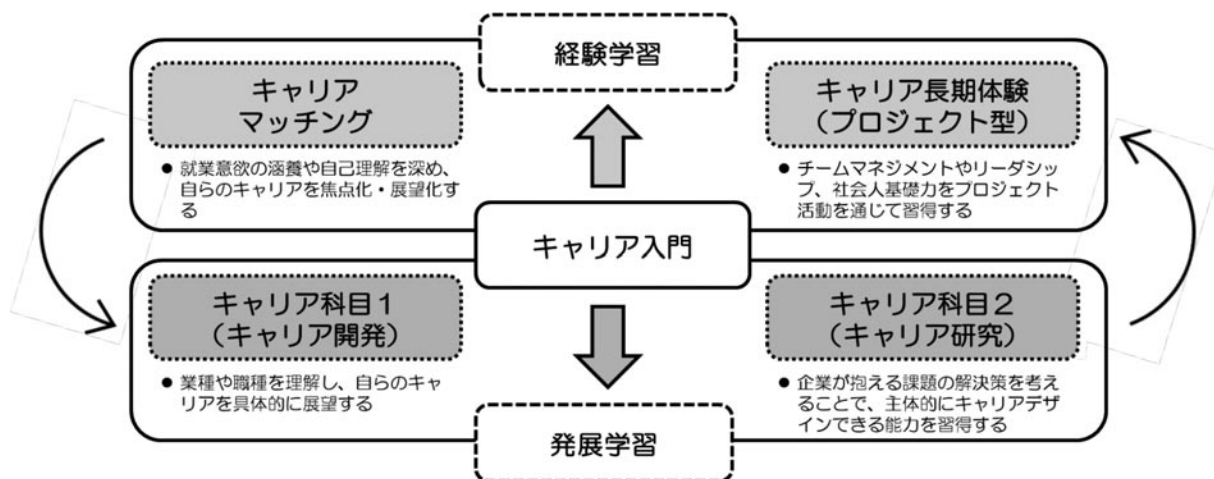
④キャリアマッチング

夏期休暇期間中に実施されるキャリアデザインセンターの就業体験プログラムに参加した学生が履修することができる科目です。授業では就業体験の振り返りからスタートし、自身のキャリアと

向き合い、学生生活と卒業後の目標設定を行います。また、受講者間のディスカッションを通じて、他業種や他職種の理解を深め、社会理解を促します。

⑤キャリア長期体験（プロジェクト型）

キャリアデザインセンターが実施するPBL（Project Based Learning）プログラムのプロジェクト活動と連動した科目です。講義では、チームを牽引するために必要となるスキルや、他者理解を深めるスキル、社会人基礎力を修得することを目的とした授業を実施します。



(5) グローバルスタディ

グローバルスタディは、「社会知性」が定義する「地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」の修得を目指す授業科目です。多様な文化や価値観を理解し、グローバルな課題への関心と理解を深めることで、異なる背景を持つ人々と協働する姿勢を養うことが期待されます。

授業はさまざまな形式で開講され、内容に応じて「グローバルスタディ（〇〇〇〇）」のようにテーマを明示する場合があります。括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます。また、括弧が付されていない場合には、担当教員が異なれば、それぞれ履修することができます。同一年度での複数履修も可能です。なお、修得単位数に上限は設けられていません。

具体的には、海外客員教授による英語での授業や、国際交流センターが主催する「東南アジア・スタディツアー」参加者への単位認定など、実践的かつ多様な国際教育活動と連携して展開されます。

グローバルスタディは、語学学習や異文化理解にとどまらず、世界とつながる知性と感性を育てるための学びです。国際社会の一員として、他者と共に課題を解決し、より良い未来を築く力をも身につけるために、この授業科目を積極的に活用してください。

2. S i 応用科目

S i 応用科目は、「社会知性の開発」を実践するために設けられた、より発展的な学びの場です。現代社会の複雑な課題に向き合うためには、学問の枠を越えて柔軟に思考し、主体的に取り組む姿勢が求められます。こうした力を養うことが、S i 応用科目の目的です。

この科目区分には、**分野横断科目**と**S i ゼミナール**が設置されています。

分野横断科目では、文理の枠を越えた学際的なテーマや、STEAM 教育（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）に関連する内容など、複数の領域を横断する視点から現代的な課題にアプローチします。開講される各授業には、「分野横断科目（○○○○）」のようにテーマが明示され、その表記が異なる場合には、それぞれ履修・修得することができます。

S i ゼミナールは、少人数で行うゼミナール形式の授業科目です。担当教員の専門分野に関連したテーマのもと、学生同士の発表や討論を通じて、テーマに対する理解を深め、主体的に思考する力を養います。学部横断的な開設方法を特徴とし、学部の異なる学生同士と一緒に学ぶことのできる科目です。学際的なテーマが設定されることが大きな特徴で、専門科目のゼミナールと重複して履修することも可能となっており、副専攻的な位置づけとすることもできます。授業では、学生が自ら調べ、考え、発信することで、論理的思考力や問題解決力を身につけるとともに、自己設計・管理力などが磨かれていきます。関心のあるテーマに取り組み、学問的な視点を広げるとともに、社会の課題に対して自らの考えを持ち、発信できる力を身につけることが期待されます。

Ⅱ 教養科目

教養科目の位置づけと目的

教養科目は専門科目と併せてS i 基礎科目で身につけた基本的な力を用いて、さらに知識を広げ、それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また、専門科目で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。教養科目は専門科目とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ、ストレスも多くなっています。このような時代には、バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会、身体や自然への知識と理解、またそこから得られる国際的な広い視点は、複雑な社会で生きるための基礎となります。

教養科目の学び方

教養科目のうち、「人文科学基礎科目」と「社会科学基礎科目」は、1・2年次で履修します。科目ナンバリング、講義要項（シラバス）を参考にしながら、自分の学部・学科の専門性を考慮して、履修することが望まれます。「自然科学系科目」と「保健体育系科目」は、講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。ただし、教室定員によって履修者を抽選で決定することがあります。

（1）人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように、大きい枠組みでは、文学・歴史学・哲学・芸術学・文化人類学・ジャーナリズム学・心理学に分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので、みなさんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では、これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられているのでしょうか。それは、これらの学問がいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。人文科学は、具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする、そのような領域です。そして、人間の営みはさまざまですから、それに応じて多種多様な学問が生まれるのです。

人文科学の領域からは複数の科目を履修していただくことを推奨します。そうすることによって、さまざまな人間観や世界観、歴史、多文化、異文化についての関心を広げること、そして、多面的なもの見方に立ち、日常生活での人間性に関わる諸問題の解決に取り組むことができるようになります。

ます。ここに人文科学領域の、単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり、これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学基礎科目の学び方

- ・人文科学基礎科目は、1・2年次に履修します。
- ・科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。しかし、その場合でもその科目の到達目標は同じです。
- ・個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、人間の営みのさまざまな側面を知り、自分とは違った観点をもつことができるようになるためには、一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の学問領域から履修することが望まれます。

人文科学の学問領域と人文科学基礎科目の設置科目

人文科学の学問領域	人文科学基礎科目の設置科目
文 学	日本の文化 日本の文学（日本文学文化学科以外） 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待（英語英米文学科以外）
歴 史 学	歴史の視点（歴史学科以外） 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化
哲 学	哲学（哲学科以外） 倫理学（哲学科以外） 論理学入門（哲学科以外） ことばと論理（哲学科以外）
芸 術 学	芸術学入門
文 化 人 類 学	異文化理解の人類学
ジャーナリズム学	ジャーナリズムと現代（ジャーナリズム学科以外）
心 理 学	基礎心理学入門 応用心理学入門

(2) 社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業、国家、家族、地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気がきます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与えあっているのかを理解する学問です。

自分が生きている社会ですから、理解できていると思いついてしまったり、先入観にとらわれて誤認したりすることもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、そして、多面的なものの見方に立って、一市民として、社会生活上の諸課題の解決に取り組むことができるよう、表にあるような科目を設置しています。

社会科学基礎科目の学び方

- ・社会科学基礎科目は、1・2年次に履修します。
- ・科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。しかし、その場合でもその科目の到達目標は同じです。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、講義要項（シラバス）で確認してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で、そのためには、一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の学問領域から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎科目の設置科目

社会科学の学問領域	社会科学基礎科目の設置科目
社会科学全般	社会科学論 社会思想
経済学	経済と社会 現代の経済
法学	日本国憲法 法と社会
政治学	政治学入門 政治の世界
経営学	はじめての経営
商学	マーケティングベーシックス 企業と会計
教育学	教育学入門 子どもと社会の教育学
地理学	地理学への招待（環境地理学科以外）
社会学	社会学入門 現代の社会学
情報学	情報社会

(3) 自然科学系科目

専修大学における自然科学系の科目は、みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むこと』を目的としています。なぜ社会科学・人文科学系の学部を専攻するみなさんが、自然科学系科目を受講する必要があるのでしょうか。

現在、私たちは、地球温暖化、エネルギー問題、安全性や倫理性に関する問題（放射性物質の取り扱いや環境汚染物質の問題、遺伝子工学技術に関する倫理的な問題など）に直面しています。みなさんが、将来どのような職業に就いたとしても、自然科学の視点からの知識や考え方、客観的根拠に基づき論理的に結論まで導く力は必要になるでしょう。

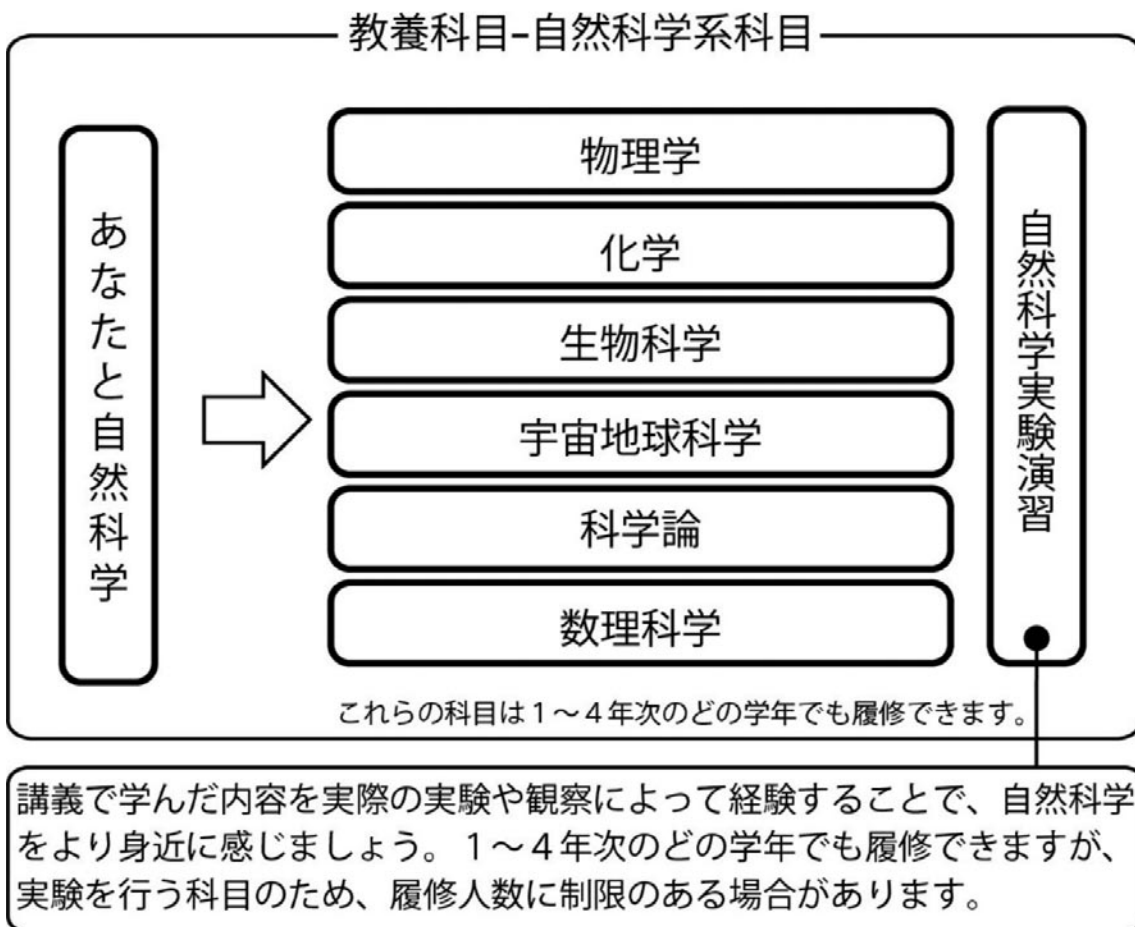
あなたと自然科学は、みなさんの自然科学に対する思考力・探究力・論述力を高め、みなさんと自然科学の関係を知るための起点となる科目として設置されます。ここで学んだことは、他の自然科学系科目に発展的につながっていきます。この科目で自然科学に対する興味・関心を深め、さらに学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

自然科学系科目を学ぶ意義と目的

「自然科学系科目」として、上述のあなたと自然科学以外に、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論、数理科学および自然科学実験演習が設置されています。あなたと自然科学でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

そのために次のような目的で科目を設置しています。

- ①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。
- ②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。
- ③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作に関する倫理的問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。



自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは、次の表のとおりです。「物質」や「環境」、「宇宙」といった広いテーマに関連するキーワードは、複数の科目に含まれていることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。

科目名	それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード
あなたと自然科学	自然科学一般, 自然現象, 科学技術, 科学的思考, 科学的知識
生物科学A 1・A 2	細胞, 遺伝子, DNA
生物科学B 1・B 2	生物と環境の科学, 生態学, 進化学
生物科学C 1・C 2	ホメオスタシス, 脳・神経, 内分泌, 感覚, 細胞
宇宙地球科学A 1・A 2	恒星, 銀河, 太陽系, 天体の運動, 天体の観測
宇宙地球科学B 1・B 2	プレートテクトニクス, 地震, 火山, 地球の歴史, 環境変動
化学A 1・A 2	物質の理解, ものつくりの基本, 元素と周期表, 物質の多様性, 生体関連物質
化学B 1・B 2	エネルギー資源, 自然環境, リサイクル, 有機化合物, 生体分子
物理学A 1・A 2	力学, 波動, 量子論, 電磁気学
物理学B 1・B 2	現代物理, 宇宙論, 相対論, 素粒子論, 統計熱力学
数理科学A 1・A 2	代数
数理科学B 1・B 2	解析・幾何
数理科学C 1・C 2	統計
科学論A 1・A 2	進化論, 大きすぎて見えないもの, 小さすぎて見えないもの
科学論B 1・B 2	科学と技術, 科学史, 人間と科学

・興味のあるキーワードを中心に関連する科目を履修するのも一つの方法です。

①「環境」に興味がある→宇宙地球科学B 1・B 2と生物科学B 1・B 2, および化学B 1・B 2を履修する。

②「宇宙」に興味がある→宇宙地球科学A 1・A 2と物理学B 1・B 2を履修する。

③分野を超えて幅広く, そして深く履修する。→数理科学で「数学」を学び, この知識を科学論A 1・A 2の「進化論」の学修に活かす。

・「〇〇A 1」などアルファベット+番号までが科目名です。また, 「〇〇A 1」と「〇〇A 2」は別科目です。

・「〇〇A 1」, 「〇〇B 1」, 「〇〇C 1」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり, 難易度を意味するものではありません。「〇〇C 1」から履修しても構いません。

・いずれの科目も, 年次に関わらず自由に履修することができます。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については, 講義要項(シラバス)で確認してください。

・科目名が同じでも, 担当する教員が異なる場合, 扱う内容が異なることもあります。

(4) 保健体育系科目

スポーツリテラシーを学ぶ

スポーツリテラシーとは、「スポーツ実践を通じて、その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し、スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。スポーツが有するさまざまな可能性に触れて身体知を養い、スポーツを通じた学力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

スポーツリテラシーでの取り組みは、スポーツウェルネスやアドバンススポーツでの実践的な身体活動や、スポーツ論で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

スポーツウェルネスを学ぶ

スポーツウェルネスとは、「スポーツ実践を通じて、積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。スポーツを通じた身体活動が、健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

1年次	2～4年次
教養科目 保健体育系科目	
スポーツリテラシー ・スポーツの持つ様々な可能性にふれ、その理解を進めるとともに、スポーツを通じたコミュニケーションの場を提供します。	アドバンススポーツ ・スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両方の単位を修得した場合に履修できる科目です。 ・「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。 ・シーズンスポーツの集中授業も展開されています。
スポーツウェルネス ・スポーツを通じた心身の変化に触れ、将来における心身の健康維持・増進を図る方法について理解を深めます。	スポーツ論 ・スポーツ論は理論科目です。 ・スポーツを様々な視点から捉えた、以下の3つの科目が展開されています。 ○ スポーツ論(ウェルビーイング) ○ スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ) ○ スポーツ論(サステイナブルスポーツ)

2年次以降、教養科目の保健体育系科目アドバンススポーツとスポーツ論が履修できます。

アドバンストスポーツを学ぶ

アドバンストスポーツでは、スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに、トップアスリートとの交流、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的にしています。

スポーツ論を学ぶ

スポーツ論は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について、ウェルビーイング、ハイパフォーマンススポーツ、サステナブルスポーツの視点から学びます。世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

保健体育系科目の学び方

教養科目の保健体育系科目**スポーツリテラシー**（1単位）と**スポーツウェルネス**（1単位）の計2単位の修得が卒業要件となっています。

- ・スポーツリテラシー、スポーツウェルネスおよびアドバンストスポーツを履修する際は、事前に健康診断を受ける必要があります。2年次以降に再履修する場合も同様です。
- ・疾病、身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課窓口もしくは第1回目の授業時に申し出てください。
- ・教養科目の必修科目として開講されていますので、1年次に単位を修得できなかった場合は、2年次以降に再履修をして単位を修得してください。再履修として履修する場合は、同一期間（前期または後期）の同じ曜日にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの2科目を履修することはできません。
- ・同一年度にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの同一種目を履修することはできません。ただし、スポーツリテラシー（ゴルフ）とスポーツウェルネス（集中授業ゴルフ）の履修は可能です。
- ・2年次以降から、アドバンストスポーツとスポーツ論が履修できます。
- ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両者の単位を修得した場合に履修できます。ただし、半期1科目（種目）を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます。
- ・スポーツ論は、「スポーツ論（ウェルビーイング）」のように（ ）までが科目名です。年度が変わっても同一科目を重複して履修することはできません。
- ・アドバンストスポーツ（集中）は、4年次では履修できません。
- ・個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。

Ⅲ 外国語科目

外国語科目には、「英語」と「英語以外の外国語」、「海外語学研修」があります。

「英語」では、高校時代までで学んできた英語を土台としつつ、日本を含めた世界を意識した英語の学習に取り組みます。急速なグローバル化の時代、みなさんが将来どの分野に進もうとも、英語は不可欠です。ぜひ目的意識をもって英語の学修を続けていきましょう。

「英語以外の外国語」では、ことばそのものを修得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化 (Cultures) に触れます。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション (Communication) が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる (Connections), 異文化への新鮮な窓口です。

「海外語学研修」は、実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。

◎「CALL 自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス 1 号館地下には CALL 自習室と CALL ライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材をはじめ、検定試験対策教材や雑誌等が視聴、閲覧できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

(1) 英語

英語を学ぶ意義

外国語科目の「英語」では、高等学校までで学んできた英語を土台としつつ、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また、実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも大変重要です。

必ず履修する英語科目に加え、英語の 4 技能 (Reading, Listening, Speaking, Writing) をさらに高め、グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すとともに、異文化への理解を深めましょう。

①英語の履修方法

文学部（英語英米文学科以外）では、1年次で、外国語科目の英語4科目（4単位）を履修することとなっています。

（A群）Basics of English (RL) 1a, 1b または Intermediate English (RL) 1a, 1b の2科目と、（B群）Basics of English (SW) 1a, 1b または Intermediate English (SW) 1a, 1b の2科目を履修します。

RLはリーディングとリスニングが中心、SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。BasicsとIntermediateの違いについては、次の②をご覧ください。

科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

これらの科目の単位を修得できなかった場合には、General Englishを履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General Englishは半期科目として実施されます。

②英語の特徴

習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレースメントテスト」によって、Basics of EnglishとIntermediate Englishのどちらを履修するかが決定します。

基礎的な学修が必要な場合はBasics of English、基礎が修得されている場合はIntermediate Englishを履修します。

Intermediate EnglishはさらにMidとHighにわかれています。特に希望すれば、英語科目プレースメントテストによって指定されたクラスより、1レベル上(Basics of English→Intermediate English (Mid), Intermediate English (Mid)→Intermediate English (High))のクラスの履修を許可されることもあります。

③選択科目について

外国語科目の英語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎1年次から履修できる選択科目

1年次から選択できる英語の選択科目は次の3種類です。これらは2～4年次でも履修できます。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a, English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a, Computer Aided Instruction b

e-learning教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a, Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning教材を使用し、TOEIC®で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期1単位です。

◎ 2年次から履修できる選択科目

2～4年次は、1年次から選択できる上記の3種類の科目に加えて、さらに4種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a, Advanced English b

発展的な内容を学修し、英検、TOEFL®、TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は、a、bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a, English Language and Cultures b

英語圏の文化、言語、コミュニケーションのあり方を、様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は、a、bそれぞれ4単位まで履修することができます。

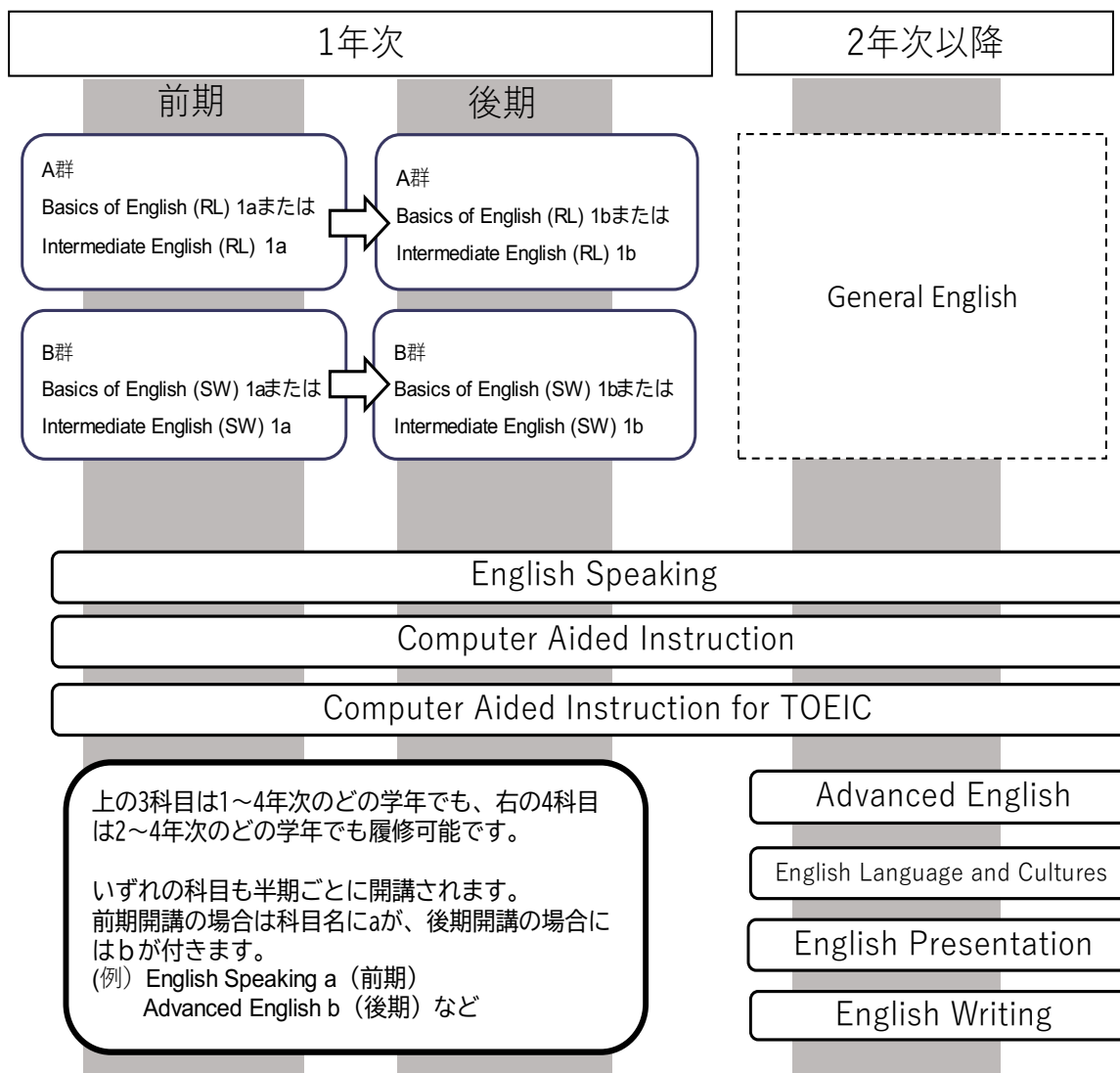
English Presentation a, English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ、聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

English Writing a, English Writing b

正しい文章を書き、正確に情報を伝達する能力を養います。

これらの科目は半期2単位です。



④資格試験による単位認定（英語）

英検, TOEFL®, TOEIC®において, 一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし, 下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
上位 基準	英検（英検S-CBTを含む）	準1級以上 またはCSE 2.0 2304 以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1 a または Basics of English (RL) 1 a (1)
						Intermediate English (RL) 1 b または Basics of English (RL) 1 b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1 a または Basics of English (SW) 1 a (1)
						Intermediate English (SW) 1 b または Basics of English (SW) 1 b (1)
	TOEFL iBT®*	83点以上		選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)
TOEIC® Listening & Reading Test	730点以上	選択科目		Advanced English a (2)		
				Advanced English b (2)		
				English Language and Cultures a (2)		
				English Language and Cultures b (2)		

	検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
下位 基準	英検（英検S-CBTを含む）	—	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1 a または Basics of English (RL) 1 a (1)
						Intermediate English (RL) 1 b または Basics of English (RL) 1 b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1 a または Basics of English (SW) 1 a (1)
						Intermediate English (SW) 1 b または Basics of English (SW) 1 b (1)
	TOEFL iBT®*	61点以上		選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)
TOEIC® Listening & Reading Test	600点以上	選択科目		Advanced English a (2)		
				Advanced English b (2)		
				English Language and Cultures a (2)		
				English Language and Cultures b (2)		

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎認定単位数の上限は4単位です。下位基準による2単位の認定を受けたものが、その後に上位基準を満たした場合、翌年度以降に追加認定を申請できますが、その際の認定単位数は、上限単位数から既認定単位数を差し引いた2単位となります。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎TOEFL ITP®, TOEIC®-IP は認定対象には含まれません。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定科目（群）は原則として、未修得科目のうち必修科目とし、すべての必修科目を修得している場合には、Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、当該年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験出願時に原本を提出した場合は、窓口で申し出てください。
- 4) 合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり、2年以内とします。

(2) 英語以外の外国語

英語以外の外国語を学ぶ意義

Communication + Cultures + Connection : 3つのCをさらに充実させよう

Communication : 未知の人たちとコミュニケーションしよう！

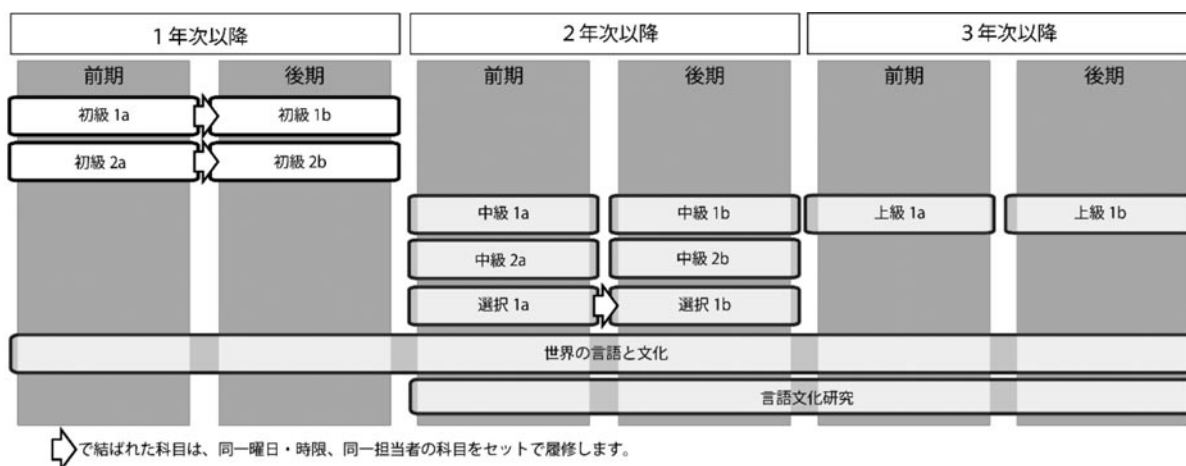
Cultures : さまざまな国、地域の社会と文化を理解しよう！

Connections : 国を越えて、分野を越えて、人と、社会とつながろう！

英語以外の外国語には、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語、アラビア語、イタリア語が設置されています。また、あわせて日本語による講義科目である世界の言語と文化と言語文化研究を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強することができます。

①英語以外の外国語の履修方法

文学部では、1年次において、英語以外の外国語の「導入」の科目（初級1a, 1b, 2a, 2b）の4科目（4単位）を必ず履修することとなっています。科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で、半期ごとにそれぞれ成績がつきます。



②英語以外の外国語の「導入」以外の科目について

英語以外の外国語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い科目を用意しています。

中級 1a, 1b：初級で学んだことの復習＋さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

中級 2a, 2b：初級で学んだことの復習＋さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

上級 1a, 1b：個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目まで、年度を越えてさらに2科目、合計で4回履修することができます。

選択 1a, 1b：第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

世界の言語と文化：各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

言語文化研究：世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

◎英語以外の外国語の「導入」科目（初級 1 a, 1 b, 2 a, 2 b）の4科目（4単位）を修得した場合は、同じ言語の選択 1 a・1 bを履修することはできません。同様に、同じ言語の初級4科目（4単位）と選択 1 a・1 bを同時に履修することはできません。必修の外国語として履修した科目の単位が未修得の場合は、再履修しなければなりません。

◎中級以上の科目については、開講されない外国語もあります。

◎英語以外の外国語に設定された卒業要件単位を超過して修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。

③資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

本学入学までに、すでに英語以外の外国語を学修し、指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合、入学年度当初に英語以外の外国語の初級 1 a・1 b および初級 2 a・2 b（4科目 4単位）の認定を行い、中級の科目に進むことができます。

下表の資格試験の基準を満たしている学生は、初級 1 a・1 b および初級 2 a・2 b の単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目（単位数）
ドイツ語技能検定試験	4級	4	ドイツ語初級 1 a(1)
Goethe-Institut ドイツ語検定試験	A 1	4	ドイツ語初級 1 b(1)
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A 1	4	ドイツ語初級 2 a(1)
実用フランス語技能検定試験	4級	4	ドイツ語初級 2 b(1)
DELF-DALF フランス語資格試験	A 1	4	フランス語初級 1 a(1)
中国語検定試験	4級	4	フランス語初級 1 b(1)
HSK 漢語水平考試	HSK 4級	4	フランス語初級 2 a(1)
スペイン語技能検定	5級	4	フランス語初級 2 b(1)
DELE スペイン語検定試験	A 1	4	中国語初級 1 a(1)
ロシア語能力検定試験	3級	4	中国語初級 1 b(1)
インドネシア語技能検定試験	D級	4	中国語初級 2 a(1)
ハンゲル能力検定試験	4級	4	中国語初級 2 b(1)
韓国語能力試験	TOPIK I (2級)	4	ロシア語初級 1 a(1)
<p>注意事項</p> <p>単位認定の取り扱いについて</p> <p>◎同一言語の4科目4単位をセットで認定します。</p> <p>◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。</p> <p>◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。</p> <p>◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。</p> <p>◎認定された場合は、所定の手続きを経ることで、1年次に同一言語中級科目の履修が認められます。</p> <p>◎認定された場合は、初級 1 a・1 b および初級 2 a・2 b を履修することはできません。別の外国語を学修する場合、2年次以降に選択 1 a・1 b を履修してください。</p> <p>申請手続き</p> <p>1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出してください。</p> <p>2) 申請期間は、入学年度の4月20日(休日の場合は前日)までとします。</p> <p>3) 提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。</p>			

(3) 海外語学研修

留学プログラム

本学国際交流センターでは、多様な留学プログラムを展開し、留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は語学力の向上に加え、異文化の中での生活を通して机上の学修では得られない貴重な学びを得る機会です。各プログラムの詳細は、国際交流事務課窓口・グローバルカウンターまで問い合わせてください。

以下に、留学プログラム修了により単位認定される科目を紹介します。

①海外語学短期研修

海外語学短期研修は、「夏期留学プログラム」を修了した場合に海外語学短期研修1に、「春期留学プログラム」を修了した場合に海外語学短期研修2に認定されます。

「夏期留学プログラム」及び「春期留学プログラム」は、夏期または春期休暇を利用して海外の協定校等で約1ヶ月間語学を学び、現地での様々なアクティビティや文化施設への訪問を通して文化や歴史への理解を深めます。一部のコースではプロジェクトワークや海外インターンシップがあります。

②海外語学中期研修

海外語学中期研修は、「中期留学プログラム」を修了した場合に認定されます。

「中期留学プログラム」は、本学協定校あるいは研修校に前期または後期の3～5ヶ月間留学し、留学生を対象に開講されている集中語学研修に参加するプログラムです。一部のコースには集中語学研修後に約1ヶ月間の海外インターンシップが含まれています。

③交換留学

交換留学には、「長期交換留学プログラム」(7ヶ月～1年間)と「セメスター交換留学プログラム」(4～5ヶ月)の2種類があります。どちらも本学協定校にて、正規授業科目を履修するプログラムです。留学中に修得した単位は、審査のうえ60単位(日本文学文化学科は30単位)を上限に本学の単位に振り替えることができます。

④グローバルスタディ(交換留学語学演習)

「長期交換留学プログラム」において、正規授業開始前に集中語学研修の受講が含まれているコースがあります。修了者には、「グローバルスタディ(交換留学語学演習)」(2単位)として単位が認定されます。

⑤グローバルスタディ(日本研究)

グローバルスタディ(日本研究)は、寮内留学プログラム(後期)参加者を対象とした科目です。寮内留学プログラム参加者は留学生との協働学修を行う「SIU国際ショナルプログラム」に参加します。本プログラムはグローバルスタディ(日本研究)(1単位)として開講され、履修者には成績評価が行われます。

⑥グローバルスタディ（東南アジア研究）

グローバルスタディ（東南アジア研究）は、「東南アジア・スタディツアー」参加者を対象としたプログラムです。本スタディツアーは、オンライン学習と海外渡航を組み合わせた特徴のある留学プログラムで、国際交流協定校であるタイ商工会議所大学で英語による講義を通じて、東南アジアの社会や文化への理解を深めます。修了者には2単位が認定されます。

※各種プログラムの概要については（4）留学プログラムを確認してください。

※募集時期・出発時期等の詳細については、国際交流センターのガイドブック及びホームページを確認してください。

（4）留学プログラム

本学では、18ヶ国・地域30大学・機関（令和7年11月現在）と国際交流協定を結び、教員および学生の相互交流を積極的に進めています。学部学生の参加できる留学プログラムは以下のとおりです。応募条件や応募方法は、プログラムや留学先により異なります。また、留学先や期間、内容等は、今後、変更となる可能性があります。最新情報や詳細については、専修大学ホームページ「国際交流・留学」を参照するか、国際交流センター（生田キャンパス）またはグローバルカウンター（神田キャンパス）窓口にて問い合わせてください。



国際交流センター



海外留学プログラム

①長期交換留学プログラム

国際交流協定を結んでいる海外の大学に最長1年間留学し、現地の正規授業科目を履修するプログラムです。参加学生は、専門分野の理解を深め、語学力を向上させるだけでなく、旺盛なチャレンジ精神とグローバルな視野を身に付け、人間的に大きく成長しています。また、交換留学制度に基づいているため、留学先大学に支払うべき正規授業の学費の一部または全部が免除されます。留学先大学で修得した単位は、審査の上、60単位を限度に本学の単位に振り替えることができます。なお、認定される科目や単位数については、履修科目の内容および成績評価に基づき審査されます。

長期交換留学プログラム



また、留学先大学において、正規授業開始前に集中語学研修受講が含まれる場合は、「グローバルスタディ（交換留学語学演習）」（2単位）として単位が認定されることがあります。単位認定の詳細については、候補者決定後に実施されるオリエンテーションや教務ガイダンスで説明があります。

英語英米文学科は学科の専門科目での単位認定も行われます。単位認定については p. 103 を参照してください。

②セメスター交換留学プログラム

国際交流協定を結んでいる海外の大学に約4～5ヶ月間留学し、1学期相当の正規授業科目を履修するプログラムです。専門分野の学びに加え、語学力を高め、異文化理解を深める貴重な機会となります。留学期間が1学期間に限定されるため、経済的な負担を抑えられるのも本プログラムの特徴です。また、交換留学制度に基づいているため、留学先大学に支払うべき学費（正規授業）の一部または全部が免除されます。留学先大学で修得した単位は、審査の上60単位を限度に本学の単位に振り替えることができます。なお、認定される科目や単位数については、留学先大学で修得した科目の内容や成績評価に基づき審査されます。

セメスター交換留学プログラム



③中期留学プログラム

協定校・研修校に約4～5ヶ月間留学し、留学生向けの集中語学研修に参加するプログラムです。インターナショナルクラスでの学びを通じて、実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、プレゼンテーション、ノートテイキング、リサーチ、論文作成など、大学での学修に必要なアカデミックスキルを体系的に見につけることができます。さらに、異文化理解を深める授業や多様な国籍の学生との交流を通じて、グローバルな視野を養うことができます。なお、ニュージーランド・ワイカト大学で実施される「社会性開発コース」では、英語研修後に現地での海外インターンシップが組み込まれており、実践的な国際経験を積むことが可能です。

中期留学プログラム



単位認定

- ◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は中期留学プログラムの参加決定後、所定の期間に教務課で面接の上、中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。
- ◎学修成果の評価は、当該科目担当教員が「事前授業」、「事後授業」、「留学先の成績表」等に基づいて行い、「認定」として単位を授与します
- ◎単位は自由選択修得要件単位として、英語では海外語学中期研修1～8（英語）（各2単位）、ドイツ語では海外語学中期研修1～8（ドイツ語）（各2単位）、フランス語では海外語学中期研修1～8（フランス語）（各2単位）、中国語では海外語学中期研修1～8（中国語）（各2単位）、スペイン語では海外語学中期研修1～8（スペイン語）（各2単位）、韓国語では海外語学中期研修1～8（韓国語）（各2単位）で、それぞれ最高16単位まで認定されます。
- ◎英語英米文学科、ジャーナリズム学科は学科の専門科目での単位認定も行われます。英語英米文学科での単位認定については p. 102 を、ジャーナリズム学科の専門科目での単位認定については p. 153 を参照してください。

④夏期留学プログラム

夏期休暇中に、協定校・研修校で英語や文化を学ぶ初・中級者向けプログラムとして位置づけられ、「社会知性開発コース」としてイギリスとオーストラリアのコースがあります（令和7年11月現在）。イギリスでは現地のオックスフォード大学生と一緒にプロジェクトワークに取り組み、交流を通して異文化への理解を深めます。また、オーストラリアでは、2週間の海外インターンシップを体験します。

夏期留学プログラム



単位認定

海外語学短期研修1 [2単位 (1～3年次担当)]

- ◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び夏期留学プログラム2度目の参加者については対象となりません。
- ◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

⑤春期留学プログラム

春期休暇中に、協定校・研修校にて語学研修に参加する短期留学プログラムです。語学研修に加え、現地での様々なアクティビティや文化施設への訪問を通して、文化や歴史について理解を深めることができます。英語コースをはじめ、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語および韓国語など英語以外の外国語コースもあり、初級者向けのプログラムとなっています。

春期留学プログラム



単位認定

海外語学短期研修2 [2単位 (1～3年次担当)]

- ◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び春期留学プログラム同一言語コース2度目の参加者については対象となりません。
- ◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

⑥寮内留学プログラム（前期）

「専修大学国際交流会館」にレジデント・パートナー（RP）として5月から約3か月間入寮し、異文化理解や国際コミュニケーション力を養い、グローバル人材の育成を目指します。また、留学生との協働生活を通じて、多様な価値観、発想、習慣等に触れる機会を日常的に持つことができ、「多文化共生」を実践し学びにつなげます。

寮内留学プログラム



⑦寮内留学プログラム（後期）

「専修大学国際交流会館」にレジデント・パートナー（RP）として9月から約6か月間入寮し、異文化理解や国際コミュニケーション力を養います。また、後期のコースでは、留学生との協働学習を行う SiU インターナショナルプログラムにも参加します。本プログラムでは、日本文化やビジネスについて留学生と共に英語で学習し、国内にいながらにして海外留学体験ができるだけでなく、課題に対する多面的な理解や複眼的な思考力を習得し、密度の濃い学びにつなげることができます。

SiU インターナショナルプログラムは、令和8年度からグローバルスタディ（日本研究）（1単位）として開講され、履修者には成績評価が行われます。

履修科目

グローバルスタディ（日本研究） 1単位

⑧東南アジア・スタディツアー

本スタディツアーは、オンライン学習と海外渡航を組み合わせた特徴のある留学プログラムです。国際交流協定校であるタイ商工会議所大学による英語での講義を通じて、東南アジアの社会や文化への理解を深めます。（令和7年11月現在）

前半の3日間は、オンラインでタイ商工会議所大学と接続し、現地教員によるレクチャーを受講します。その後、タイへ渡航し、現地で文化や言語、地球規模の社会課題について学びます。

さらに、現地学生との交流やディスカッションを通じて、相互理解を促進し、タイ社会や国際的な課題への洞察を深めることができます。

東南アジア・スタディツアー



単位認定

グローバルスタディ（東南アジア研究） 2単位

◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。

◎Si 基礎科目の卒業要件単位として修得することができます。ただし、東南アジア・スタディツアー2度目の参加者については対象となりません。

◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

IV 外国人留学生の特例履修科目

外国人留学生のみなさんの学修がスムーズに行えるよう、本学では留学生のための科目を次の通り設置しています。

(1) 教養科目・留学生専修科目

1年次（必修科目）

一般日本事情1 一般日本事情2 半期 2科目 4単位

(2) 外国語科目・日本語科目

1年次（必修科目）

日本語文章理解1 → 日本語文章理解2 半期 2科目 2単位

日本語音声理解1 → 日本語音声理解2 半期 2科目 2単位

日本語口頭表現1 → 日本語口頭表現2 半期 2科目 2単位

日本語文章表現1 → 日本語文章表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎矢印(→)で結ばれた科目(例えば、日本語文章理解1 → 日本語文章理解2)は、同一曜日・時限、同一担当者の科目をセットで履修します。ただし、前期に単位を修得できなかった場合は、後期の履修登録が削除されます。

2年次以上（選択科目）

応用日本語理解1 応用日本語理解2 半期 2科目 2単位

応用日本語表現1 応用日本語表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2を履修するためには、前年度までに日本語文章理解1, 日本語文章理解2, 日本語音声理解1, 日本語音声理解2, 日本語口頭表現1, 日本語口頭表現2, 日本語文章表現1, 日本語文章表現2の単位を全て修得していなければなりません。

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2は、同一年度に同じ科目を重複して履修することはできませんが、年度を変えれば、それぞれの1で3科目3単位, 2で3科目3単位まで履修することができます。

◎母語の科目を、外国語科目(世界の言語と文化, 言語文化研究を除く)として履修することはできません。

V 単位互換科目

単位互換科目は、専修大学に在学する正規の学部学生が、単位互換協定を締結している他大学等で開講されている授業科目を履修し、修得した単位を本学で認定する際に用いられる授業科目です。他大学の特色ある授業に触れ、学びの幅を広げることができる貴重な機会となります。

現在、文学部では、単位互換協定を締結している大学がないため、現時点で利用することはできません。ただし、今後新たに他大学等と協定を締結した場合には、あらためてお知らせします

第3章

専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか

日本文学文化学科

英語英米文学科

哲学科

歴史学科

環境地理学科

ジャーナリズム学科

専門科目では何を学ぶか

第1章で記したように、本学における教育は、「社会知性基盤科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「単位互換科目」および「専門科目」に分かれています。「社会知性基盤科目」は大学や社会で求められる必要不可欠な基礎的知識や技能の修得のために、「教養科目」は豊かな教養を身につけて社会に巣立っていく基礎を築くために、設けられています。

これに対し、「専門科目」は、みなさんが所属する学部・学科の特色を最もよく示すものです。文学部は、以下の6学科2コース制です。

日本文学文化学科 (LB)	
英語英米文学科 (LA)	— 英語コミュニケーションコース — 英語文化コース
哲 学 科 (LT)	
歴 史 学 科 (LR)	
環 境 地 理 学 科 (LK)	
ジャーナリズム学科 (LM)	

文学部の各学科・コースが設けている専門科目の学び方は、以下の各学科・コースのガイドで説明することとし、ここでは専門科目の学び方にかかわる一般的な点について述べます。

文学部の専門科目は、「講義」「実習」「ゼミナール(演習)」のいずれかの授業形式(あるいはその組み合わせ形式)をとっています。それぞれの科目には独自のねらいがありますが、他の科目と深い関連をもつ場合も多く、その関連を考慮して、履修する学年が配当されています。特に、積み上げによる学修の効果が期待されている科目の履修にあたっては、配当年次のもつ意味に留意してください。

また、文学部の特色は、教員と学生のあいだ、学生と学生のあいだの言葉のやりとりを重視する少人数教育です。とりわけ「ゼミナール」は、学生が「調べる」—「発表する」—「討論する」ことを通じて研究対象への理解を深める、大学ならではの授業形式です。

以上の点を考慮に入れ、さらに卒業に必要な条件を視野に入れたうえで、自らの関心や目的にしたがった履修計画を立てることが重要です。

日本文学文化学科

I 日本文学文化学科の特色

日本文学文化学科は、日本文学、日本文化、創作の三つの軸より成り立つ学科です。更にこれらに関わる学問領域として、日本語学や中国文学、各種メディア関係の授業も設けられています。

個々の詳しい内容は、本学修ガイドブックの専門科目一覧や、各講義のシラバスを参照してほしいのですが、おおまかに説明すれば以下ようになります。

文学の分野では、『古事記』『万葉集』に始まり、『源氏物語』に代表される中古文学、中世文学、近世文学、更には明治から現代作家にいたるまで、すべての時代を幅広く授業で扱います。また日本文学を讀解する基礎となる日本語学や、日本文学と不可分の関係にある中国文学、そして他国の文学と日本文学を比較研究する比較文学の講義も開かれています。

文化の分野では、演劇、映画、マンガ、伝統文化、現代メディアの重要な要素である出版文化やアニメーションの授業などが配されています。

創作の分野では、文藝創作、書道の授業が設けられています。

2・3・4年次のゼミナール1・2・3は必修科目です。学生は原則として3年間、同じ教員の担当するゼミナールに属します。その指導のもと、専門知識を深め、卒業時には卒業論文、卒業作品を完成させます。

本学科の専門科目には、1年次より学べる基礎的な科目と、2年次以上で履修することができるより高度な内容の科目があります。

本学科は、上記のように多種多様な科目を用意していますが、各自が学問的関心を持つ他学部や他学科の科目も履修でき、これを卒業要件単位に含めることも可能です。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、卒業のために必要な諸要件と科目の具体的履修方法について概説します。以下の説明をよく読み、それに沿って4年間の履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要ですが（一般的な要件については p. 39「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，日本文学文化学科の学生には，以下の表に示した要件を充たすことが求められます。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上でこの表を確認してください。

文学部日本文学文化学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，単位互換科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目	2		
	保健体育系科目			
外 国 語 科 目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	20	76	
	選 択 科 目	56		
自由選択修得要件単位		28		
卒 業 要 件 単 位		124		

[日本文学文化学科]

【外国人留学生】 文学部日本文学文化学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	20	76	
	選 択 科 目	56		
自由選択修得要件単位		28		
卒 業 要 件 単 位		124		

[日本文学文化学科・外留]

2. 科目の履修方法

日本文学文化学科の学生は、卒業までに社会知性基盤科目2単位、教養科目10単位、外国語科目8単位、専門科目76単位、自由選択修得要件単位となる科目28単位、合計124単位以上を修得しなければなりません。また各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）が定められているので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立てなければなりません。

なお、履修にあたっては、上記の二点に加え、以下の二点にも注意を払ってください。

第一は、配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならないということです。また、指定された配当年次が複数の学年にわたる科目や、配当年次の指定がない科目でも、それが選択科目である場合には、過重負担にならない限り、なるべく低年次で履修することが望まれます。

第二は、同一名称の科目は原則としてひとつしか履修できないということです。一度に同一名称の科目を2つ以上履修登録することはできません。

上記の点を考慮し、各人の興味と関心に従って自由に時間割を組んでください。具体的な履修方法については以下に説明しますが、まず pp. 89～91 の表を概観し、カリキュラムの大枠を頭に入れておいてください。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目、必履修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意してください。社会知性基盤科目は pp. 51～56 に、教養科目は pp. 57～64 に、外国語科目については pp. 65～76、単位互換科目については p. 78 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認して下さい。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」は1年次に必ず修得してください。また、「データサイエンス入門」は、1年次の必履修科目です。

上記以外のS i 基礎科目は、選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② S i 応用科目

S i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で履修できません。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されます。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」，「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English (RL) 1a (前期)，1b (後期) またはIntermediate English (RL) 1a (前期)，1b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a (前期)，1b (後期) またはIntermediate English (SW) 1a (前期)，1b (後期) の2科目を履修します。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。初級1a（前期）、初級1b（後期）の2科目と、初級2a（前期）、初級2b（後期）の2科目を履修します。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

4) 単位互換科目

修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

日本文学文化学科では、日本の文学と文化に関する講義を中心に多彩な専門科目が展開されています。読解（「よみとく」）、発信（「つたえる」）、創造（「つくる」）といった様々な経験を通じ、ものごとの本質を多角的に探究し、自在に表現できる力を培ってください。

専門科目として開講される科目名称等については p. 91 の「日本文学文化学科専門科目一覧」を確認してください。科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目と多くの科目の中から自分の選びたいものを自由に選べる選択科目の2通りがあります。ほとんどの科目は半年で完了する半期科目ですが、ゼミナールおよび書道科目の一部は一年を通じて行われる通年科目なので、注意してください。

【選択科目】

① 1年次から履修できる選択科目

日本文学概論1・2、日本文学講義1～6、日本文化講義1～8、中国文学講義1・2、出版文化論1・2、ビジュアル文化論、児童文学研究1・2、日本文学講読1・2、日本文学通史1・2、日本語学概論1・2、書道1～6が該当します。各領域の基本的な能力を身につけることを目的とする授業です。同一名称の科目が存在しますが、科目名称末尾の数字によって授業内容が異なるので必ずシラバスで講義目標・内容を確認して履修してください。一例として書道1～6の科目概要を示すと以下の通りです。

書道1・・・身の周りの多様な表現に関心を持ち、古典などを通し、楷書の表現を学修します。書写の内容を含みます。

書道2・・・書の歴史に関心を持ち、古典などを通し、行書の表現を学修します。書写の内容を含みます。

書道3・・・日本の文字文化に関心を持ち、毛筆の基礎的技法を学修します。書写の内容を含みます。

書道4・・・書体の変遷などにも関心を持ち、古典などを通し、草書の表現や鑑賞について学修します。

書道5・・・日本古来の「かな」に関心を持ち、古筆の美に通じる基礎的技法を学修します。

書道6・・・漢字の成り立ちや歴史背景などにも関心を持ち、基本的な用筆法や結構法について学修します。

② 2年次から履修できる選択科目

日本文学研究1～8, 現代文学研究1・2, 中国文学研究1・2, 比較文学研究1・2, 文藝創作1・2, 中国文学史1・2, 日本文化研究1～8, マンガ研究1・2, 比較文化研究1・2, 伝統文化研究1・2, 演劇研究1・2, 現代文化研究1・2, 映画研究1・2, 書道史, 書道美学論が該当します。各領域の固有のテーマについて深く研究することを目的としています。取り扱う内容(時代・地域・分野等)の詳細はシラバスで確認してください。

※資格取得(教職課程, 司書・司書教諭・学校司書課程, 学芸員)については『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』を参照し, 専門科目の履修要件を確認の上, 計画的に履修してください。

③ ゼミナール

ゼミナールは教員と学生同士が特定のテーマのもとにディスカッションしながら学ぶ少人数制の専門的な授業です。そのテーマや内容は年度ごとに示されます。自らが関心を寄せる研究領域をよく考えた上で, 複数展開されるゼミナールの中から, 自分にもっともふさわしいものを選んでください。ゼミナールは1年次に開かれるゼミナールガイダンスに出席した上で, 提出した志望届によって決定します。

④ 卒業論文

卒業論文は, 4年次生が大学生活の総決算として作成する論文です。4年次生は卒業論文のために特に指導教員の指導を受けますが, 早い者は1年次の終り頃から題目の選定にかかり, 念入りに準備してとりくむ一大事業です。レポートとは異なり, これまでの研究水準を超えようとする野心作を目指してください。それには多くの労力を費やすことになるため, 4年次はほとんど卒業論文に専心できるように態勢を整えておく必要があります。

所定の単位を修得し, 卒業論文を提出し, 論文についての口述試験に合格して, はじめて学士(文学)の学位が与えられます。なお, ゼミナール1・2の単位が未修得の場合でも, 4年次の卒業論文の提出は認められます。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは, 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で, さらに修得する科目の総称です。自由選択修得要件単位に算入されるものは以下のa～hの8つになります。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 選択科目の卒業要件単位を超えて修得した日本文学文化学科開講の専門科目の単位。
- f. 日本文学文化学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。

g. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。(8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)

h. 日本文学文化学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(28単位まで)
自由選択修得要件単位となる科目の履修は、学生各自の裁量に委ねられます。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的な時間割を組んでください。ただし、卒業までに自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければなりません。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

日本文学文化学科の学生に課されている専門科目の必修単位数は4科目20単位です。何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合、必ず次の年次で同一名称の科目を再履修しなければなりません。必修の再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない科目ですが、ゼミナールは、2年次でゼミナール1、3年次でゼミナール2、4年次でゼミナール3がそれぞれ必修科目となっています。同一年次に複数のゼミナールを履修することは原則として認められていないことから、例えば、2年次でゼミナール1の単位が修得できなかった場合、その単位は翌年の3年次に再履修することはできず、5年次に再履修することになります。そのため、ゼミナールの履修には特に注意が必要です。

② 選択科目の再履修

選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことが可能です。

文学部日本文学文化学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考				
社会知性基盤科目	専修大学入門ゼミナール				2	分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます (同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成 (履修) することができます。				
	データ分析入門				2					
	データサイエンス入門									
	データサイエンス実践									
		A I基礎								
		データサイエンス活用演習								
	キャリア入門									
	キャリアマッチング									
	キャリア長期体験 (プロジェクト型)									
			キャリア科目1							
		キャリア科目2								
	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)						
S i応用科目		分野横断科目								
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)						
			S iゼミナール論文							
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点 歴史と地域・民衆	歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学 論理学入門	ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		8	・卒業要件単位 10 単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンススポーツの履修は、前期1科目を上限とし、次学期以降も科目にかかわらず履修することができます (修得単位の上限はありません)。			
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会学論 社会思想 教育学入門	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計						
	自然科学系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物科学C1 生物科学C2 (4)	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2	物理学B1 物理学B2 数理学A1 数理学A2 物理学A1 物理学A2 数理学B1 数理学B2			数理学C1 数理学C2 科学論A1 科学論A2 科学論B1 科学論B2		
	保健体育系科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)						2		
				アドバンススポーツ スポーツ論 (ウェルビーイング)	スポーツ論 (サスティナブルスポーツ) スポーツ論 (ハイパフォーマンススポーツ)					
	英語	A Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)							4	・General Englishは、英語1(A・B群)を履修したうえで、単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b、Advanced English a・b、Advanced English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。
		B Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)								
			English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)					
				Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b					
								General English (1)		
外国語科目	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1) 中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1) ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1) コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1)					8	・同一言語の科目をすべて (4科目4単位) 履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。 ・各科目2単位まで修得することができ、同一科目を履修することはできません。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・各科目、同一年度に2単位、年度を超えてさらに2単位履修することができます、合計4単位まで修得することができます。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択ドイツ語1 a・bを履修する場合には、同一言語の選択1 a・bをセットで履修してください。 ・導入と選択1 a・bの両者を履修する場合は、同一言語を履修することはできません。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。			
	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)					
	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)			ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)		
	選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択ロシア語1 a (1) 選択ロシア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)			選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		
	世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語)	世界の言語と文化 (コリア語)						
		言語文化研究 (ヨーロッパ)	言語文化研究 (アジア)	言語文化研究 (アメリカ)						
	海外語学短期研修1 (外国語)	海外語学短期研修2 (外国語)								
	海外語学中期研修1 (外国語) 海外語学中期研修2 (外国語) 海外語学中期研修3 (外国語)	海外語学中期研修4 (外国語) 海外語学中期研修5 (外国語) 海外語学中期研修6 (外国語)	海外語学中期研修7 (外国語) 海外語学中期研修8 (外国語)							
	単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)						
	自由選択修得要件単位							28		

日本文学文化学科

英語英米文学科

I 英語英米文学科の学生のために

1. 英語英米文学科の特色

インターネット、SNS や e-mail 等の情報通信テクノロジーの発達により、今や私たちは、場所や時間に制約されることなく、ほんのわずかな時間で、世界の出来事を知り、また自らのメッセージを世界に向けて発信することができるようになりました。英語はこのような高度情報化社会を生きる現代人をグローバルに結びつける国際語です。英語を通して世界を知り、英語を通して自らの意思を伝える私たちにとって、英語の役割はさらに重要なものになるでしょう。英語英米文学科は、このような国際化の進む社会の中で活躍できる人材を育てることを目標としています。

本学科のカリキュラムの特徴は、「きめ細やかな指導」、「参加型・発信型の授業の展開」、および「英語力と教養の充実」の3点に集約されます。これら3つの特色が顕著に見られるのは1年次の教育です。1年次を対象に全学部で導入されている半期科目「専修大学入門ゼミナール」では少人数制を取り、専修大学の歴史を学び、大学で学ぶことの意義について考えます。このゼミナールを通して学生は、自分自身や自分が置かれている環境について知り、大学卒業後の姿が思い描けるようになるのです。大学での学修の基礎となるアカデミック・スキルを身につけるための導入となるこの科目を履修することによって、学生は、図書館の利用法、情報検索の方法、文献の読み方、レポートの書き方、グループ・ディスカッションの進め方、プレゼンテーションの仕方などの作業に主体的に取り組み、情報を「受信」するだけでなく、自らの視点で分析した内容を「発信」する訓練を積むこととなります。

上記の「専修大学入門ゼミナール」は、後期には、listening, speaking, reading, writing という英語の4技能を総合的に学ぶ「専門入門ゼミナール」に移行し、20人程度という少人数クラスで、学生のレベルにあった「きめ細やかな指導」を行うことにより学生の基礎的な「英語力」の向上を目指します。

また、2年次より英米文学、英米研究、英語学、および応用言語学の4つの専門分野に関する講義科目を展開していますが、1年次開講の「英語英米文学概論1・2」はこれら4つの分野の概要を紹介し、専門的な講義科目を理解するために必要な基礎的な知識・教養を提供する入門授業としての役割を担っています。

1年次では、学科の専任教員が担任としてクラスの指導に当たり、各学生の長所・短所を考慮に入れながら今後の大学での学修等について適切なアドバイスを行います。こうしたきめ細やかな指導は2年次の「英語総合演習1・2」へと引き継がれます。

2年次以降は「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」のいずれかのコースに所属して、英米文学、英米研究、英語学、および応用言語学の4つの専門分野に関する「専門知識や教養」を身につけます。専門講義はすべて2年次から受講することができ、学生が早い段階から専門性を培うことができるように工夫されています。「英語文化コース」は、「英語」ということばの

しくみや歴史、英語で表現された文学、そして英語の文化的背景などについて学び教養を深めることを目指しています。伝統的な専門領域だけではなく、「英米映画論1・2」、「英米ポップカルチャー論1・2」など現代的なテーマを扱う講義も開講されています。「英語コミュニケーションコース」は、1年次で養った英語力をさらに向上させ、さまざまなコミュニケーションの場面に対応できる運用力を身につけることを目的としたコースです。「英語コミュニケーションコース」では、「通訳入門1・2」、「英語プレゼンテーション1・2」が必修科目として位置づけられており、通訳および翻訳の実践的トレーニング手法を英語学修に応用した少人数の演習科目を通して、英語力の実践的な応用の可能性を探ります。さらに、アメリカ、カナダ、ニュージーランド等にある専修大学の協定校に留学することを積極的に奨励しており、留学で学んだ成果は「中期留学」、「長期留学」という科目名で単位認定することができます。

本学では長期、中期、 Semester、短期とさまざまな形態の留学プログラムを用意しているので、コースを問わず在学中に是非一度は留学をし、英語力を高めると共に、異文化に触れることにより考え方や視野を広げることに挑戦してください。また本学科のカリキュラムは、「教員養成課程コアカリキュラム」「外国語（英語）コアカリキュラム」にも対応しており、教員を志望する学生は教職科目を履修することで教員を目指すことができます。

3年次以降は、各学生はゼミナールに所属し、英語の運用力を高めるとともに専門的な知識をさらに深めていくこととなります。英語英米文学科では15名から20名程度からなる小規模編成によるゼミナールを展開しており、学生と教員および学生同士の関係も緊密で、「大学時代のよき思い出」を創ることのできる貴重な場となっています。4年次には、大学での学修の最終的な成果として卒業研究に取り組みます。英語英米文学科では学生の創造性に答えることができるよう、従来の「論文形式」だけでなく、通訳コンテスト、プレゼンテーション、翻訳などの斬新で多様な形態を取り入れているのも特徴です。

4年間にわたる「きめ細やかな指導」により「英語力と教養」を磨き、専門知識を深め、自らの意見や見解を「発信」する力を身につけた後は、さまざまなキャリアを目指して社会に巣立ち羽ばたいてほしいと願っています。

2. 1年次の履修にあたって

1年次では、英語英米文学科での学修の基礎と英語力を高めることが重要課題です。前期の「専修大学入門ゼミナール」では、専修大学の歴史を学び、大学で学ぶことの意義について考えます。また、英語力の向上のために、listening, speaking, reading, writingの4技能に関する多様な科目を履修することになっています。

後期の「専門入門ゼミナール」では自分の英語のレベルに応じて、足りない部分を補強し得意な部分をより一層伸ばすことを目指しています。「英語英米文学概論1・2」は2年次以降の専門科目への橋渡しの役割を担っている入門講義であり、かつ大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ授業です。これらの科目はすべて必修科目であり、英語英米文学科の1年生は必ずこれらの科目の単位を修得しなければいけません。1年次でこれらの科目の単位を履修できない場合、2年次以降希望のコースに進むことができなくなったり、2年次での時間割編成が困難になったりすることがあるので、十分注意してください。

3. コース分けについて

英語英米文学科の学生は、1年次から2年次に進級する時に、「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」の2コースのいずれかに所属することになります。コース志望調査は1年次の秋に行い、英語コミュニケーションコースへの志望者が当該学年在籍数の4分の1を超えた時には選抜が行われます。英語コミュニケーションコースへの選抜は、原則として1年次の秋に実施される2回目のプレイスメント・テストの成績を基準とし、1年次の専門必修科目の単位をすべて修得することを条件に行われます。詳しくは当該年度のコースガイダンスで説明されます。

II 卒業要件と科目の履修方法

以下は、大学を卒業するために必要な要件と、科目の具体的な履修方法に関するものです。説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件がありますが（一般的な要件については、p. 39「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、それに加えて、英語英米文学科の学生には、以下の表に示した要件を充たすことが要求されます。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を確認してください。

文学部英語英米文学科 英語コミュニケーションコース

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目	2		
	保健体育系科目			
外 国 語 科 目	英 語	4	4	
	英語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	42	86	
	選 択 必 修 科 目	44		
	選 択 科 目			
自由選択修得要件単位		22		
卒 業 要 件 単 位		124		

[英語英米文学科・英語コミュニケーションコース]

【外国人留学生】 文学部英語英米文学科 英語コミュニケーションコース

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	42	86	
	選 択 必 修 科 目	44		
	選 択 科 目			
自由選択修得要件単位		18		
卒 業 要 件 単 位		124		

[英語英米文学科・英語コミュニケーションコース・外留]

文学部英語英米文学科 英語文化コース

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	英 語	4	4	
	英語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	34	74	
	選 択 必 修 科 目	40		
	選 択 科 目			
自由選択修得要件単位		34		
卒 業 要 件 単 位		124		

[英語英米文学科・英語文化コース]

【外国人留学生】 文学部英語英米文学科 英語文化コース

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	34	74	
	選 択 必 修 科 目	40		
	選 択 科 目			
自由選択修得要件単位		30		
卒 業 要 件 単 位		124		

[英語英米文学科・英語文化コース・外留]

2. 科目の履修方法

英語英米文学科の学生は、上表にある通り、英語コミュニケーションコースを専攻する場合は、社会知性基盤科目2単位、教養科目10単位、外国語科目4単位（外国人留学生は8単位）、専門科目86単位、自由選択修得要件単位となる科目22単位（外国人留学生は18単位）、英語文化コースを専攻する場合、それぞれ2単位、10単位、4単位（8単位）、74単位、34単位（30単位）、合計124単位以上を修得する必要があります。また、各年次に修得する単位の目安（1年次36単位、2年次38単位、3年次38単位、4年次12単位）が定められているので、この条件をも満たすよう毎年の履修計画を立てる必要があります。

履修にあたっては、さらに以下の2点にも注意を払ってください。

- ① 配当年次が指定されている科目は、その年次に履修してください。配当年次が複数の学年にわたって指定されている科目や、指定がない科目については、前記修得単位の目安も考慮しながら、各自が自分に合った履修計画を充分練って、年次配分を考えてください。その場合に必ず必修科目を優先的に修得してください。
- ② 同一名称の科目は原則として1つしか履修できません（一部の教養科目を除く）。また、一度単位を修得した科目をもう一度履修することもできません。

ただし、同一名称であっても内容が異なれば「Special Seminar」, 「特別総合講義」は、4科目8単位まで履修できます。

上記の点を考慮し、各自の興味と関心に従って自由にカリキュラムを組んでください。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目がありますので、履修に際しては注意する事柄があります。社会知性基盤科目は pp. 51 ~ 56 に、教養科目は pp. 57 ~ 64 に、外国語科目については pp. 65 ~ 76 に、単位互換科目については p. 78 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」は1年次に必ず修得してください。また、「データサイエンス入門」は1年次の必修科目です。

上記以外のS i 基礎科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② S i 応用科目

S i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1, 2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3, 4年次で履修できません。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されます。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」, 「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して, 前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修

得してください。初級1a（前期）、初級1b（後期）の2科目と、初級2a（前期）、初級2b（後期）の2科目を履修します。

- ② 上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目は、演習科目、特殊演習科目、講義科目、ゼミナールおよび卒業研究の4つの科目群から構成されています。それぞれの科目群に開講される科目名称等については pp. 106～107の「文学部英語英米文学科専門科目一覧」を参照してください。各科目は、必修科目（○のついた科目）、選択必修科目（◎のついた科目）、選択科目（△のついた科目）のいずれかに指定されています。必修科目と選択必修科目はコースによって異なりますので、2年次以降は自分の属するコースで指定されている科目を履修するよう注意する必要があります。

(a) 演習科目

演習科目は高校までに修得した英語をもとに、英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）の基礎的な運用力を養うための科目です。そのうち、「Composition 1・2」、「Speaking 1・2」、「Integrated English 1・2」は通常のクラスを二分して、少人数クラスで受講するよう配慮されています。1年次に開講される演習科目は各コースともすべて必修科目です。2年次以降はコースによって開講科目、修得方法が異なるので、後述のコース別の履修方法を参照してください。

(b) 特殊演習科目

特殊演習科目は主として翻訳、通訳等の実務英語に関わる科目と、高度な講読、作文、会話等の訓練を行う演習科目から構成されています。このうち「通訳入門1・2」、「英語プレゼンテーション1・2」は英語コミュニケーションコースの学生の必修科目です。詳しい履修方法については後述のコース別の履修方法を参照してください。

(c) 講義科目

講義科目は英語学、英米文学、英米研究、応用言語学のさまざまなテーマに関する講義を行う科目です。これらの中には隔年に開講される科目が多数ありますので、履修計画を立てる際には注意が必要です。

英語学領域としては、「英文法のしくみ」、「英語のしくみ」、「英語の音声」、「英語の変遷史」 「ことばの獲得1・2」等の講義科目があります。

英米文学領域としては、「イギリス文学の世界」、「アメリカ文学の世界」、「文学作品と英語表現」、「英米の小説・詩・演劇」、「英米映画論1・2」、「英米ポップカルチャー論1・2」等の講義科目があります。

英米研究領域としては、「イギリスの歴史と文化1・2」、「アメリカの歴史と文化1・2」、「英米研究特殊講義1～4」等の講義科目があります。

応用言語学領域としては、「外国語学習の科学1・2」、「異文化コミュニケーション」、「ことばと社会・文化」、「英語教育の研究と実践1・2」等の講義科目があります。

その他、「国際理解」、「異文化交流」、「Japan & the World 1・2」等、国際的な視野で日本を含む世界の文化・社会を展望する講義科目もあります。

「特別総合講義」は、毎回、テーマを設定し、学科の専任教員および外部講師の講義を織り交ぜたオムニバス講義科目です。

いずれも、所属するコース、ゼミナールにかかわらず、履修できる選択必修科目です。

(d) ゼミナールおよび卒業研究

英語英米文学科では1年次に「英語英米文学概論1・2」を必修科目として開講しています。英語学・応用言語学および英米文学・英米研究の2つの領域について、各クラスに2名の教員が半期毎に担当し、専門科目への導入を図る講義を展開しています。なお、1年次で「英語英米文学概論1・2」を修得できなかった学生は2年次のコース分けに際して支障をきたす場合があるので注意してください。3、4年次にはゼミナール1～4が必修科目として開講され、学生はいずれかのゼミナールに所属しなければなりません。そして、4年次には卒業研究が必修科目として課されており、4年間学んできたことの中で特に関心のある分野やテーマについて、自分なりにまとめることが求められます。卒業研究の形式は論文形式のほか、Power Point を利用した英語によるプレゼンテーション、日英通訳のコンテストと日⇄英の翻訳も認められています。詳細については、『文学部時間割』巻末の「卒業研究の手びき」を参照の上、それぞれの「卒業研究」の指導教員の指導に従ってください。ゼミナールの履修にあたっては、以下の申合せ事項がありますので、注意してください。

- ① 「ゼミナール1・2」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めません。
- ② 「ゼミナール3・4」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めません。
- ③ 「ゼミナール1・2」が未修得の場合、その再履修は4年次で認めます。また、卒業研究の履修も認める。同じ教員のゼミナールが原則ですが、ただし、「ゼミナール3・4」が「ゼミナール1・2」と合併で展開している場合は別の「ゼミナール1・2」を履修しなくてはなりません。
- ④ 「ゼミナール1・2」と「ゼミナール3・4」は積み上げを原則としますが、異なる専門領域で卒業研究を行いたい意志がはっきりした学生については、もとのゼミナールの教員と移行するゼミナールの教員の下承を得た上で、学科会議に諮って認められます。
- ⑤ 「英語英米文学概論1・2」を修得していることを「ゼミナール1・2・3・4」、「卒業研究」の履修要件とはしません。
- ⑥ 「ゼミナール1」のみ、または「ゼミナール2」のみが未修得の場合も上記③に準じるものとします。

次に、各コースの履修方法について年次を追って説明します。

1年次はコースに分かれていないため、英語英米文学科の全学生共通に「専門入門ゼミナール」、演習科目が10科目10単位、および「英語英米文学概論1・2」が必修科目として指定されています。これらの科目はすべてクラス単位の授業となるので、学生は必ず自分が属するクラスの授業を受講しなければなりません。

① 英語コミュニケーションコース

2年次には、演習科目として「英語総合演習1」など4科目、特殊演習科目として「通訳入門1」など4科目が必修科目に指定されています。

選択必修科目に関しては、演習科目として2年次に開講される「Advanced Reading 1」など6科目、2, 3, 4年次に開講されている「中期留学1～4」の4科目、および演習科目として3, 4年次に開講される「Advanced Reading 3」など8科目、これら合計18科目の中から4科目履修してください。更に、特殊演習科目として2年次に開講される「翻訳入門1・2」の2科目、2, 3, 4年次に開講される「国際理解1」などの4科目、2, 3, 4年次に開講されている「中期留学5～8」「長期留学1～4」の8科目、および特殊演習科目として3, 4年次に開講される「通訳演習1」など12科目、これら合計26科目の中から8科目履修してください。

3, 4年次には、「ゼミナール1～4」、および「卒業研究」が必修科目に指定されています。その他、2, 3, 4年次に開講されている選択必修科目からいずれか10科目20単位を修得してください。ただし3分割された各専門分野から、それぞれ2科目4単位以上を履修してください。

なお、3, 4年次に開講されている「通訳演習1・2」と「翻訳演習1～4」は、2年次に開講されている「通訳入門1・2」及び「翻訳入門1・2」の単位をそれぞれ修得していなければ履修できません。

残り22単位は、英語英米文学科が開講する選択科目、および、英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修できます。

② 英語文化コース

2年次には演習科目である「英語総合演習1・2」および「Speaking 3・4」の4科目が必修科目に指定されています。これらの演習科目もクラスが指定されていますので、自分の属するクラスの授業を受講してください。

また、2年次に開講される「Advanced Reading 1」など6科目、および3, 4年次に開講される「Advanced Reading 3」など10科目、これら合計16科目の中から4科目履修しなければなりません。さらに、2年次に開講される「英語プレゼンテーション1」など4科目、2, 3, 4年次に開講される「国際理解1」など4科目、および3, 4年次に開講されます。

「翻訳演習1」など10科目、これら合計18科目の中から2科目履修してください。

3, 4年次にはゼミナール1～4、および卒業研究が必修科目に指定されています。

講義科目については、2, 3, 4年次に開講される講義科目の中から14科目28単位を履修してください。ただし3分割された各専門分野から、それぞれ2科目4単位以上を履修する必要があります。講義科目の中には隔年開講の科目が多数あるので開講年次に注意して履修してください。

残り34単位は、英語英米文学科が開講する選択科目、および英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修することができます。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の教養科目および専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で、さらに修得する科目の総称です。自由選択修得要件単位に算入されるのは以下の9つになります。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 英語英米文学科の各コースで指定された選択必修科目の卒業要件単位を超えて修得した英語英米文学科開講の専門科目の単位。
- f. 英語英米文学科の各コースで指定された専門選択科目の修得単位。
- g. 英語英米文学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- h. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。(8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- i. 英語英米文学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(16単位まで)

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、原則として学生の裁量に任せられています。

それぞれの興味と関心に応じ、自由にカリキュラムを組んでください。

いずれにしても、卒業までに各コースに必要な自由選択修得要件単位数に達するように注意してください。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

何らかの理由で必修科目の単位が修得できなかった学生は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修してください。必修科目の再履修はすべての科目に優先して履修してください。なお、前述したように、一度単位を修得した科目の再履修はできません。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能です。

(5) 中期留学をした場合の単位認定について

英語英米文学科においては、本学協定校等で所定の中期留学プログラム（英語）の単位を取得した場合、単位認定は次のように行います。

1. 中期留学の単位認定は、16単位をまとめて行うものとし、一部での単位認定は認めません。
2. 中期留学の単位認定においては、英語英米文学科の専門科目（中期留学1～8）のみを読み替えの対象とします。ただし、2回目の中期留学については、教養科目（海外語学中期研修1～8）の単位に充当することができます。
3. 中期留学に2回参加する場合、同一国に留学した場合でも単位認定の対象とします。ただし同一の大学に留学した場合は単位認定の対象とはしません。

(6) セメスター，長期留学した場合の単位認定について

英語英米文学科においては，本学協定校等にセメスター，長期留学した場合には，協定校における履修状況（履修した科目及び成績）を検討した上で，英語英米文学科の卒業要件に含まれる単位に読み替えます。また，本学提携校との長期交換留学プログラムに参加した学生は，上記の単位読み替えに加え，英語英米文学科の専門科目「長期留学1～4」の単位認定の対象となります。

文学部英語英米文学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
社会知性基盤科目	S1基礎科目	専修大学入門セミナー				2	・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同年度での複数履修も可能)。 ・S1ゼミナール論文は、S1ゼミナールの単位の修得し、次年度以降に同一教員のS1ゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。	
		データ分析入門						
		データサイエンス入門						
		データサイエンス実践						
			A1基礎					
			データサイエンス活用演習					
		キャリア入門						
		キャリアマッチング						
		キャリア長期体験(プロジェクト型)						
			キャリア科目1					
	キャリア科目2							
S1応用科目	グローバルスタディ(1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ(3)	グローバルスタディ(4)				
		分野横断科目						
		S1ゼミナール1(4)	S1ゼミナール2(4)	S1ゼミナール3(4)				
			S1ゼミナール論文					
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化	歴史と社会・文化	ことばと論理			・卒業要件単位10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ、履修することができます。 ・アドバンススポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。	
		日本の文学	基礎心理学入門	芸術学入門				
	世界の文学	応用心理学入門	異文化理解の人類学					
	文学と現代世界	哲学	ジャーナリズムと現代					
	歴史の視点	倫理学						
	歴史と地域・民衆	論理学入門						
	社会科学基礎科目	日本国憲法	地理学への招待	子どもと社会の教育学				
		法と社会	社会学入門	情報社会				
	政治学入門	現代の社会学	はじめての経営					
	政治の世界	社会学論	マーケティングベーシック					
経済と社会	社会思想	企業と会計						
現代の経済	教育学入門							
自然科学系科目	あなたと自然科学							
	自然科学実験演習1	生物学C1	化学A1	物理学B1	数理学C1			
自然科学実験演習2(4)	生物学C2	化学A2	物理学B2	数理学C2				
生物学A1	宇宙地球科学A1	化学B1	数理学A1	科学論A1				
生物学A2	宇宙地球科学A2	化学B2	数理学A2	科学論A2				
生物学B1	宇宙地球科学B1	物理学A1	数理学B1	科学論B1				
生物学B2	宇宙地球科学B2	物理学A2	数理学B2	科学論B2				
保健体育系科目	スポーツリテラシー(1)							
	スポーツウェルネス(1)							
		アドバンススポーツ	スポーツ論(サステイナブルスポーツ)					
		スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)					
英語	Computer Aided Instruction a(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1)	English Presentation a					
	Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)	English Presentation b					
		Advanced English a	English Writing a					
		Advanced English b	English Writing b					
		English Language and Cultures a	English Language and Cultures b					
外国語科目	英語以外の外国語	ドイツ語初級1a(1)	(1)			・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。 ・同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。		
		ドイツ語初級1b(1)	(1)					
		ドイツ語初級2a(1)	(1)					
		ドイツ語初級2b(1)	(1)					
		フランス語初級1a(1)	(1)					
		フランス語初級1b(1)	(1)					
		フランス語初級2a(1)	(1)					
		フランス語初級2b(1)	(1)					
		中国語初級1a(1)	(1)					
		中国語初級1b(1)	(1)					
		中国語初級2a(1)	(1)					
		中国語初級2b(1)	(1)					
		スペイン語初級1a(1)	(1)					
		スペイン語初級1b(1)	(1)					
		スペイン語初級2a(1)	(1)					
		スペイン語初級2b(1)	(1)					
		ロシア語初級1a(1)	(1)					
		ロシア語初級1b(1)	(1)					
		ロシア語初級2a(1)	(1)					
		ロシア語初級2b(1)	(1)					
		インドネシア語初級1a(1)	(1)					
		インドネシア語初級1b(1)	(1)					
		インドネシア語初級2a(1)	(1)					
		インドネシア語初級2b(1)	(1)					
		コリア語初級1a(1)	(1)					
		コリア語初級1b(1)	(1)					
		コリア語初級2a(1)	(1)					
		コリア語初級2b(1)	(1)					
		基礎	ドイツ語中級1a(1)	(1)	中国語中級1a(1)		ロシア語中級1a(1)	コリア語中級1a(1)
			ドイツ語中級1b(1)	(1)	中国語中級1b(1)		ロシア語中級1b(1)	コリア語中級1b(1)
ドイツ語中級2a(1)	(1)		中国語中級2a(1)	ロシア語中級2a(1)	コリア語中級2a(1)			
ドイツ語中級2b(1)	(1)		中国語中級2b(1)	ロシア語中級2b(1)	コリア語中級2b(1)			
フランス語中級1a(1)	(1)		スペイン語中級1a(1)	インドネシア語中級1a(1)				
フランス語中級1b(1)	(1)		スペイン語中級1b(1)	インドネシア語中級1b(1)				
フランス語中級2a(1)	(1)		スペイン語中級2a(1)	インドネシア語中級2a(1)				
フランス語中級2b(1)	(1)		スペイン語中級2b(1)	インドネシア語中級2b(1)				
ドイツ語上級1a(1)	(1)		中国語上級1a(1)	ロシア語上級1a(1)	コリア語上級1a(1)			
ドイツ語上級1b(1)	(1)		中国語上級1b(1)	ロシア語上級1b(1)	コリア語上級1b(1)			
フランス語上級1a(1)	(1)	スペイン語上級1a(1)	インドネシア語上級1a(1)					
フランス語上級1b(1)	(1)	スペイン語上級1b(1)	インドネシア語上級1b(1)					
ドイツ語上級2a(1)	(1)	中国語上級2a(1)	ロシア語上級2a(1)	コリア語上級2a(1)				
ドイツ語上級2b(1)	(1)	中国語上級2b(1)	ロシア語上級2b(1)	コリア語上級2b(1)				
フランス語上級2a(1)	(1)	スペイン語上級2a(1)	インドネシア語上級2a(1)					
フランス語上級2b(1)	(1)	スペイン語上級2b(1)	インドネシア語上級2b(1)					
応用	選択ドイツ語1a(1)	(1)	選択スペイン語1a(1)	選択イタリア語1a(1)				
	選択ドイツ語1b(1)	(1)	選択スペイン語1b(1)	選択イタリア語1b(1)	(1)			
	選択フランス語1a(1)	(1)	選択ロシア語1a(1)					
	選択フランス語1b(1)	(1)	選択ロシア語1b(1)					
	選択中国語1a(1)	(1)	選択コリア語1a(1)					
	選択中国語1b(1)	(1)	選択コリア語1b(1)					
	世界の言語と文化(ドイツ語)	世界の言語と文化(中国語)	世界の言語と文化(ロシア語)	世界の言語と文化(コリア語)				
	世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(インドネシア語)					
	言語文化研究(ヨーロッパ)	言語文化研究(アジア)	言語文化研究(アメリカ)					
	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)						
海外語学中期研修1(外国語)	海外語学中期研修2(外国語)	海外語学中期研修4(外国語)	海外語学中期研修7(外国語)					
海外語学中期研修2(外国語)	海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修5(外国語)	海外語学中期研修8(外国語)					
海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修6(外国語)							
単位互換科目	単位互換1	単位互換2(4)	単位互換3(1)					
自由選択修得要件単位					備考参照	英語コミュニケーションコース: 22 英語文化コース: 34		

英語英米文学科

【外国人留学生】文学部英語英米文学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
社会知性基盤科目	専修大学入門ゼミナール				2	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。 	
	データ分析入門						
	データサイエンス入門						
	データサイエンス実践						
	A 1基礎						
	データサイエンス活用演習						
	キャリア入門						
	キャリアマッチング						
	キャリア長期体験(プロジェクト型)						
	キャリア科目1						
キャリア科目2							
グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)				
S i応用科目	分野横断科目						
	S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)				
留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2				4	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件単位 10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。 	
人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 歴史の視点 歴史と地域・民衆	歴史と社会・文化 基礎心理学入門 哲学 倫理学 論理学入門	ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代				
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計			
自然科学系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物科学C 1 生物科学C 2 宇宙地球科学A 1 宇宙地球科学A 2 生物科学B 1 宇宙地球科学B 1 生物科学B 2	化学A 1 化学A 2 化学B 1 化学B 2 物理学A 1 物理学A 2	物理科学B 1 物理科学B 2 数理科学A 1 数理科学A 2 数理科学B 1 数理科学B 2	数理科学C 1 数理科学C 2 科学論A 1 科学論A 2 科学論B 1 科学論B 2		
	保健体育系科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)					2
			アドバンストスポーツ スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(サスティナブルスポーツ) スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)			
日本語	導入 日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)				8		<ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・日本語「導入」から8科目8単位を修得していなければ、履修することができません。
			応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)				
外国語科目	導入	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				<ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は、2単位まで修得することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は、同一年度に2単位、年度を超えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで修得することができます。
		Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b				
	基礎	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1)	中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1)	ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)	コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1) コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1)		
		ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)		
	応用			ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) コリア語上級1 a (1) コリア語上級1 b (1)		
			選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択コリア語1 a (1) 選択コリア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)		世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)		
			言語文化研究(ヨーロッパ)	言語文化研究(アジア)	言語文化研究(アメリカ)		
	海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)				
			海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)		
単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)				
自由選択修得要件単位					備考欄参照	英語コミュニケーションコース: 18 英語文化コース: 30	

英語英米文学科

文学部英語英米文学科(英語コミュニケーションコース)専門科目一覧

凡例:○必修、◎選択必修、△選択

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件単位数	備考			
	科目名	必修	科目名	必修	科目名	必修	科目名	必修					
社会知性基礎科目									2				
教養科目									10				
外国語科目									4 (外国人留学生は8)				
単位互換科目													
専 門 科 目	専門入門ゼミナール Reading 1 (1) Reading 2 (1) Composition 1 (1) Composition 2 (1) Speaking 1 (1) Speaking 2 (1) Integrated English 1 (1) Integrated English 2 (1) Listening 1 (1) Listening 2 (1)	◎	英語総合演習1 ◎ 英語総合演習2 ◎ Speaking 3 (1) ◎ Speaking 4 (1) ◎	◎						42	26科目42単位必修		
	英語英米文学概論 1 英語英米文学概論 2	◎	通訳入門1 ◎ 通訳入門2 ◎ 英語プレゼンテーション1 ◎ 英語プレゼンテーション2 ◎	◎	ゼミナール1 ◎ ゼミナール2 ◎		◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎					
			Advanced Reading 1 ◎ Advanced Reading 2 ◎ Advanced Composition 1 ◎ Advanced Composition 2 ◎ Advanced Listening 1 ◎ Advanced Listening 2 ◎	◎						8	4科目8単位選択必修		
			中期留學1 ◎ 中期留學2 ◎ 中期留學3 ◎ 中期留學4 ◎	◎									
					Advanced Reading 3 ◎ Advanced Reading 4 ◎ Advanced Composition 3 ◎ Advanced Composition 4 ◎ Advanced Speaking 1 ◎ Advanced Speaking 2 ◎ Advanced Listening 3 ◎ Advanced Listening 4 ◎	◎							
			翻訳入門1 ◎ 翻訳入門2 ◎	◎									
			国際理解1 ◎ 国際理解2 ◎ 英語圏の歴史・社会・文化 ◎ 異文化交流 ◎	◎									
			中期留學5 ◎ 中期留學6 ◎ 中期留學7 ◎ 中期留學8 ◎	◎									
			長期留學1 ◎ 長期留學2 ◎ 長期留學3 ◎ 長期留學4 ◎	◎									
					通訳演習1 ◎ 通訳演習2 ◎ 通訳演習1 ◎ 通訳演習2 ◎ 通訳演習3 ◎ 通訳演習4 ◎ Business & English 1 ◎ Business & English 2 ◎ Media English 1 ◎ Media English 2 ◎ Japan & the World 1 ◎ Japan & the World 2 ◎	◎				16	8科目16単位選択必修		
			英文法のしくみ ◎ 英語のしくみ ◎ 英語の音声 ◎ 英語の変遷史 ◎ 英語学の諸問題1 ◎ 英語学の諸問題2 ◎ ことばの獲得1 ◎ ことばの獲得2 ◎ ことばと社会・文化 ◎ 異文化コミュニケーション ◎ 英語教育の研究と実践1 ◎ 英語教育の研究と実践2 ◎ 外国語学習の科学1 ◎ 外国語学習の科学2 ◎	◎								2 科目 4 単位 以上 選択 必修	
			英国・英語圏の文学と文化 ◎ イギリス文学の世界 ◎ 米国・英語圏の文学と文化 ◎ アメリカ文学の世界 ◎ 文学作品と英語表現 ◎ 英米の小説・詩・演劇 ◎ 英米文学文化特殊講義1 ◎ 英米文学文化特殊講義2 ◎ 英米文学文化特殊講義3 ◎ 英米文学文化特殊講義4 ◎ 英米文学文化特殊講義5 ◎ 英米文学文化特殊講義6 ◎ 英米映画論1 ◎ 英米映画論2 ◎	◎									2 科目 4 単位 以上 選択 必修
			イギリスの歴史と文化1 ◎ イギリスの歴史と文化2 ◎ アメリカの歴史と文化1 ◎ アメリカの歴史と文化2 ◎ 英米研究特殊講義1 ◎ 英米研究特殊講義2 ◎ 英米研究特殊講義3 ◎ 英米研究特殊講義4 ◎ 英米ポップカルチャー論1 ◎ 英米ポップカルチャー論2 ◎	◎									2 科目 4 単位 以上 選択 必修
			特別総合講義	△								特別総合講義は、同一名称であっても内容が異なれば4科目8単位まで履修することができます。	
			Special Seminar 英語英米文学特殊講義101 (1) △ 英語英米文学特殊講義102 (1) △ 英語英米文学特殊講義103 (1) △ 英語英米文学特殊講義104 (1) △	△ △ △ △									
自由選択 修得要件 単位数と なる科目	英語英米文学科の学生に受講が認められている社会知性基礎科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、文学部開講の専門科目、教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部(詳しくは「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程修得ガイドブック」参照)。全学公開科目。								22 (外国人留学生は18)	社会知性基礎科目、教養科目、外国語科目、専門科目の超過修得単位数および単位互換科目は自由選択修得要件単位数に算入されず。			
年次修得 単位の 目安	36		40		40		8		124				

英語英米文学科

文学部英語英米文学科(英語文化コース)専門科目一覧

凡例:○必修、◎選択必修、△選択

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 単 位	備考
	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選		
社会知性基盤科目									2	
教養科目									10	
外国語科目									4 (外国人留学生は3)	
単位互換科目										
専 門 科 目	専門入門ゼミナール	○	英語総合演習1	○					34	22科目34単位必修
	Reading 1 (1)	○	英語総合演習2	○						
	Reading 2 (1)	○	Speaking 3 (1)	○						
	Composition 1 (1)	○	Speaking 4 (1)	○						
	Composition 2 (1)	○								
	Speaking 1 (1)	○								
	Speaking 2 (1)	○								
	Integrated English 1 (1)	○								
	Integrated English 2 (1)	○								
	Listening 1 (1)	○								
Listening 2 (1)	○									
英語英米文学概論 1	○		ゼミナール1	○	ゼミナール3	○				
英語英米文学概論 2	○		ゼミナール2	○	ゼミナール4	○				
					卒業研究 (4)	○				
			Advanced Reading 1	◎						
			Advanced Reading 2	◎						
			Advanced Composition 1	◎						
			Advanced Composition 2	◎						
			Advanced Listening 1	◎						
			Advanced Listening 2	◎						
					Advanced Reading 3	◎				
					Advanced Reading 4	◎				
					Advanced Composition 3	◎				
					Advanced Composition 4	◎				
					Advanced Speaking 1	◎				
					Advanced Speaking 2	◎				
					Advanced Listening 3	◎				
					Advanced Listening 4	◎				
					上級英語総合演習 1	◎				
					上級英語総合演習 2	◎				
			英語プレゼンテーション1	◎						
			英語プレゼンテーション2	◎						
			翻訳入門1	◎						
			翻訳入門2	◎						
			国際理解1	◎						
			国際理解2	◎						
			英語圏の歴史・社会・文化	◎						
			異文化交流	◎						
					翻訳演習1	◎				
					翻訳演習2	◎				
					翻訳演習3	◎				
					翻訳演習4	◎				
					Business & English 1	◎				
					Business & English 2	◎				
					Media English 1	◎				
					Media English 2	◎				
					Japan & the World 1	◎				
					Japan & the World 2	◎				
			英文法のしくみ	◎						
			英語のしくみ	◎						
			英語の音声	◎						
			英語の変遷史	◎						
			英語学の諸問題1	◎						
			英語学の諸問題2	◎						
			ことばの獲得1	◎						
			ことばの獲得2	◎						
			ことばと社会・文化	◎						
			異文化コミュニケーション	◎						
			英語教育の研究と実践1	◎						
			英語教育の研究と実践2	◎						
			外国語学習の科学1	◎						
			外国語学習の科学2	◎						
			英国・英語圏の文学と文化	◎						
			イギリス文学の世界	◎						
			米国・英語圏の文学と文化	◎						
			アメリカ文学の世界	◎						
			文学作品と英語表現	◎						
			英米の小説・詩・演劇	◎						
			英米文学文化特殊講義1	◎						
			英米文学文化特殊講義2	◎						
			英米文学文化特殊講義3	◎						
			英米文学文化特殊講義4	◎						
			英米文学文化特殊講義5	◎						
			英米文学文化特殊講義6	◎						
			英米映画論1	◎						
			英米映画論2	◎						
			イギリスの歴史と文化1	◎						
			イギリスの歴史と文化2	◎						
			アメリカの歴史と文化1	◎						
			アメリカの歴史と文化2	◎						
			英米研究特殊講義1	◎						
			英米研究特殊講義2	◎						
			英米研究特殊講義3	◎						
			英米研究特殊講義4	◎						
			英米研究特殊講義5	◎						
			英米研究特殊講義6	◎						
			英米ポップカルチャー論1	◎						
			英米ポップカルチャー論2	◎						
			特別総合講義	△						
			通訳入門1	△						
			通訳入門2	△						
			中期留学1	△						
			中期留学2	△						
			中期留学3	△						
			中期留学4	△						
			中期留学5	△						
			中期留学6	△						
			中期留学7	△						
			中期留学8	△						
			長期留学1	△						
			長期留学2	△						
			長期留学3	△						
			長期留学4	△						
			Special Seminar	△						
			英語英米文学特殊講義101 (1)	△						
			英語英米文学特殊講義102 (1)	△						
			英語英米文学特殊講義103 (1)	△						
			英語英米文学特殊講義104 (1)	△						
自由選択 修得要件 単位と なる科目	英語英米文学科の学生に受講が認められている社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、文学部開講の専門科目、教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部(詳しくは「教職・司書・司書教諭・学校司書・書芸員課程修得ガイドブック」参照)、全学公開科目。									
年次修得 単位の 目 安	36		40		40		8		124	34 (外国人留学生は30)

英語英米文学科

哲 学 科

I 哲学科の特色

「美術や音楽をなぜ美しい、快いと感じるのか」「うれしい、悲しい、腹立たしい、ねたましいなどの感情はなぜ生まれるのか」「なぜ人を殺してはいけないのか」「死とはなにか」「人はなぜ生きるのか」「科学はなぜ客観的と言われるのか」「なぜ時間は流れるのか」などの問題は、古来、多くのひとびとの頭を悩ませてきました。こうした問題について徹底的に考えるのが哲学です。

哲学と一口にいても、西洋やインド、中国、日本など地域によって相違があり、古代や中世、近世、近代、現代など時期ごとにもさまざまな哲学があります。また、自然や芸術の美しさを問題にする「美学」「芸術学」、善悪や正義を問う「倫理学」など、主題によっても哲学は区別されます。「生死」について考えるためには「神話」「宗教」も参考になり、芸術やアートについて考えるためには、具体的にどのような美術や音楽、芸能、舞踊、映画、写真などがあったのか、おさえておかなければなりません。

文学部哲学科の特色の第一は、各地の哲学を広く、深く学ぶための講義群、ならびに、芸術やアート、宗教など文化一般について広く学ぶための講義群が多数、用意されていることです。

そのほか、文学部哲学科における授業や指導の特色として次の2点が挙げられます。

第一に、哲学科学生は全員、「ゼミナール」に所属することができ、また、最低1つは所属しなければなりません。ゼミ生と議論を深め、先生から直接、個人的指導を受ける場である「ゼミナール」は、哲学や倫理学、芸術学を広く、深く学ぶためにもっとも重要な授業です。2年次からはじまり、ゼミナールの先生がそのまま「卒業論文」指導教員となります【詳細は、p. 114 (2) ①「必修科目」の項を参照】。

第二に、哲学科学生は、全員、卒業論文を書かなければ卒業することができません。大学生生活とは、卒業論文作成を目標とする4年間であり、そのために、広くさまざまな講義を聴講し、自分の興味や関心がどこにあるのか、なにを主に深く学ぶのか、できるだけ早いうちに決めなければなりません【詳細は、p. 111「卒業要件」の項を参照】。

なお、卒業するためには、卒業論文作成のほか、卒業に必要な124単位を取得しなければなりません。履修しなければならない科目としては、大学全体で開講される「社会知性基盤科目」、「教養科目」、「外国語科目」【詳細は、p. 112 (1)「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法」の項を参照】と、文学部哲学科で開講される「専門科目」があります。「専門科目」については、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」というカテゴリーが区別されています【詳細は、p. 114 (2)「専門科目の履修方法」の項を参照】。それぞれのカテゴリーについて卒業に必要な単位数が決まっているので、注意が必要です。

講義やゼミナール、また自分なりの読書や研究会などによって疑問を深め、新たに広く関心、興味を見出し、考えを深め、卒業論文を執筆するのが大学生活です。そのためには4年間をどのように過ごすか、あらかじめ見通しを立てておく必要があります。各年次で履修しなければならない

科目、履修した方がいい科目など、卒業までの標準的な工程表を以下に記します。なお、それぞれの科目が具体的にどのような内容を扱うかは、年度ごと、担当教員ごとに異なります。科目を選択する前に、かならず、その年度の「講義要項（シラバス）」を読む必要があります。

1年次：哲学科1年次がかならず履修しなければならないのは「哲学の手ほどき」、「専門入門ゼミナール」ですが、そのほか社会知性基盤科目および教養科目、外国語科目、また一部の「専門科目」も1年次で履修します。

「哲学の手ほどき」は、哲学科に所属する9名の先生全員がリレー方式でおこなう講義で、名前のとおり、哲学の基本的な考え方を解説します。「専門入門ゼミナール」は、文献から得た情報についての自分の解釈を適切に表現し、他者に伝えることが出来る能力を身につける内容であり、演習形式です。その他、哲学各分野の全体像を初歩から解説する入門講義である「概論」科目（「哲学概論」「倫理学概論」「論理学概論」「芸術学概論」）、各地域時期の重要な哲学、思想を、その流れに沿って詳しく解説する思想史科目（「西洋哲学史」「日本思想史」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」）も、哲学の勉強研究の基礎をはじめに知っておくために、1年次での履修が推奨されます。「音楽論」「美術論」「宗教学」「ポップカルチャー論」「映像文化論」「パフォーマンス論」など、文化一般について広く知識を深める講義、「ギリシア語入門」「ラテン語入門」など、哲学の書物を読むために必要な語学のための授業も、1年次で履修できます。

2年次：「ゼミナール」に所属します。ゼミナールは最低1つ所属しなければなりません、2つまで重複受講も可能です。講義としては、1年次で履修しきれなかった講義のほか、あらたに、「日本の思想（近現代以前）」「近現代の日本の思想」「日本の伝統芸能」「精神分析学」「心の哲学」「社会哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「フェミニズム思想」「論理の哲学」「文化の哲学」「現代思想」「生命の哲学」など、特定のテーマについて深く掘り下げる概説科目や、各先生の最先端の研究成果をいち早く知るための「特殊講義」が受講可能になります。「ギリシア語文献講読」「ラテン語文献講読」などの古典語講読も2年次から履修が可能になります。ドイツ語やフランス語などの、哲学の書物を読むために必要となる語学も継続することが望ましいです。また、「概論」科目は2年次までしか履修できません（3年次以降は履修不可。ただし再履修を除く）。

3年次：「ゼミナール」の中心学年になります。講義としては、1年次、2年次で履修しきれなかった講義を修得する必要があります。3年次になると、就職活動等もしなければなりません、同時に、卒業論文のテーマや手法、材料、文献などを固めにかかればなりません。また、「思想史」科目は3年次までしか履修できません（4年次では履修不可。ただし再履修を除く）。

4年次：「ゼミナール」の先生を指導教員として、「卒業論文」を作成します。そのほか、3年次までにとりきれなかった講義などを取得して、卒業必要単位を満たす必要があります。

なお、一般的な注意として、(1) 同一科目名の講義は、年度によって担当教員が代わっても重複履修はできません。(2) とくに「特殊講義」は、番号を同じくする場合、年度によって担当教員が代わっても重複履修はできません。(3) 「ゼミナール」は、2年次で「ゼミナール1」、3年次で「ゼミナール2」、4年次で「ゼミナール3」をそれぞれ最低1つ履修しなければなりません。履修しなかった場合には「再履修」が必要です【詳細は、P. 110(2)①「必修科目」の項を参照】。

そのほか「自由選択修得要件単位となる科目」、必修単位の「再履修」については、それぞれ当該箇所を参考にしてください。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、みなさんが大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説します。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要ですが（一般的な要件については、p. 39「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、それに加えて、哲学科学生には、以下の表に示した要件を充たすことが要求されます。

文学部哲学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	26	74	
	選 択 必 修 科 目	20		
	選 択 科 目	28		
自由選択修得要件単位		30		
卒 業 要 件 単 位		124		

[哲学科]

【外国人留学生】 文学部哲学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	26	74	
	選 択 必 修 科 目	20		
	選 択 科 目	28		
自由選択修得要件単位		30		
卒 業 要 件 単 位		124		

[哲学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払う必要があります。

- ① 社会知性基盤科目2単位、教養科目10単位、外国語科目8単位、専門科目74単位、自由選択修得要件単位30単位、合計124単位以上を修得しなければなりません。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立てる必要があります。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければなりません。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修してください。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できません。同一名称の科目が複数あることは珍しくないが、一度に同一名称の科目を2つ以上履修できません。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければなりません。社会知性基盤科目は pp. 51～56 に、教養科目は pp. 57～64 に、外国語科目については pp. 65～76、単位互換科目については p. 78 に詳しい説明がありますので、それを参考にして以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」は、1年次に必ず修得してください。また、「データサイエンス入門」は1年次の必履修科目です。

上記以外のS i 基礎科目は、選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② S i 応用科目

S i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で履修できません。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されます。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」，「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English(RL) 1 a (前期)，1 b (後期) またはIntermediate English (RL) 1 a (前期)，1 b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1 a (前期)，1 b (後期) またはIntermediate English (SW) 1 a (前期)，1 b 1b (後期) の2科目を履修します。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コ

リア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。初級1 a（前期）、初級1 b（後期）の2科目と、初級2 a（前期）、初級2 b（後期）の2科目を履修します。

- ③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目（p. 119 「文学部哲学科専門科目一覧」で○印のついた科目）、開講された科目中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目）、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の3通りがあります。なお、科目の中には、年間を通して授業を行う通年科目と、半年で完了する半期科目とがあります。また、毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがあります。履修計画を立てる上で、注意する必要があります。

① 必修科目

「哲学の手ほどき」 1年次の必修科目です。「ゼミナール」を担当する9人の教員がリレー式に入門的な授業を行います。

「専門入門ゼミナール」 1年次の必修科目です。文献から得た情報についての自分の解釈を適切に表現し、他者に伝える能力を身につけます。

「ゼミナール1～3」 本学科での勉学の中心となる、少人数での討論形式の授業です。「ゼミナール1」は2年次、「ゼミナール2」は3年次、「ゼミナール3」は4年次でそれぞれ必修となります。また、「ゼミナール」は各年次において2つまで履修できます。したがって、継続して2つのゼミを履修し続けることもできます。しかし、ゼミナールは必ず予習を求められるなど相応の負担があるので、3つ以上履修することはできません。もし、2年次においてゼミナール1を修得できなかった場合は、3年次において「ゼミナール1」と「ゼミナール2」を、3年次にゼミナール2を修得できなかった場合は4年次において「ゼミナール2」と「ゼミナール3」を同時に履修することになります。しかし、3年次までにゼミナールを1つも修得できなかった場合、4年次に「ゼミナール1」「ゼミナール2」「ゼミナール3」の3つを同時に履修することはできません。（4年次に「ゼミナール1」と「ゼミナール2」を履修し、5年次に「ゼミナール3」を履修することになります）。

「卒業論文」 大学での学修の集大成で、4年次の必修科目です。テーマは、人間のあり方に関することなら、なんでもかまいません。通常4年次のゼミの先生が、論文の指導教員を兼ねます（しかし、その先生の専門と大きく異なるテーマの場合には、実質的な指導は別の先生にお願いすることもできます）。

先生によって違いはありますが、3年の後期または期末に、ゼミの場（もしくはゼミ合宿）で卒業論文のテーマと構想について発表を行ない、それから先生の助言を受けながら文献を読み、自分の考えをまとめていきます。

また、卒業論文は、上に述べたとおり、ゼミナールを中心とする本学科での勉学の集大成となるものなので、「ゼミナール3」と同時（または「ゼミナール3」を修得した以降）でなければ履修登録できません。

② 選択必修科目

哲学科の選択必修科目には次の2種類があります。

概論 その学問のもっとも包括的な入門科目で、「哲学概論1」「哲学概論2」「倫理学概論1」「倫理学概論2」「論理学概論1」「論理学概論2」「芸術学概論1」「芸術学概論2」の中から4科目8単位以上修得しなければなりません。配当年次は1～2年です。

思想史 それぞれの哲学・思想の流れを学ぶ科目で、「西洋哲学史（古代）」「西洋哲学史（中世）」「西洋哲学史（近代）1」「西洋哲学史（近代）2」「西洋哲学史（現代）1」「西洋哲学史（現代）2」「日本思想史1」「日本思想史2」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」の中から、6科目12単位以上修得しなければなりません。配当年次は1～3年です。

③ 選択科目

哲学科の選択科目として、以下の科目群があります。

概説 哲学・思想の特定の分野に関する講義です。具体的な事象をあつかう概説は1年次から履修できますが、やや理論的な科目は2年次以降になって履修します。哲学系の概説科目として「日本の思想」「心の哲学」「社会の哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「文化の哲学」「フェミニズム思想」「生命の哲学」等、狭義の哲学をこえて広く思想・文化・芸術を扱う概説科目として「精神分析学」「宗教学」「音楽論」「美術論」「映像文化論」「パフォーマンス論」等があります。これらの科目が充実していることも本学科の特色なので、多彩な科目のなかから自分独自のカリキュラムを計画的に組み、やがて卒業論文へと結実される栄養を吸収し、自身の考えを構築してってください。以下に、名前だけからは内容がわかりにくい科目についてだけ簡単に説明します。

【日本の伝統芸能】 古典芸能の特徴と、それが担っている民俗・宗教的意味およびその表現方法について、その特徴や思想的な意味について考えていきます。

【社会の哲学】 現代社会の諸問題について、例えば、生命科学技術を使って人体に介入しその能力を高めるエンハンスメントの是非などについて、哲学的に考察します。

【科学哲学】 科学とは何か、本物の科学と疑似科学の違いは何か、科学的な知識と他の知識とはどのように異なるのか、などについて哲学的な観点から考えます。

【美術論】 出来事や思想・宗教的背景に留意しながら、美術について、例えば「抽象絵画」などの「わかりにくい」絵画の誕生と受容について考察します。

【現代思想】 「自由で平等な個人」から「群れ」社会へという変容を解明し、混迷する人類文明の行く末と、これからの生き方について講義します。

【ポップカルチャー論】 アニメ・マンガ・ゲームなどなど、高尚な意味での「文化」とみなされていない文化現象を扱います。

【映像文化論】 映画・演劇のみならず、CGやTVゲームあるいは写真なども含めた映像文化全般について考えます。

【パフォーマンス論】 ダンス、バレエ、舞踏、ストリート・パフォーマンスなどを、多角的に分析し、身体アートについて考えます。

古典語 「ギリシア語入門1」「ギリシア語入門2」および「ラテン語入門1」「ラテン語入門2」という入門科目を学修したあとは、「ギリシア語文献講読1～6」、「ラテン語文献講読1～6」という、古典哲学の文献を講読する授業を、最大3年間継続して履修することができます。

なお、哲学科では、文学部の他学科の専門科目も自由選択修得要件単位となる科目として学生に受講を認めています。それらの科目についても、可能な範囲で履修し、幅広い学修を通して、総合的な視野を持つようにしてください。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、みなさんが上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに修得する科目の総称です。自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の8つとなります。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した哲学科開講の専門科目の単位。
- f. 哲学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- g. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。(8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- h. 哲学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(30単位まで)

自由選択修得要件単位となる科目は、科目区分にとらわれずに、みなさんが自由に履修する科目です。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでください。ただし、卒業までに、哲学科の学生は自由選択修得要件単位数が30単位に達していなければなりません。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

哲学科のみなさんに課されている必修科目は、何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければなりません。再履修科目はすべてに優先して履修しなければなりません。なお、一度単位を修得した科目の再履修はできません。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能です。

【外国人留学生】文学部哲学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
社会知性基盤科目	専修大学入門セミナー				2	・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。	
	データ分析入門				2		
	データサイエンス入門						
	データサイエンス実践						
		A I基礎					
		データサイエンス活用演習					
	キャリア入門		キャリア科目1				
	キャリアマッチング		キャリア科目2				
	キャリア長期体験(プロジェクト型)						
			グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ (3)			グローバルスタディ (4)
S i応用科目		分野横断科目					
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)			
				S iゼミナール論文			
留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2				4	・卒業要件単位10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンススポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。	
人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 芸術学入門 異文化理解の人類学	ジャーナリズムと現代		4		
社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングパーシックス 企業と会計		4		
自然科学系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物科学C1 生物科学C2 宇宙地球科学A1 宇宙地球科学A2 宇宙地球科学B1 宇宙地球科学B2	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2	物理学B1 物理学B2 数理解科学A1 数理解科学A2 数理解科学B1 数理解科学B2	数理解科学C1 数理解科学C2 科学論A1 科学論A2 科学論B1 科学論B2		
保健体育系科目	スポーツリテラシー スポーツウェルネス (1)				2		
		アドバンススポーツ スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(サスティナブルスポーツ) スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)				
日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)		応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)		8		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・日本語「導入」から8科目8単位を修得していなければ、履修することができません。
A	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						
B	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
群	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				
		Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b				
群	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1)	中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1)	ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)	コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1) コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1)			
母語以外の外国語		ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)		
基			ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) コリア語上級1 a (1) コリア語上級1 b (1)			
応							
用							
		選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択コリア語1 a (1) 選択コリア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)			
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)			
		言語文化研究(ヨーロッパ)	言語文化研究(アジア)	言語文化研究(アメリカ)			
海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					
		海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			
単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)			・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。	
					30		

歴史学科

I 歴史学科の特色

国際化・情報化の進む現代にあって、大学教育にはこれまで以上に高度で専門的な、また学際的知識を持った人材の養成が求められています。それには基礎となるべき確かな専門性に裏付けられた論理的思考方法が必要です。専修大学文学部歴史学科のカリキュラムは、こうした観点から深い専門性と同時に、幅広い分野が学べるよう「専門」相互の関連性に留意した編成をこころがけて作成しています。

歴史学科は、日本史・アジア史・欧米史および考古学の諸専門を自由に選択して学ぶことができます。各々の研究を深めるために、それに関連した専門的知識を提供する講義や、実践的演習科目（「ゼミナール」）を配置しています。単なる知識の獲得に終わらず、現代社会の様々な問題に自らが考えて対処できる能力獲得のためにも、思考法の修得とトレーニングが必要です。そのために、文献史料・考古資料の解説やそれらの使用法を学ぶ「古文書学実習」および「考古学実習」、そして様々な言語の文献講読・分析を主とした「歴史資料研究法」が開講されています。

しかし、専門の名のもとにいわゆる蝸壺の研究におちいる弊害を避けるため、各専門を超えた相互比較研究が必要です。各専門に縛られない相互比較研究のための科目として設置されているのは、「総合世界史」です。これはまず①特定のテーマを設定し、それに対して複数の教員がそれぞれの立場からの分析に基づいた講義を行うものや、②文献史学の立場であっても、絵図や考古資料を多く使用してビジュアルな講義を行うことに留意した科目（その逆＝考古学側からのアプローチもあります）、③時代や地域を限定せず、特定の現象について（例えば「平和と戦争」など）、通時的・汎世界的なアプローチをオムニバス方式で実施するものです。これらによって、各専門における深い知識の学修を前提としながら、それに縛られない柔軟な思考法の修得をも目指します。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、大学を卒業するために必要な諸要件と、科目の具体的な履修方法について概説します。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要ですが（一般的な要件については、p. 39「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、歴史学科の学生には、単位に関して、以下の表に示した要件を充たすことが要求されます。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を確認してください。

文学部歴史学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	22	76	
	選 択 必 修 科 目	12		
	選 択 科 目	42		
自由選択修得要件単位		28		
卒 業 要 件 単 位		124		

[歴史学科]

【外国人留学生】 文学部歴史学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	22	76	
	選 択 必 修 科 目	12		
	選 択 科 目	42		
自由選択修得要件単位		28		
卒 業 要 件 単 位		124		

[歴史学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の3点に注意する必要があります。

- ① 卒業までに、「社会知性基盤科目」を2単位、「教養科目」を10単位、「外国語科目」を8単位、「専門科目」76単位、「自由選択修得要件単位」28単位、合計124単位以上を修得しなければなりません。これに関し、各年次において修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）がありますので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立てることが望ましいです。
- ② 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修してください。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修することが望ましいです。
- ③ 社会知性基盤科目の、「専修大学入門ゼミナール」の2単位は、必修科目であり、かつ大学生としての学修方法の基礎を学ぶと同時に、専門科目への橋渡しともなる重要な科目ですので、1年次で必ず修得してください。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意してください。社会知性基盤科目は pp. 51～56 に、教養科目は pp. 57～64 に、外国語科目については pp. 65～76、単位互換科目については p. 78 に詳しい説明がありますので、それを参考にして以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」は、1年次に必ず修得してください。「データサイエンス入門」は、1年次に必ず履修してください。

上記以外のS i 基礎科目は、選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② S i 応用科目

上記以外のS i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1, 2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3, 4年次で履修できません。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されます。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」, 「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English (RL) 1 a (前期), 1 b (後期) またはIntermediate English (RL) 1 a (前期), 1 b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1 a (前期), 1 b (後期) またはIntermediate English (SW) 1 a (前期), 1 b (後期) の2科目を履修してください。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必

ず修得してください。初級1 a（前期）、初級1 b（後期）の2科目と、初級2 a（前期）、初級2 b（後期）の2科目を履修してください。

- ③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができます。

(2) 専門科目の履修方法

卒業までに「専門科目」から76単位以上を修得してください。専門科目については、p. 131の「文学部歴史学科専門科目一覧」に記載されていますので、それを参照しつつ、説明を読んでください。

専門科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の3通りの科目群からなっています。「必修科目」（「歴史学科専門科目一覧」で○印のついた科目）は必ず単位を修得しなければならない科目、「選択必修科目」（◎印のついた科目）は開講された科目中から指定された数だけ必ず単位を修得しなければならない科目、「選択科目」（△印のついた科目）は多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる科目です。歴史学科では、みなさんが幅広く科目の選択ができるように、必修科目および選択必修科目の数を少なくしています。

なお、科目の中には、半年で完了する半期科目のほかに、年間を通して授業を行う通年科目があるので、履修計画を立てる上で注意してください。

① 必修科目

必修科目として、以下の科目を履修し、22単位を修得しなければなりません。

「専門入門ゼミナール」は、1年次を対象とした少人数形式の授業であり、後期2単位です。

「ゼミナール1」・「ゼミナール2」・「ゼミナール3」は、2年次以上の学生を対象にした少人数形式の授業で、それぞれ通年4単位です。歴史学科の教員がそれぞれの専門領域（考古学・日本史・アジア史・欧米史）に即したテーマを取り上げる、専門性の高い授業です。「ゼミナール1」は2年次、「ゼミナール2」は3年次、「ゼミナール3」は4年次で履修します（ゼミナール1・2は、合併して行われます）。

2年次においては、各自が選択したゼミナールの対象地域・時代についての基礎的知識・研究能力を、史資料や論文の解説を通じて修得します。3年次においては、各ゼミナールのテーマを推進させる主力としての活動が期待されます。同時に3年次は、基礎的な研究能力を発展させ、自らの研究課題を発見し、課題解明のために必要な「もの」（史資料・関連論文）を探す一年です。4年次は、各ゼミナールの主力としての役割を果たしつつ、自ら設定した研究課題を卒業論文としてまとめあげる一年となります。

「卒業論文」（8単位）は、大学で学んだ4年間の集大成ともいえるもので、4年次において、自らの立てた研究課題について、史資料・関連論文を収集し、その批判的検討を経て、「論文」として完成させます。

なお、履修できるゼミナールは、一つの学年において一つのみです（再履修の場合のみ特例あり。「(4)再履修について」を参照）。また2年次の「ゼミナール1」から4年次の「ゼミナール3」

まで、同じ教員のゼミナールを履修し、その教員が「卒業論文」の指導教員になります。したがって、ゼミナールの選択にあたっては十分な考慮が必要となります。

また「卒業論文」は、ゼミナールを通じて修得された研究能力をもとに作成されるものです。これにより、「卒業論文」を提出する時点で、ゼミナールの単位についてはすべて修得済みか修得見込みであることが求められます。このため「卒業論文」の履修登録は、「ゼミナール3」の履修登録と同時（または「ゼミナール3」の単位修得後）でなければならないものとします。

② 選択必修科目

選択必修科目としては、概説と歴史資料研究法の2つの科目グループから、それぞれ8単位と4単位、あわせて12単位を修得してください。

「日本史概説1・2」・「アジア史概説1・2」・「欧米史概説1・2」は、1・2年次を対象とした講義形式の授業で、各領域の基本的な問題を学び考えていく授業です。これらの授業の中から、少なくとも4科目（8単位）を選択し、履修してください。

「歴史資料研究法1～20」は、2年次を対象とした少人数の実習形式の授業です。これらの授業は、歴史研究のもととなる史資料を収集するための技術や、資料を読みこなす力など、歴史研究に必要な基本的能力を身につけることを目的としている。考古学を学ぶための発掘調査報告書の解説、日本史を学ぶための日本漢文・古文書の解説、アジア史・欧米史を学ぶためのロシア語・中国語・ヒンディー語・英語・フランス語・ドイツ語などの一次文献の解説など、史資料の多様性にあわせて、20科目が開講されています。これらの授業の中から、少なくとも2科目（4単位）を選択し、履修してください。

③ 選択科目

上記の必修科目、選択必修科目のほかに、選択科目として、42単位を修得しなければなりません（なお、12単位を超えて選択必修科目の単位を修得した場合、12単位を超えた分は、選択科目に算入されます）。

「日本文化史1・2」・「アジア文化史1・2」・「欧米文化史1・2」は、それぞれの地域が生んだ文化の特色について、テーマを絞って講義するものです。

p. 131の「文学部歴史学専門科目一覧」に記載された科目のうち、「古墳からみた国家形成1・2」から「アメリカの人種と政治1・2」までの授業は、歴史学科の教員が、それぞれの専門とする分野について講義する授業です。考古学の分野や、インド・中国・朝鮮・日本・アメリカ・ドイツ・フランスの歴史など、さまざまな分野の最先端の研究の現状とその課題を講義します。

「世界史講義1～8」, 「イスラーム史1・2」, 「ジェンダー史1・2」は、地域や時代を超えた、また最新の歴史学のテーマについて講義します。

上記の科目は、いずれも2・3・4年次を対象とした講義形式の授業です。

「総合世界史1～4」は、1・2年次を対象とした授業です。複数の教員が共通の題材（テーマ）に沿って、時代や地域、学問の固有の性格をこえて、広く研究を紹介し、世界史的視野から歴史研究の多様性・共通性を考えさせることを目的としています。「特に総合世界史1・2」は、専任教員全員がオムニバス形式で講義を担当し、各自が専門とする分野の最先端の研究状況と歴

史研究のための資料について解説していますので、選択科目ですが、1年次での修得が強く望まれます。

「古文書学概論1・2」・「考古学概論1・2」は、1・2年次を対象とした講義形式の授業で、それぞれの学問の基本を学びます。

「考古学実習1」は、2・3年次、「古文書学実習」「考古学実習2」は、3・4年次を対象とした実習形式の授業（通年4単位）で、古文書の取り扱い方法・解読や考古学的調査に必要な基本的技術を学びます。「発掘調査実習1・2・3」は、実際の発掘調査に参加して、考古学を学ぶこととなります。「古文書学実習」を履修するためには、2年次において選択必修科目の「歴史資料研究法」のうち、対応する科目（日本漢文・古文書）の単位を修得しておくことが望ましいです。また、「考古学実習2」を履修するためには、「考古学実習1」の単位を修得しておくことが望ましいです。

なお、歴史学科では文学部の他学科開講の多数の専門科目を、自由選択修得要件単位となる科目として受講を認めています。それらの科目についても、可能な範囲で出来るだけ多く履修し、幅広い学修を通して、総合的な視野を持つようにして欲しいです（pp. 159～164「文学部専門科目一覧」参照）。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

卒業までに自由選択修得要件単位となる科目から28単位以上を修得しなければなりません。自由選択修得要件単位となる科目とは、「社会知性基盤科目」2単位、「教養科目」10単位、「外国語科目」8単位および歴史学科の専門科目修得要件単位（76単位）を修得した上で、さらに履修する科目の総称です。この自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の8つです。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した歴史学科開講の専門科目の単位。
- f. 歴史学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- g. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。（8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- h. 歴史学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。（28単位まで）

自由選択修得要件単位となる科目は、科目区分にとらわれずに、自由に履修する科目です。みなさんには、それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでください。ただし、卒業までに、自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければならないことを忘れないよう注意してください。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

必修科目の単位を修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修してください。再履修科目はすべてに優先して履修してください。

② ゼミナールの再履修

「ゼミナール」の再履修についても、前項「①必修科目の再履修」と同様の原則が適用されます。ただし、例外的に以下の方法で再履修が認められる場合があります。

2年次において「ゼミナール1」の単位を修得できなかった場合、歴史学科の教員の会議での調整のうえ、3年次に、指導教員の「ゼミナール1」の再履修に並行して近接分野を担当する教員の「ゼミナール2」を履修することを認めます。

3年次末までに、「ゼミナール1」または「ゼミナール2」のいずれかの単位が修得できなかった場合、歴史学科の教員の会議で調整のうえ、4年次で再履修を認めます。この場合、「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出も4年次で認めます。

3年次末までに、「ゼミナール1」と「ゼミナール2」の両方の単位を修得できなかった場合は、歴史学科の教員の会議で調整のうえ、4年次において、それぞれの再履修を認めます。ただし、「ゼミナール1」については指導教員のゼミナールを、「ゼミナール2」については近接分野を担当する教員のゼミナールを履修します。この場合、「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出は次の年度になります。

なお、3年次で協定校に留学した場合には、4年次での「ゼミナール2」「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出を認めます。

上記の例外的方法でのゼミナール再履修を希望する場合は、前年度の2月末までに指導教員に申し出、その了承を得る必要があります。

③ 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能です。

【外国人留学生】文学部歴史学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考			
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	専修大学入門ゼミナール			2	分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を履修し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。			
		データ分析入門							
		データサイエンス入門							
		データサイエンス実践							
		A 1 基礎							
	キャリア入門								
	キャリアマッチング								
	キャリア長期体験(プロジェクト型)								
	キャリア科目1								
	キャリア科目2								
S i 応用科目	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)					
		分野横断科目							
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)					
				S iゼミナール論文					
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4	卒業要件単位10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も履修にこだわらず履修することができます。(修得単位の上限はありません)			
	人文科学基礎科目	日本の文化 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史と地域・民衆	歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学 社会学入門	ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代					
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会学論 社会思想 社会学入門	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計					
	自然科学系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物科学C1 生物科学C2	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2	物理学B1 物理学B2 数理科学A1 数理科学A2 数理科学B1 数理科学B2				
	保健体育系科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)					2		
			アドバンストスポーツ スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(サステイナブルスポーツ) スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)					
	外国語科目	日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)					8	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・日本語「導入」から8科目8単位を修得していなければ、履修することができません。
				応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)					
			A 群	Basics of English (RL) la (1) Basics of English (RL) lb (1) または Intermediate English (RL) la (1) Intermediate English (RL) lb (1)					
			B 群	Basics of English (SW) la (1) Basics of English (SW) lb (1) または Intermediate English (SW) la (1) Intermediate English (SW) lb (1)					
			English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				
母語以外の外国語		導入	ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1)	中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1)	ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)	ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)	8	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。	
			基礎	ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)		
				応用	ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)		ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)		ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)
					選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)		選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)		選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)
				世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)		世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)
海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)								
海外語学研修		海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)					
	単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)					
自由選択修得要件単位					28				

歴史学

環境地理学科

I 学科の目的・課題・方法

近代以降、地理学は、地圏と大気圏・水圏の自然環境および自然と人間との関係の法則性の追求、世界各地の地域・景観がもつ地域的差異の分析と諸要因が形成する地域の理解、地表で展開する諸現象・諸活動の空間法則の分析の3大関心領域をゆるやかに統合した研究分野として成立し、今日に至っています。

その土台のもと、環境地理学科は、フィールドワークおよび空間情報分析の双方に重点を置いた地理学の体系的な学修を通じて、地域や環境をめぐる現代の諸課題を的確に理解してその解決法を探求するための分析力・思考力を養い、地域・環境分析に携わる専門職業人、環境地理学の研究者・教員、環境地理学の修得内容を広く社会に還元できる人材の育成を目的としています。

我々の生存を脅かす環境問題、地域間相互作用の加速化を前にして、環境現象のメカニズム・構造の追究、資源や社会集団の存在形態の解明、地域知の体系的・操作的な理解、地域・地球情報の空間分析と地図化による発信などを主たる研究課題としています。換言すれば、有限地球が有する“one earth with many worlds”としての特性を正しく理解して発信することによって、地域・地球の持続可能性に貢献します。

上記のことから明らかなように、環境地理学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる複合的分野です。そのすべてに精通することが望ましいですが、包括的な方法論と分析手法の修得は大変高いハードルの到達目標です。しかし、その目標を放棄することなく学科全体で協力し、上記の目的と課題に対して意味のある貢献ができる能力を学生に身につけさせることが学科としての責務です。そのため、次の教育方法を採用しています。

- ・広範な学問領域の根幹をできる限りカバーできるように、1学年定員55名の学生に対して9名の専任教員を配置しています。
- ・専任教員の専門分野について、講義科目と実験実習科目を対にして設けています。まず9名全員が分担する科目で各教員の専門分野が占める位相を明らかにし、ついで各専任教員の講義科目で各分野の基本知識と具体的研究課題を明示し、同じく実験実習科目でその領域の研究に要する基本的分析方法を習得できるようにしています。
- ・地理学に共通の分析ツールである、地図・景観分析、測量・地理（空間）情報処理について、1年次から3年次まで時間をかけて教授し、かつこれらを修得・活用することによって、卒業時に手続きをすれば、資格を取得できるようにしています。具体的には国家資格（国土交通省所管）である「測量士補」、公益社団法人日本地理学会の認定資格である「GIS学術士」や「地域調査士」があります。
- ・現地調査を実践して、生きた地域や現実の環境現象などを対象に、観測・観察などのフィールドワーク、定量的・定性的分析、変化や構造の把握方法を学修します。関係機関への調査協力依頼、調査報告のとりまとめ、プレゼンテーションなどを通じて文章作成とコミュニケーションの能力も涵養します。2年次（野外調査法1：必修）、3・4年次（野外調査法2：選択必

修), 4年次(卒業論文:必修)と, 対象地域を変えて3度現地調査を实践することで, 観測・観察手法と分析手法, 論理的組み立てなどを, 徐々に深く確実に修得することができます。

- ・4年間の学修の集大成といえる卒業論文の作成に対して, 各ゼミの授業とは別に, 学科全体で中間発表会2回, 本発表会(口頭試問)1回を開催します。全専任教員と4年生の参加はもちろん, 3年生以下の学部生も, この機会を活かして多様な研究テーマへの取り組みを学修できるようになっています。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

1. 卒業要件

卒業に必要な単位は124単位です。その内訳は, 社会知性基盤科目2単位, 教養科目10単位, 外国語科目8単位, 専門科目80単位, 自由選択修得要件単位となる科目24単位です(表1)。環境地理学科専門科目の科目群は, 必修科目, 選択必修科目, 選択科目に三分されます。

表1

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自由選択修得要件単位には, 所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目, 所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目, 所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目, 単位互換科目, 所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目, 資格課程の一部の科目, 全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目	2		
	保健体育系科目			
外 国 語 科 目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	26	80	
	選 択 必 修 科 目	24		
	選 択 科 目	30		
自由選択修得要件単位		24		
卒 業 要 件 単 位		124		

[環境地理学科]

【外国人留学生】 文学部環境地理学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	2	2	・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外 国 語 科 目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	26	80	
	選 択 必 修 科 目	24		
	選 択 科 目	30		
自由選択修得要件単位		24		
卒 業 要 件 単 位		124		

[環境地理学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修全般について、まず、次の諸点に注意を払ってください。

- ① 1年次に40単位、2年次に40単位、3年次に32単位、4年次に12単位を修得することを目安にして毎年の履修計画をたててください。4年次では「ゼミナール2」と「卒業論文」の作成にできるだけ時間を割いて取り組んでください。
- ② 配当年次指定科目は、その年次に履修しなければなりません。必修科目および卒業要件単位を満たしていない科目について未修得の場合のみ、上位の年次で履修することが許されます。
- ③ 同一名称の科目は原則として1つしか履修できません。(野外調査法2と一部の教養科目を除く)

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

社会知性基盤科目の必修科目として開講されるのは、「専修大学入門ゼミナール」です。これは環境地理学科の教員が担当する科目で、3クラスに分けて演習形式の授業を行います。この授業では、文献の入手方法、文献の読み方、レポートの書き方、発表の仕方など、基本的な学修方法を身につけます。

社会知性基盤科目に該当するS i 基礎科目のうち、「データサイエンス入門」は1年次の必履修科目になります。環境地理学科では数量的な分析能力や情報処理能力を養成するその他のS i 基礎科目の履修も推奨しています。

教養科目は、人文科学基礎科目、社会科学基礎科目、自然科学系科目、保健体育系科目からなります。これらのうち、人文科学基礎科目、社会科学基礎科目、自然科学系科目に該当する科目を合

計8単位以上修得してください。この8単位には人文、社会、自然の各分野のしぼりはなく任意に修得できますが、特定の分野に偏らず幅広く科目を選択して、教養を広げてください。

保健体育科目の必修科目として「スポーツリテラシー」・「スポーツウェルネス」（半期1単位）を両方（合計2単位）修得してください。

なお、教養科目には1・2年次向けのみが開講される科目が含まれるので、計画的な履修と単位修得を心がけてください。

外国語科目の英語は1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English (RL) 1 a（前期）、1 b（後期）またはIntermediate English (RL) 1 a（前期）、1 b（後期）の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1 a（前期）、1 b（後期）またはIntermediate English (SW) 1 a（前期）、1 b（後期）の2科目を履修します。

英語以外の外国語は1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、韓国語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければなりません。初級1 a（前期）、初級1 b（後期）の2科目と、初級2 a（前期）、初級2 b（後期）の2科目を履修します。

上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。環境地理学科では卒業論文で海外研究に取り組むことも期待していますので、積極的に履修して継続的な学修に努めてください。

(2) 専門科目

専門科目は後掲の専門科目一覧表（p. 145）に示すように、必修科目、選択必修科目は学年進行形式で開講していますので、必ず配当年次に履修して単位を修得してください。

履修に関して、特に次の2点に注意してください。まず、1年次の通年必修科目「環境地理学概論及び調査法」と後期必修科目「専門入門ゼミナール」を1年次で必ず修得し、1年次から規則正しく学修する習慣をつけ、地理学の基礎的な知識と技法を修得することが重要です。

第二に、環境地理学科では卒業論文が必修であり、ほぼ全員がフィールドワークを積み重ねて卒業論文を作成します。そのための実践的な調査の訓練を行うのが、2年次の通年必修科目「野外調査法1」と3・4年次の通年選択必修科目「野外調査法2」です。両方の科目を履修して、調査テーマの設定、研究史の整理、現地調査（聞き取り調査など）、収集データの整理分析、論理的考察、文章作成、プレゼンテーション、討議にわたる総合的な能力を涵養してください。

カリキュラム編成全般に関しては、次の教育方針を重視しています。

- (a) 学年進行に合わせて基礎的内容から専門深化した内容・応用的な内容へと科目群を配列します。
- (b) 分野別の系統的学修・研究と総合的な地誌的学修・研究とを科目群として併置します。
- (c) 講義科目と実験・実習科目を併置して、分析技術を用いてデータを取得・分析し、データに基づいて考察することを可能にします。また演習科目としてゼミナールを3・4年次に配し、研究テーマの設定とそのため研究史の整理（文献の読解と整理）、論理的考察、文章作成とコミュニケーション、パワーポイント等での発表やレジュメ作成などの訓練を行います。

以下に、必修科目、選択必修科目、および選択科目のそれぞれについて履修に際しての注意点を挙げます。

① 必修科目

「環境地理学概論及び調査法」：1年次生を対象にした、環境地理学に関する入門的内容の科目です。全教員が分担して地理学の基礎概念や環境地理学科における各教員の専門テーマをわかりやすく解説し、研究上の話題提供も行います。また、読図・空中写真判読・統計資料の利用法などの基礎的実習を行う科目です。

「専門入門ゼミナール」：1年次生の後期科目で、基礎的な地理情報の扱いやフィールドワークに関する入門的な学修を含めたかたちで、演習形式の授業を行います。

「野外調査法1」：2泊3日程度の野外調査を核に、その前後の準備と取りまとめの作業を通じて実態把握に基づく環境地理学の調査方法の基礎を身につけることが目的の科目です。なお、各自現地調査を行うための交通費・宿泊費等の負担が必要です。

「ゼミナール1・2」：ゼミナール1は3年次生を対象とします。9人の専任教員がそれぞれ開くゼミナールのいずれかに学生個人が選択して分属し、関心を持つ領域・分野を専門的に研究していきます。ゼミナール2は4年次生を対象とし、卒業論文作成を主な目的とします。ゼミナール1・2は合同で行われ、原則として学生は3年次から4年次にかけて同一教員のゼミナールを選択します。ゼミナール1の選択のためのガイダンスは2年次の10～11月頃に行われます。

ゼミナール1とゼミナール2はいずれも必修科目です。環境地理学科では、その履修と単位修得について、次のルールを設けています。卒業要件に関わる重要な点なので、注意してください。

- ・「ゼミナール1・2」の各配当年次では、複数履修を認めません。すなわち、3年次生がゼミナール1を履修する場合、および4年次生がゼミナール2を履修する場合、いずれの場合も、ひとつのゼミナールしか履修できません。
- ・ゼミナールは積み上げ方式のため、3年次でゼミナール1の単位が未修得の場合には、4年次でゼミナール1を再履修し、5年次以上でゼミナール2を履修します。
- ・特例として、協定校に留学した場合、4年次でのゼミナール1と2の複数履修を認めます。すなわち、異なる教員が異なる時間帯に開講しているゼミナール1とゼミナール2とをそれぞれひとつずつ履修することを認めます。ゼミナール2の担当者が卒業論文の指導を担当します。
- ・卒業論文の作成にあたっては、学科として開催する2回の中間発表会と1回の本発表会（口頭試問）において、資料を配布して口頭発表することを該当する全学生に義務づけています。これら3回の発表を行い、かつ提出論文が形式・内容両面で妥当な場合に卒業論文の単位が修得できます。卒業論文の内容については、学科で示す評価の観点を満たすことが求められます。

② 選択必修科目

ここに含まれる科目は、環境地理学の中のさまざまな分野の専門的知識を身につけるための大切な科目です。

「地理学エクスカージョン」は1年次生を対象にした、現地調査に関する入門的科目です。日帰りでの現地観察（1回）を核に、資料収集やレポート作成などの基本的な実習を行う科目であるため、積極的に履修してください。なお、調査地までの交通費等の負担が必要です。

表2（p. 141）中の「都市環境学1」「同2」から「空間情報学1」「同2」までの履修科目の中では、1でより基礎的な内容、2でより専門的・応用的な内容にしている場合もあります。そ

の場合、その分野の専門的な知識の修得のためには、1を履修したのち、または1の履修と同時に、2を履修することが望まれます。

「野外調査法2」は、ぜひとも履修してください。教室で修得した知識や技術を現実世界の中で確認し、考察するための絶好の機会であり、卒業論文の研究を進める上でも大きな力・訓練となります。学生の多様な履修を保障するために必修科目にはしていませんが、できる限り多くの学生に積極的に履修してほしい科目です。

③ 選択科目

選択科目は大きく次の3種類からなります。第一は専門科目一覧表（p. 145）に示されている「都市環境学2」から「空間情報学2」までの10科目で、これらは選択必修科目である「都市環境学1」～「空間情報学1」の科目とペアをなし、多くがより専門的に、あるいは応用的に学ぶ科目です。第二は、世界各地の地誌学・地域研究をめざす学生、地理学的環境の応用的研究の諸相を知りたい学生、環境地理学の全分野をカバーした上で卒論テーマ選択を行う学生のために設けられた科目で、「地域研究1」～「同5」、「文化地理学」「経済地理学」「陸水学」「環境地理学特殊講義A」～「同C」がこれにあたります。計画的に主に3年次に履修することが望まれます。第三は「測量学」「応用測量学」「測量学実習」「地理情報システム実習1」「同2」「リモートセンシング実習1」「同2」といった地理空間の情報を扱う技術的な科目で、これらの技術を卒業論文作成に利用する場合は、3年次までに履修しておくことが望ましいです。

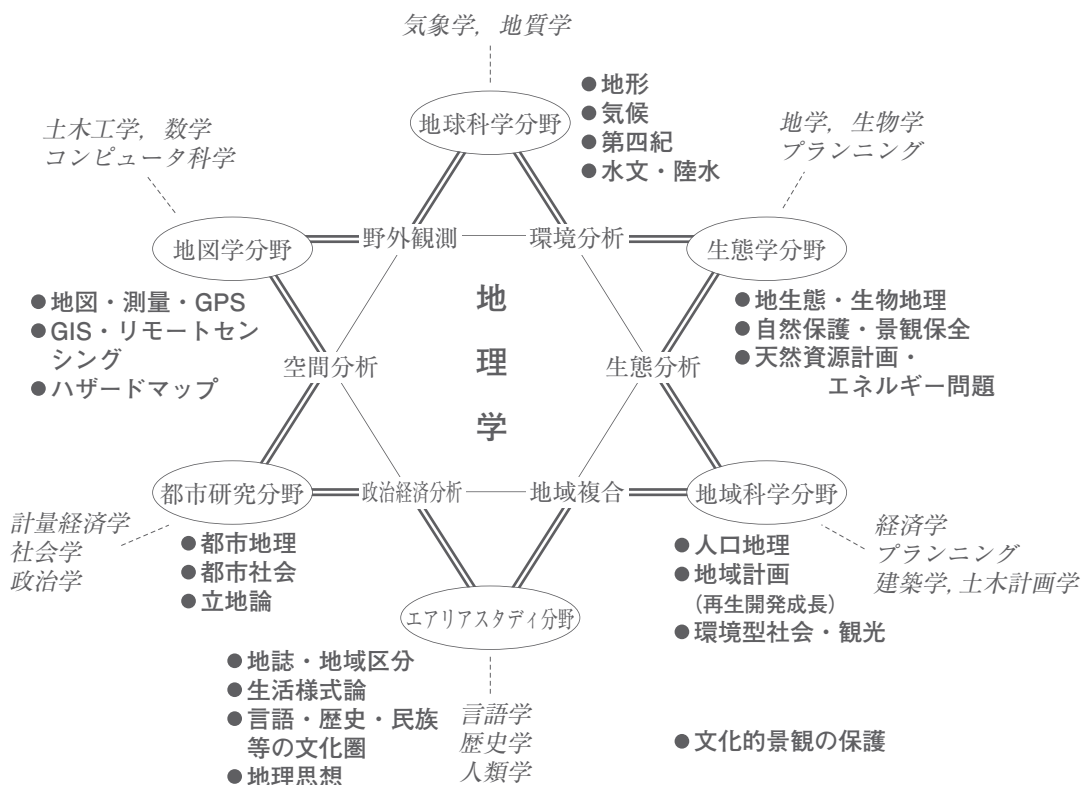


図1

国家資格「測量士補」は本学科を卒業し、各自が申請手続きして取得することができます。その際「測量学」「測量学実習」の単位を取得していることが望まれます。さらに、卒業後1年間測量の実務経験を加えると、上級の「測量士」資格も取得可能となります。(公社)日本地理学会の認定資格「GIS学術士」は、空間情報学・GIS等に関する所定の科目の単位を一定以上の成績で取得し、卒業論文でもGISを用いるなどの条件を満たした場合に取得することができます。GISの学修に各自が取り組めるよう、2号館2階に「地理学空間情報処理室」を設けています。テクニカルスタッフにも必要最小限教養を願い出て、ひとりひとり努力してください。これらの資格は、測量・地図、各種の調査コンサルタントなどの分野で働くうえで活かされると考えられます。

(4) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位とは、社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、専門科目で定められた卒業要件単位以外に、卒業までに修得しなければならない単位の総称です。

自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の8つです。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した環境地理学科開講の専門科目の単位。
- f. 環境地理学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- g. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。(8単位まで。詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- h. 環境地理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(24単位まで)

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、原則として完全に学生各自の裁量に委ねられます。本学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる非常に多くの学問分野と関連を有しており、P. ハゲットの『地理学：今日的な総合』等を参考にその内包と外延を示すと図1のようになります。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的な時間割を組んでください。ただし、卒業までに自由選択修得要件単位数が24単位に達していなければならないことを忘れないでください。

(5) 再履修について

① 必修科目の再履修

必修科目の単位取得ができなかった場合は、必ず次の年次に、同一名称の科目を再度履修してください。再履修科目は、原則として、すべてに優先して履修してください。

一度単位を修得した科目は、成績の如何にかかわらず再履修できません。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を取得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はありません。他の科目の単位を取得して卒業要件を満たすことが可能です。

Ⅲ 履修モデルと資格認定手続き

1. 履修モデル

環境地理学科を構成する諸分野を踏まえて、次の4つの履修モデルを示します。カリキュラムを組む際に参考にしてください。それぞれの領域毎に科目群も開講されています（表2）。

① 主に人文・社会環境領域を学ぼうとする場合

1年次において、「環境地理学概論及び調査法」と「専門入門ゼミナール」を履修し、人文地理学概論を中心に概論科目を履修します。また、「地理学エクスカッション」を受講し野外観察の仕方を学びます。2年次において、人文・社会環境領域を中心として講義科目を受講し、実習科目では人文環境学調査法を受講します。必要に応じて、地図・空間情報領域の実習を受講します。また、「野外調査法1」を受講し野外調査の手法を習得します。3年次になると、人文・社会環境領域の「ゼミナール1」に所属し、卒業論文作成の準備を始めます。専門領域の講義をさらに修得し、「野外調査法2」により野外調査の技能をさらに高めます。4年次には、「ゼミナール2」に所属し、卒業論文を作成します。

② 主に自然環境領域を学ぼうとする場合

1年次において、「環境地理学概論及び調査法」と「専門入門ゼミナール」を履修し、自然地理学概論を中心に概論科目を履修します。また、「地理学エクスカッション」を受講し野外観察の仕方を学びます。2年次において、自然環境領域を中心として講義科目を受講し、実習科目では自然環境学調査法を受講します。必要に応じて、地図・空間情報領域の実習を受講します。また、「野外調査法1」を受講し、野外調査の手法を習得します。3年次になると、自然環境領域の「ゼミナール1」に所属し、卒業論文作成の準備を始めます。専門領域の講義をさらに修得し、「野外調査法2」により野外調査の技能をさらに高めます。4年次には、「ゼミナール2」に所属し、卒業論文を作成します。

③ 主に地誌・地域研究領域を学ぼうとする場合

1年次において、「環境地理学概論及び調査法」と「専門入門ゼミナール」を履修し、地誌学概論を中心に概論科目を履修します。また、「地理学エクスカッション」を受講し野外観察の仕方を学びます。2年次において、人文・社会環境領域を中心として講義科目を受講し、実習科目では、人文環境学調査法を受講します。必要に応じて、地図・空間情報領域の実習を受講します。また、「野外調査法1」を受講し野外調査の手法を習得します。3年次になると、地誌・地域研究領域の「ゼミナール1」に所属し、卒業論文作成の準備を始めます。専門領域の講義をさらに修得し、「野外調査法2」により野外調査の技能をさらに高めます。4年次には、「ゼミナール2」に所属し、卒業論文を作成します。

④ 主に地図・空間情報領域を学ぼうとする場合

1年次において、「環境地理学概論及び調査法」と「専門入門ゼミナール」を履修し、概論科目を幅広く履修します。また、「地理学エクスカッション」を受講し野外観察の仕方を学びます。2年次において、地図・空間情報領域を中心として講義科目を受講し、実習科目では、地理情報システム実習やリモートセンシング実習を受講します。必要に応じて人文・社会環境領域、自然環境領域の実習も受講します。また、「野外調査法1」を受講し、野外調査の手法を習得します。3年次になると、地図・空間情報領域の「ゼミナール1」に所属し、卒業論文作成の準備を始めます。専門領域の講義をさらに修得し、「野外調査法2」により野外調査の技能をさらに高めます。4年次には、「ゼミナール2」に所属し、卒業論文を作成します。

なお、上に述べた履修モデルの如何にかかわらず、卒業要件は学科全体で同一です。

表2

	領域	1年次	2年次	3年次	4年次			
講義科目	概論	環境地理学概論及び調査法				<p><地域調査士></p> <p>太字科目（自然地理学概論1など）の中から所定の単位数を取得し、地域調査士講習会を受講することで、地域調査士の認定申請をすることができます。</p>		
		人文地理学概論1						
		人文地理学概論2						
		自然地理学概論1						
		自然地理学概論2						
	地誌学概論							
	人文・社会環境			都市環境学1				<p><GIS学術士></p> <p>下線科目（<u>地理情報システム実習1</u>など）の中から所定の単位数を取得し、GISによる分析を利用した卒業論文を執筆することで、GIS学術士の認定申請をすることができます。</p>
				都市環境学2				
				農村環境学1				
				農村環境学2				
				歴史環境学1				
				歴史環境学2				
				社会環境学1				
				社会環境学2				
	地誌・地域研究			地誌学1				<p><測量士補></p> <p>国家資格「測量士補」は本学科を卒業し、各自が申請手続きをすることで、取得することができます。</p> <p>※なお、これらの資格認定科目については、年度によって変更がある場合があるので留意してください。</p>
				地誌学2				
				地域研究1				
				地域研究2				
				地域研究3				
				地域研究4				
				地域研究5				
	自然環境			地形環境学1				
				地形環境学2				
				気候環境学1				
				気候環境学2				
				地域生態学1				
				地域生態学2				
地図・空間情報			環境地図学1					
			環境地図学2					
			空間情報学1					
			空間情報学2					
			測量学					
			応用測量学					
特殊講義			環境地理学特殊講義A					
			環境地理学特殊講義B					
			環境地理学特殊講義C					
実習・演習科目	人文・社会環境			人文環境学調査法1				
				人文環境学調査法2				
				人文環境学調査法3				
				人文環境学調査法4				
				人文環境学調査法5				
	自然環境			自然環境学調査法1				
				自然環境学調査法2				
				自然環境学調査法3				
	地図・空間情報			地理情報システム実習1				
				地理情報システム実習2				
				リモートセンシング実習1				
				リモートセンシング実習2				
				測量学実習				
	野外実習	地理学エクスカージョン						
				野外調査法1		野外調査法2		
ゼミナール	専門入門ゼミナール							
			ゼミナール1					
					ゼミナール2			
卒業論文					卒業論文			

2. 資格の取得のための条件と手続き

以下に、国家資格である測量士補と、(公社)日本地理学会が認定するGIS学術士や地域調査士の資格を取得するのに必要な条件と手続き方法について、2025年11月現在の状況を示します。手続き方法や申請に必要な費用については今後変更される可能性もありますので、これらの資格を取得する場合は、改めて確認してください。

(1) 測量士補

環境地理学科を卒業すれば、卒業とともに測量士補の登録申請を行うことができます。その際「測量学」「測量学実習」の単位を取得していることが望まれます。

測量士補の資格登録は、各自が卒業後に申請する必要があります。申請を行う場合は、登録申請書用紙を国土地理院ホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上、大学の卒業証明書、成績証明書、登録通知書送付用封筒(宛先を記入し所要の切手を添付したもの)とともに国土地理院に簡易書留で郵送するか持参して提出します。登録には登録免許税15,000円が課せられており、その金額の収入印紙または国税収納金整理資金納付書の領収証書(原本)を登録申請書の所定欄に添付することが必要です。申請後、登録までに通常50日程度を要します。国土地理院の住所等は次のとおりです。

国土地理院

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土交通省国土地理院 総務部総務課 試験登録係

<https://www.gsi.go.jp/>

(2) GIS学術士

GIS学術士認定規程に基づいて認定された科目(認定科目)の単位を取得して卒業し、かつ卒業論文がGISを利用して複数の主題図を作成するとともに1つ以上の空間分析を実行したものであることが、資格の取得に必要です。認定科目は(公社)日本地理学会の資格専門委員会のホームページに掲載されています。申請を行う場合は、上記のホームページから申請書をダウンロードし、(公社)日本地理学会資格専門委員会に提出します。GIS学術士の認定には手数料(6,000円+税)が必要です。申請の審査は年3回に限定されており、その日程は上記のホームページに掲載されています。なお、3年次を終了して一定の条件を満たす場合には、「GIS学術士(見込み)証明書」の発行を受けることができます(手数料1,200円+税が必要です)。

(3) 地域調査士

地域調査士の標準カリキュラムに認定された科目(認定科目)を履修して卒業し、かつ「地域調査士講習」を受講することが、資格の取得に必要です。認定科目の一覧は(公社)日本地理学会の資格専門委員会のホームページに掲載されています。申請を行う場合は、上記のホームページから申請書をダウンロードし、(公社)日本地理学会資格専門委員会へ提出します。地域調査士の認定には手数料(6,000円+税)が必要です。資格の取得を希望する者は、3年次か4年次に地域調査士講習を受講しておくといいです(受講料12,000円+税)。申請の方法や講習会の日時・会場などの情報は上記のホームページに掲載されています。なお、一定の条件で単位を取得し、地域調査士講習を受講済みの場合は、在学中に「地域調査士取得見込み証明書」の発行を受けることができます(手数料1,200円+税が必要です)。

文学部環境地理学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区 分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	卒業要件単位	備 考			
社会知性基盤科目	S i 基礎科目	専修大学入門ゼミナール				2	・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。		
		データ分析入門							
		データサイエンス入門							
		データサイエンス実践							
		A I 基礎	データサイエンス活用演習						
	S i 応用科目	キャリア入門							
		キャリアマッチング							
		キャリア長期体験(プロジェクト型)							
			キャリア科目1						
			キャリア科目2						
	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)					
		分野横断科目							
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)					
				S iゼミナール論文					
教 養 科 目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学	論理学入門 ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代			・卒業要件単位 10 単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、履修1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。		
		社会科学基礎科目	日本国憲法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	社会学入門 現代の社会学 社会学論 社会思想 教育学入門 子どもと社会の教育学	情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計				
	自然科学系科目	あなたと自然科学							
		自然科学実験演習 1 自然科学実験演習 2 (4)	生物学 C 1 生物学 C 2 宇宙地球科学 A 1 宇宙地球科学 A 2 宇宙地球科学 B 1 宇宙地球科学 B 2	化学 A 1 化学 A 2 化学 B 1 化学 B 2 物理学 A 1 物理学 A 2	物理学 B 1 物理学 B 2 数理学 A 1 数理学 A 2 数理学 B 1 数理学 B 2	数理学 C 1 数理学 C 2 科学論 A 1 科学論 A 2 科学論 B 1 科学論 B 2			
	保健体育系科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)						2	
				アドバンストスポーツ スポーツ論 (ウェルビーイング)	スポーツ論 (サスティナブルスポーツ) スポーツ論 (ハイパフォーマンススポーツ)				
	英 語	A 群	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・General English は、英語「A・B群」を履修したうえで、単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b、Advanced English a・b、English Language and Cultures a・b は、各科目4単位まで修得することができます。 ・同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。
			B 群	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)					
				General English (1)					
			English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				
外国語科目	英語以外の外国語	ドイツ語初級 1 a (1) ドイツ語初級 1 b (1) ドイツ語初級 2 a (1) ドイツ語初級 2 b (1) フランス語初級 1 a (1) フランス語初級 1 b (1) フランス語初級 2 a (1) フランス語初級 2 b (1) 中国語初級 1 a (1) 中国語初級 1 b (1) 中国語初級 2 a (1) 中国語初級 2 b (1) スペイン語初級 1 a (1) スペイン語初級 1 b (1) スペイン語初級 2 a (1) スペイン語初級 2 b (1) ロシア語初級 1 a (1) ロシア語初級 1 b (1) ロシア語初級 2 a (1) ロシア語初級 2 b (1) インドネシア語初級 1 a (1) インドネシア語初級 1 b (1) インドネシア語初級 2 a (1) インドネシア語初級 2 b (1) 韓国語初級 1 a (1) 韓国語初級 1 b (1) 韓国語初級 2 a (1) 韓国語初級 2 b (1)					4		
		ドイツ語中級 1 a (1) ドイツ語中級 1 b (1) ドイツ語中級 2 a (1) ドイツ語中級 2 b (1) フランス語中級 1 a (1) フランス語中級 1 b (1) フランス語中級 2 a (1) フランス語中級 2 b (1) 中国語中級 1 a (1) 中国語中級 1 b (1) 中国語中級 2 a (1) 中国語中級 2 b (1) スペイン語中級 1 a (1) スペイン語中級 1 b (1) スペイン語中級 2 a (1) スペイン語中級 2 b (1) ロシア語中級 1 a (1) ロシア語中級 1 b (1) ロシア語中級 2 a (1) ロシア語中級 2 b (1) インドネシア語中級 1 a (1) インドネシア語中級 1 b (1) インドネシア語中級 2 a (1) インドネシア語中級 2 b (1) 韓国語中級 1 a (1) 韓国語中級 1 b (1) 韓国語中級 2 a (1) 韓国語中級 2 b (1)					8		
				ドイツ語上級 1 a (1) ドイツ語上級 1 b (1) フランス語上級 1 a (1) フランス語上級 1 b (1) 中国語上級 1 a (1) 中国語上級 1 b (1) スペイン語上級 1 a (1) スペイン語上級 1 b (1)					
				選択ドイツ語 1 a (1) 選択ドイツ語 1 b (1) 選択フランス語 1 a (1) 選択フランス語 1 b (1) 選択中国語 1 a (1) 選択中国語 1 b (1)	選択スペイン語 1 a (1) 選択スペイン語 1 b (1) 選択ロシア語 1 a (1) 選択ロシア語 1 b (1) 選択アラビア語 1 a (1) 選択アラビア語 1 b (1)	選択イタリア語 1 a (1) 選択イタリア語 1 b (1)			
			世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語)	世界の言語と文化 (コアア語)			
			言語文化研究 (ヨーロッパ)	言語文化研究 (アジア)	言語文化研究 (アメリカ)				
		海外語学研修	海外語学短期研修 1 (外国語)	海外語学短期研修 2 (外国語)					
			海外語学中期研修 1 (外国語) 海外語学中期研修 2 (外国語) 海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 4 (外国語) 海外語学中期研修 5 (外国語) 海外語学中期研修 6 (外国語)	海外語学中期研修 7 (外国語) 海外語学中期研修 8 (外国語)				
		単位互換科目	単位互換 1	単位互換 2 (4)	単位互換 3 (1)				
		自由選択修得要件単位					24		

環境地理学科

【外国人留学生】文学部環境地理学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	卒業要件単位	備 考	
社会知性基盤科目	専修大学入門ゼミナール				2	・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を履修し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。	
	データ分析入門						
	データサイエンス入門						
	データサイエンス実践						
		A1基礎					
		データサイエンス活用演習					
	キャリア入門						
	キャリアマッチング						
	キャリア長期体験(プロジェクト型)						
		キャリア科目1					
	キャリア科目2						
	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)			
S i応用科目		分野横断科目					
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)			
留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			S iゼミナール論文	4	・卒業要件単位10単位を超えて履修した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。	
人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学	論理学入門 こゝろと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代				
社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	社会学入門 現代の社会学 社会学論 社会思想 教育学入門 子どもと社会の教育学	情報社会学 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計				
自然科学系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4) 生物科学A1 生物科学A2 生物科学B1 生物科学B2	生物科学C1 生物科学C2 宇宙地球科学A1 宇宙地球科学A2 宇宙地球科学B1 宇宙地球科学B2	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2	物理学B1 物理学B2 数理科学A1 数理科学A2 数理科学B1 数理科学B2	数理科学C1 数理科学C2 科学論A1 科学論A2 科学論B1 科学論B2		
保健体育系科目	スポーツアテラン(1) スポーツウェルネス (1)				2		
		アドバンストスポーツ スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(サスティナブルスポーツ) スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)				
外国語科目	日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)					8
			応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)				
	A	Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または 群 Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)					・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・b」は、各科目4単位まで修得することができます。
	B	Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または 群 Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)					
		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b			
	導	ドイツ語初級1a (1) ドイツ語初級1b (1) ドイツ語初級2a (1) ドイツ語初級2b (1) フランス語初級1a (1) フランス語初級1b (1) フランス語初級2a (1) フランス語初級2b (1)	中国語初級1a (1) 中国語初級1b (1) 中国語初級2a (1) 中国語初級2b (1) スペイン語初級1a (1) スペイン語初級1b (1) スペイン語初級2a (1) スペイン語初級2b (1)	ロシア語初級1a (1) ロシア語初級1b (1) ロシア語初級2a (1) ロシア語初級2b (1) インドネシア語初級1a (1) インドネシア語初級1b (1) インドネシア語初級2a (1) インドネシア語初級2b (1)	コリア語初級1a (1) コリア語初級1b (1) コリア語初級2a (1) コリア語初級2b (1)	8	
	母語以外の外国語		基礎 ドイツ語中級1a (1) ドイツ語中級1b (1) ドイツ語中級2a (1) ドイツ語中級2b (1) フランス語中級1a (1) フランス語中級1b (1) フランス語中級2a (1) フランス語中級2b (1)	中国語中級1a (1) 中国語中級1b (1) 中国語中級2a (1) 中国語中級2b (1) スペイン語中級1a (1) スペイン語中級1b (1) スペイン語中級2a (1) スペイン語中級2b (1)	ロシア語中級1a (1) ロシア語中級1b (1) ロシア語中級2a (1) ロシア語中級2b (1) インドネシア語中級1a (1) インドネシア語中級1b (1) インドネシア語中級2a (1) インドネシア語中級2b (1)	コリア語中級1a (1) コリア語中級1b (1) コリア語中級2a (1) コリア語中級2b (1)	
	応			ドイツ語上級1a (1) ドイツ語上級1b (1) フランス語上級1a (1) フランス語上級1b (1) 中国語上級1a (1) 中国語上級1b (1) スペイン語上級1a (1) スペイン語上級1b (1)	ロシア語上級1a (1) ロシア語上級1b (1) インドネシア語上級1a (1) インドネシア語上級1b (1) コリア語上級1a (1) コリア語上級1b (1)		
			選択ドイツ語1a (1) 選択ドイツ語1b (1) 選択ドイツ語2a (1) 選択ドイツ語2b (1) 選択フランス語1a (1) 選択フランス語1b (1) 選択中国語1a (1) 選択中国語1b (1)	選択スペイン語1a (1) 選択スペイン語1b (1) 選択フランス語1a (1) 選択フランス語1b (1) 選択アラビア語1a (1) 選択アラビア語1b (1)	選択イタリア語1a (1) 選択イタリア語1b (1)		
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)			
		言語文化研究(ヨーロッパ)	言語文化研究(アジア)	言語文化研究(アメリカ)			
海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					
		海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			
単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)				
	自由選択修得要件単位				24		

環境地理学科

文学部環境地理学科専門科目一覧

凡例:○必修、◎選択必修、△選択

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 単 位	備考
	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選		
社会知性基盤科目									2	
教養科目									10	
外国語科目									8	
単位互換科目										
専 門 科 目	専門入門ゼミナール	○	野外調査法1 (4)	○	ゼミナール1 (4)	○	ゼミナール2 (4)	○	26	6科目26単位必修
	環境地理学概論及び調査法(4)	○					卒業論文 (8)	○		
	地理学エクスカースョン (1)	◎							6	6単位選択必修
	人文地理学概論1			◎						
	人文地理学概論2			◎						
自然地理学概論1			◎					8	8単位選択必修 野外調査法2は卒業までに8単位修得することができます。ただし、同一年度内での重複履修はできません。次年度以降、担当教員が異なる場合に限り、4単位まで追加履修が可能です。追加修得分は選択科目の単位に算入され、選択必修科目としての修得単位は4単位に限ります。	
自然地理学概論2			◎							
地誌学概論			◎							
			人文環境学調査法1			◎			8	8単位選択必修 野外調査法2は卒業までに8単位修得することができます。ただし、同一年度内での重複履修はできません。次年度以降、担当教員が異なる場合に限り、4単位まで追加履修が可能です。追加修得分は選択科目の単位に算入され、選択必修科目としての修得単位は4単位に限ります。
			人文環境学調査法2			◎				
			人文環境学調査法3			◎				
			人文環境学調査法4			◎			10	5科目10単位選択必修
			人文環境学調査法5			◎				
			自然環境学調査法1			◎				
			自然環境学調査法2			◎			◎	
			自然環境学調査法3			◎				
			野外調査法2 (4)				◎			
			都市環境学1			◎			10	5科目10単位選択必修
			農村環境学1			◎				
			歴史環境学1			◎				
			社会環境学1			◎				
			地誌学1			◎				
			地形環境学1			◎				
			気候環境学1			◎				
			地域生態学1			◎				
			環境地図学1			◎				
			空間情報学1			◎				
			都市環境学2			△		30	30単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。	
			農村環境学2			△				
			歴史環境学2			△				
			社会環境学2			△				
			地誌学2			△				
			地形環境学2			△				
			気候環境学2			△				
			地域生態学2			△				
			環境地図学2			△				
			空間情報学2			△				
			地域研究1			△				
			地域研究2			△				
			地域研究3			△				
			地域研究4			△				
			地域研究5			△				
			文化地理学			△				
			経済地理学			△				
			陸水学			△				
			地理情報システム実習1			△				
			地理情報システム実習2			△				
			リモートセンシング実習1			△				
			リモートセンシング実習2			△				
			測量学			△				
			応用測量学			△				
			測量学実習 (4)			△				
			環境地理学特殊講義A			△				
			環境地理学特殊講義B			△				
			環境地理学特殊講義C			△				
自由選択 修得要件 単位と なる科目	環境地理学科の学生に受講が認められている社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、文学部開講の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック参照。全学公開科目。								24	社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、専門科目の超過修得単位および単位互換科目は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得 単位の 目安	40		40		32		12		124	

環境地理学科

ジャーナリズム学科

I ジャーナリズム学科の特色

日本で初めて「ジャーナリズム」を学科名に冠した本学科は、ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成することを目的としています。なお、本学は「マスコミ・ジャーナリズム講座」以来、約60年のメディア教育の歴史を有し、これまでの人文・ジャーナリズム学科を発展的に改組し2019年4月に発足しました。ジャーナリズム学科では、学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき知識・能力について、次の通り定めています。

- (1) ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、説明することができる。（知識・理解）
- (2) 社会事象に関する情報・データを収集・処理し、それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる。（汎用的技能）
- (3) ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ、氾濫する情報を複眼的、批判的、論理的に分析し、現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
- (4) 広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し、良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる。（態度・志向性）

国際化・情報化が高度に進んだ現在、周囲には虚実様々な情報が溢れています。ジャーナリズム学科の学生には、世界の国々や地域社会、あるいはメディアの世界で起きている現実を、深い問題意識をもって理解し、“自分の言葉で他者と対話する力”を身につけ、情報スペシャリストをめざしてください。

ジャーナリズム学科では、カリキュラムを編成するにあたり、「ジャーナリズム」、「情報文化アーカイブ」、「メディアプロデュース」、「スポーツインテリジェンス」の4つの学びの柱を設けています。（p. 154を参照）

- ・ **ジャーナリズム**：社会を見る眼を養い、表現力を高める能力を身につける、本学科の基幹科目群です。プロ・ジャーナリストをめざす者のための、情報の収集と分析、発信のあり方を学びます。
- ・ **情報文化アーカイブ**：日々生み出される情報を文化資源と捉え、的確に収集・整理・管理・活用する専門的知識を学びます。資格課程と合わせて履修することで、図書館司書、博物館学芸員の資格を取得することも可能です（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。従来の司書、学芸員を超えたアーキビストの養成をめざします。
- ・ **メディアプロデュース**：具体的なメディア製作、とりわけデジタルメディア上の表現手法を学び、紙・映像・ネット上の情報加工・発信力を身につけることができ、デザイナーやエンジニアと呼ばれる、表現クリエイター・ディレクターの養成をめざします。
- ・ **スポーツインテリジェンス**：劇的に進展するスポーツ分野での情報活用に着目し、データの収

集・分析や活用，コーチング等について学ぶことができます。所定の科目を修得することで日本スポーツ協会のスポーツコーチングリーダー（スポーツ指導者基礎資格）を申請することができます（p. 165「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について」を参照）。

4年間の学びは，上記の4つの科目群から自由に科目を選択し，自分の将来設計にあった学びを実現することになります。ただしその前段として，別項目で説明する社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目，単位互換科目を，定められた方法により履修することが必要です。それと並行して1年次において，専門基礎科目として，本学科で学ぶにあたって必ず学ぶべき科目（必修科目）と，できる限り学ぶことを強く勧めるいくつかの専門科目を用意しています。

こうした学びを通じて，4つの科目群から特に中心的に学ぶ科目群（主たる学びの柱）と，更にもう1つか2つの自分の興味・関心にあった科目群（従たる学びの柱）を定め，それらの科目群を中心にカリキュラムを組み立てることで，4年間の体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることができる仕組みになっています。

また，いずれの科目群を選択した場合でも，2年次から3年次に進級する時に，大学における学びの華である「ゼミナール」の所属を決定します。ゼミナールは少人数で専門的なテーマに関する学生の発表と，それをめぐる議論を中心に運営される授業であることから，定員を設けています。これらは2年次秋に行なわれるガイダンスを受けた後に，「希望届」を提出し，決定します。

また，「沖縄ジャーナリズム論」などの現地集中講義を実施する「実習」や，テーマ別の自発的双方的な学習を実施する「プロジェクト」などの実践的な科目や，外部のメディア系企業・組織との「協力講座」科目が多彩であることも，他学部他学科にはない本学科のカリキュラムの大きな特色です。それぞれの科目には履修の条件があるため，事前に講義要項（シラバス）を熟読し，自身のカリキュラムを作成してください。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

ジャーナリズム学科の学生として，大学を卒業するために必要な諸要件と，科目の具体的な履修方法について概説します。以下の説明をよく読み，それによって履修計画を立ててください。科目の履修は，「単位」によって計算します。講義名である「科目」によって単位数は異なり，専門科目の場合は一部の科目を除き，1科目＝2単位（半期）です。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要ですが（一般的な要件については，p. 39「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，ジャーナリズム学科の学生には，次頁の表に示した要件を充たすことが要求されます。すなわち，大学においては半年の講義・演習を履修し終えれば，所定の単位が修得できます。その積み重ねで，4年間で少なくとも「124単位」を修得しないと卒業できません。また，修得すべき単位は，決められたルールを守っている限り，自分の興味がある科目を自由に選択することが可能です。まさに自分色の「マイ・カリキュラム」を作ることが可能です。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解したうえでこの表を改めて見直し，確認してください。

文学部ジャーナリズム学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目			・自由選択修得要件単位には、社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」、「データサイエンス入門」は必履修科目です。 ・専門科目の「プロジェクト A」または「プロジェクト B」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	人文科学基礎科目	8	10	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	保健体育系科目	2		
外国語科目	英 語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	24	82	
	選 択 科 目	58		
自由選択修得要件単位		24		
卒 業 要 件 単 位		124		

[ジャーナリズム学科]

【外国人留学生】 文学部ジャーナリズム学科

区 分		卒業要件単位		備 考
社会知性基盤科目	S i 基礎科目			・自由選択修得要件単位には、社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」、「データサイエンス入門」は必履修科目です。 ・専門科目の「プロジェクト A」または「プロジェクト B」は必履修科目です。
	S i 応用科目			
教 養 科 目	留学生専修科目	4	10	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
外国語科目	日 本 語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
単 位 互 換 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	24	82	
	選 択 科 目	58		
自由選択修得要件単位		24		
卒 業 要 件 単 位		124		

[ジャーナリズム学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意してください。

- ① 「教養科目」10単位、「外国語科目」8単位、「専門科目」82単位、「自由選択単位となる科目」24単位、合計124単位以上を修得しなければなりません。
- ② 各年次に修得する単位の日安（1年次34単位、2年次38単位、3年次38単位、4年次14単位）があるので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立ててください（1年間で修得できる上限単位数は48単位と定められています）。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修してください。また、指定された配当年次が複数年次にわたる科目は、なるべく低年次で履修しておく方が望ましいです。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できません。同一名称の科目が複数あることは珍しくありませんが、一度に同一名称の科目を2つ以上履修できません。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

教養科目、外国語科目には、それぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意してください。社会知性基盤科目は pp. 51～56 に、教養科目は pp. 57～64 に、外国語科目については pp. 65～76、単位互換科目については p. 78 に詳しい説明があるので、それを参考にして、以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

S i 基礎科目に配置されている「専修大学入門ゼミナール」並びに「データサイエンス入門」は必修科目です。1年次前期4単位（2科目）。なお、この科目は「必修」と呼ばれ、必ず受講しなければなりません。万が一、単位の取得ができなかった場合も、翌年に再履修をする必要はありません。修得した単位は自由選択修得単位として算入されます。

② S i 応用科目

S i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で履修できません。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されます。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」,「スポーツウェルネス」を履修し,必ず修得してください。修得できなかった場合は,再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し,前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English (RL) 1 a (前期), 1 b (後期) またはIntermediate English (RL) 1 a (前期), 1 b (後期) の2科目と, B群のBasics of English (SW) 1 a (前期), 1 b (後期) またはIntermediate English (SW) 1 a (前期), 1 b (後期) の2科目を履修します。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国の中から1ヶ国語を選択して, 前期2単位・後期2単位の計4単位(4科目)を必ず修得してください。初級1 a (前期), 初級1 b (後期) の2科目と初級2 a (前期), 2 b (後期) の2科目を履修します。

③ 上記以外の科目

上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得単位として算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には必ず修得しなければならない必修科目(p. 157「文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧」で○印のついた科目), 多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目(△印のついた科目)の2通りがあります。

必修科目は, 1年次配当の「情報表現実習(基礎)」, 「情報表現実習(応用)」, 「ジャーナリズム論」, 2年次配当の「情報表現実習(展開)」, 「言論法」, 3年次配当の「ゼミナール1・2」, 4年次配当の「ゼミナール3・4」, 「卒業論文・制作」の10科目であり, いずれの単位が欠けても卒業できません。「ゼミナール1・2・3・4」は, 少人数で専門的なテーマに関する学生の発表とそれをめぐる議論を中心に運営される授業, 「卒業論文・制作」は自らが選んだテーマについての深い研究の結果をまとめるもので, いずれもジャーナリズム学科での学びの中核であるので, 積極的に取り組んでください。

「プロジェクト」は必修科目です。「プロジェクトA」, 「プロジェクトB」のうち, いずれか1つもしくは2つを, 2年次で履修することが必要です。履修状況は, ゼミナールの選考にも使用されます。

ゼミナール及び卒業論文・制作の履修については、次のような制約があるので気をつけてください。

- ① ゼミナール1・2は複数（並列）履修ができません。
- ② ゼミナール3・4は複数（並列）履修ができません。
- ③ ゼミナール1・2・3・4及び卒業論文・制作は積み上げ方式のため、原則として同一教員のゼミナールを履修し、そこで指導を受けます。（ゼミナール4履修者もしくは修得後のみ卒業論文・制作の履修登録を認めます。）
- ④ 3年次にゼミナール1・2が未取得の場合（協定校留学含む）、学科会議承認の下に、4年次でのゼミナール1・2と3・4との複数（直列）履修と卒業論文・制作の提出を認めます。同じ教員のゼミナールが原則ですが、ゼミナール3・4がゼミナール1・2と合併で展開している場合は、別のゼミナールを履修しなくてはなりません。

履修の仕方の基本は、第1に年次別の必修科目、第2に自分が主たる学びの中心とする専門科目の順となります。具体的には、以下の流れに沿って履修をすることを求めます（詳細は、ガイダンスで説明します）。

1年次の場合、必修科目（必履修科目・選択必修科目を含む）であるS i基礎科目2科目、外国語科目（英語と英語以外の外国語）8科目、教養科目人分・社会・自然から4科目、保健体育系科目の「スポーツリテラシー」、「スポーツウェルネス」の2科目の合計22単位と、専門科目の必修科目である「情報表現実習（基礎）」「情報表現実習（応用）」「ジャーナリズム論」の計6単位以外は、可能な限り専門科目を履修することを勧めます。

ただし上記の科目だけで28単位となり、1年間で履修できる単位数の上限は48単位と決まっているので、実際に履修可能な科目数はそれほど多くありません。具体的には、最大で20単位（10科目）の履修が可能であるので、それらを、1年次に配当された専門科目基礎科目に配置された合計10科目から選択することになります。

2年次以降は、専門科目の履修のほか、最初に述べたとおり、自分の関心・将来設計に合わせた科目群の科目を中心に履修計画を組むことを求めます。「ジャーナリズム」、「情報文化アーカイブ」、「メディアプロデュース」、「スポーツインテリジェンス」のどの科目群に該当する科目か、p. 154の表をよく確認してください。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目

自由選択修得要件単位となる科目とは、教養科目、外国語科目、単位互換科目の卒業要件単位、および専門科目の卒業要件単位を修得したうえで、さらに修得する科目の総称です。自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の8つです。

- a. 社会知性基盤科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 単位互換科目。
- e. 選択科目の卒業要件単位を超えて修得したジャーナリズム学科開講の専門科目の単位。

- f. ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- g. 司書課程・学校司書科目の単位。(8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- h. ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(24単位まで)

自由選択修得要件単位となる科目は、科目区分にとらわれずに、自由に履修する科目です。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでください。ただし、ジャーナリズム学科の学生は、自由選択修得要件単位数が卒業までに24単位に達していなければならないことを忘れないでください。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

必修科目の単位を、何らかの理由で修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再履修してください。ただし「英語以外の外国語」については、言語を変えて再履修することも可能です(同一言語で4単位の修得が必要です。)再履修科目は、すべてに優先して履修してください。なお、一度単位を修得した科目の再履修はできません。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能です。

(5) 中期留学をした場合の単位認定について

ジャーナリズム学科においては、海外に留学し研鑽を積むことを推奨します。本学には正規の留学プログラムとして、短期、中期、長期の3種類があります。ここで説明するのは、半年間の海外の協定校等への留学である、中期留学プログラムについてです。本学協定校等で所定の中期留学プログラムの単位を取得した場合、単位認定は次のように行います。

- ① 学科所定の専門科目「中期留学プログラム1～8」の単位が認定されます。この単位認定は16単位をまとめて行うものとし、一部での単位認定は認めません。
- ② 本人の希望に応じ、教養科目の「海外語学中期研修」として認定することもできます。したがって、留学を複数回行うことは可能であり、その場合は、専門科目として1回、教養科目として1回認定されます。ただし、同一の大学に留学した場合は、単位認定の対象とはなりません。

ジャーナリズム学科専門科目 必修科目, 共通科目, 4つの科目群

<共通科目> ※太字は必修科目

科目群	科目名	配当年次	単位数
科目群共通科目	ジャーナリズム論	1	2
	情報表現実習 (基礎)	1	2
	情報表現実習 (応用)	1	2
	情報表現実習 (展開)	2	2
	言論法	2	2

科目群	科目名	配当年次	単位数
科目群共通科目	プロジェクトA	23	2
	プロジェクトB	23	2
	ゼミナール1	3	2
	ゼミナール2	3	2
	ゼミナール3	4	2
	ゼミナール4	4	2
	卒業論文・制作	4	6
	ジャーナリズム学特殊講義1	234	1
	ジャーナリズム学特殊講義2	234	1
	ジャーナリズム学特殊講義3	234	1
	ジャーナリズム学特殊講義4	234	1
	中期留学プログラム1	234	2
	中期留学プログラム2	234	2
	中期留学プログラム3	234	2
	中期留学プログラム4	234	2
	中期留学プログラム5	234	2
	中期留学プログラム6	234	2
	中期留学プログラム7	234	2
中期留学プログラム8	234	2	

<4つの科目群>

科目群	科目名	配当年次	単位数
ジャーナリズム系科目群	新聞学	123	2
	放送学	123	2
	出版学	123	2
	現代社会とジャーナリズム	123	2
	ウェブジャーナリズム論	123	2
	科学ジャーナリズム論	234	2
	フォト・ジャーナリズム論	234	2
	国際ジャーナリズム論	234	2
	経済ジャーナリズム論	234	2
	政治ジャーナリズム論	234	2
	戦争ジャーナリズム論	234	2
	沖縄ジャーナリズム論	234	2
	憲法とジャーナリズム	234	2
	ジャーナリズムの倫理	234	2
	調査報道論	234	2
	インタビュー論	234	2
	ライティング1	234	2
ライティング2	234	2	

科目群	科目名	配当年次	単位数
メディアアプロデュース系科目群	メディアコミュニケーション史	123	2
	広告学	234	2
	広報・PR論	234	2
	コンテンツ産業論	234	2
	世論調査	234	2
	メディアコンテンツ制作	234	2
	アニメ産業論	234	2
	マンガ論	234	2
	情報マーケティング	234	2
	映像表現技法	234	2
	視覚表現論	234	2
	グラフィックデザイン	234	2
	ウェブデザイン	234	2
	知的財産権	234	2
映像特殊実習	34	2	
シナリオライティング実習	34	2	

科目群	科目名	配当年次	単位数
情報文化アーカイブ系科目群	パブリックメディア論	123	2
	アーカイブ概論	123	2
	電子出版論	123	2
	アーカイブ発達史	123	2
	情報アクセシビリティ論	234	2
	市民とメディア	234	2
	娯楽とメディア	234	2
	教育とメディア	234	2
	宗教とメディア	234	2
	アーカイブ制度・経営論	234	2
	デジタルアーカイブ	234	2
	図書館と出版文化	234	2
	博物館と文化資源	234	2
	記録・史資料調査法	234	2
	記録・史資料調査実習	234	2
	難民とメディア	34	2
	情報公開・公文書管理	34	2

科目群	科目名	配当年次	単位数
スポーツインテリジェンス	情報とスポーツ	1234	2
	現代社会とスポーツ	1234	2
	スポーツジャーナリズム論	234	2
	スポーツ情報戦略	234	2
	スポーツ政策	234	2
	心理情報とメンタルマネジメント	234	2
	スポーツ心理の情報分析	234	2
	コンディショニングのための情報分析	234	2
	スポーツ医学情報	234	2
	スポーツ栄養のイノベーション	234	2
	コーチング論	234	2
	コーチング実習	234	2
	スポーツ文化の国際比較研究	234	2
	スポーツと法	234	2
	ライフステージと健康情報	234	2
	スポーツインテリジェンス特講	34	2
	スポーツ総合実習	34	2
測定・調査実習	34	2	

文学部ジャーナリズム学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は2単位）。

区 分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	卒業要件単位	備 考	
社会知性基盤科目	専修大入学入門ゼミナール					<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 	
	データ分析入門						
	データサイエンス入門						
	データサイエンス実践						
		A I基礎	データサイエンス活用演習				
	キャリア入門						
	キャリアマッチング						
	キャリア長期体験（プロジェクト型）						
			キャリア科目1				
			キャリア科目2				
S i応用科目	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)			
		分野横断科目					
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)			
教養科目	日本の文化	歴史と地域・民衆	論理学入門			<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件単位 10 単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、前期1科目を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます。（修得単位の上限はありません）。 	
	世界の文学	歴史と社会・文化	ことばと論理				
	文学と現代世界	基礎心理学入門	芸術学入門				
	英語圏文学への招待	応用心理学入門	異文化理解の人類学				
	歴史の視点	倫理学					
	日本国憲法	地理学への招待	子どもと社会の教育学				
	法と社会	社会学入門	情報社会				
	政治学入門	現代の社会学	はじめての経営				
	政治の世界	社会学論	マーケティングベーシックス				
	経済と社会	社会思想	企業と会計				
現代の経済	教育学入門						
自然科学系科目	あなたと自然科学					<ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b、Advanced English a・b、English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。 ・同一言語の科目をすべて（4科目4単位）履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。 	
	自然科学実験演習 1	生物科学C 1	化学A 1	物理学B 1	数理学C 1		
	自然科学実験演習 2 (4)	生物科学C 2	化学A 2	物理学B 2	数理学C 2		
	生物科学A 1	宇宙地球科学A 1	化学B 1	数理学A 1	科学論A 1		
	生物科学A 2	宇宙地球科学A 2	化学B 2	数理学A 2	科学論A 2		
	生物科学B 1	宇宙地球科学B 1	物理学A 1	数理学B 1	科学論B 1		
	生物科学B 2	宇宙地球科学B 2	物理学A 2	数理学B 2	科学論B 2		
	スポーツリテラシー (1)						
	スポーツウェルネス (1)						
			アドバンストスポーツ	スポーツ論 (サステイナブルスポーツ)	スポーツ論 (ハイパフォーマンススポーツ)		
英 語	A Basics of English (RL) 1a (1)					<ul style="list-style-type: none"> ・General Englishは、英語「A・B群」を履修したうえで、単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b、Advanced English a・b、English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。 ・同一言語の科目をすべて（4科目4単位）履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。 	
	A Basics of English (RL) 1b (1)						
	群 Intermediate English (RL) 1a (1)						
	群 Intermediate English (RL) 1b (1)						
	B Basics of English (SW) 1a (1)						
	B Basics of English (SW) 1b (1)						
	群 Intermediate English (SW) 1a (1)						
	群 Intermediate English (SW) 1b (1)						
		General English (1)					
	English Speaking a (1)	Computer Aided Instruction a (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			
English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				
	Advanced English a	English Presentation a	English Presentation b				
	Advanced English b	English Language and Cultures a	English Writing a				
	English Language and Cultures a	English Language and Cultures b	English Writing b				
外国語科目	ドイツ語初級1 a (1)					<ul style="list-style-type: none"> ・各科目2単位まで修得することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・各科目、同一年度に2単位、年度を超えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで修得することができます。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択1 a・bを履修する場合には、同一言語の選択1 a・bをセットで履修してください。 ・「導入」と選択1 a・bの両者を履修する場合は、同一言語を履修することはできません。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 	
	ドイツ語初級1 b (1)						
	ドイツ語初級2 a (1)						
	ドイツ語初級2 b (1)						
	フランス語初級1 a (1)						
	フランス語初級1 b (1)						
	フランス語初級2 a (1)						
	フランス語初級2 b (1)						
	中国語初級1 a (1)						
	中国語初級1 b (1)						
英語以外の外国語	ドイツ語初級2 a (1)						
	ドイツ語初級2 b (1)						
	中国語初級2 a (1)						
	中国語初級2 b (1)						
	スペイン語初級1 a (1)						
	スペイン語初級1 b (1)						
	スペイン語初級2 a (1)						
	スペイン語初級2 b (1)						
	ロシア語初級1 a (1)						
	ロシア語初級1 b (1)						
基礎	ドイツ語初級2 a (1)						
	ドイツ語初級2 b (1)						
	インドネシア語初級1 a (1)						
	インドネシア語初級1 b (1)						
	インドネシア語初級2 a (1)						
	インドネシア語初級2 b (1)						
	コリア語初級1 a (1)						
	コリア語初級1 b (1)						
	コリア語初級2 a (1)						
	コリア語初級2 b (1)						
応用	ドイツ語中級1 a (1)	中国語中級1 a (1)	ロシア語中級1 a (1)	コリア語中級1 a (1)			
	ドイツ語中級1 b (1)	中国語中級1 b (1)	ロシア語中級1 b (1)	コリア語中級1 b (1)			
	ドイツ語中級2 a (1)	中国語中級2 a (1)	ロシア語中級2 a (1)	コリア語中級2 a (1)			
	ドイツ語中級2 b (1)	中国語中級2 b (1)	ロシア語中級2 b (1)	コリア語中級2 b (1)			
	フランス語中級1 a (1)	スペイン語中級1 a (1)	インドネシア語中級1 a (1)				
	フランス語中級1 b (1)	スペイン語中級1 b (1)	インドネシア語中級1 b (1)				
	フランス語中級2 a (1)	スペイン語中級2 a (1)	インドネシア語中級2 a (1)				
	フランス語中級2 b (1)	スペイン語中級2 b (1)	インドネシア語中級2 b (1)				
		ドイツ語上級1 a (1)	ロシア語上級1 a (1)	コリア語上級1 a (1)			
		ドイツ語上級1 b (1)	ロシア語上級1 b (1)	コリア語上級1 b (1)			
海外語学短期研修	選択ドイツ語1 a (1)	選択スペイン語1 a (1)	選択イタリア語1 a (1)				
	選択ドイツ語1 b (1)	選択スペイン語1 b (1)	選択イタリア語1 b (1)				
	選択フランス語1 a (1)	選択コリア語1 a (1)					
	選択フランス語1 b (1)	選択コリア語1 b (1)					
	選択中国語1 a (1)	選択アラビア語1 a (1)					
	選択中国語1 b (1)	選択アラビア語1 b (1)					
	世界の言語と文化 (ドイツ語)	世界の言語と文化 (中国語)	世界の言語と文化 (ロシア語)	世界の言語と文化 (コリア語)			
	世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (インドネシア語)				
		言語文化研究 (ヨーロッパ)	言語文化研究 (アジア)	言語文化研究 (アメリカ)			
	海外語学短期研修 1 (外国語)	海外語学短期研修 2 (外国語)					
海外語学研修	海外語学中期研修 1 (外国語)	海外語学中期研修 4 (外国語)	海外語学中期研修 7 (外国語)				
	海外語学中期研修 2 (外国語)	海外語学中期研修 5 (外国語)	海外語学中期研修 8 (外国語)				
	海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 6 (外国語)					
単位互換科目	単位互換 1	単位互換 2 (4)	単位互換 3 (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 	
自由選択修得要件単位					24		

【外国人留学生】文学部ジャーナリズム学科 社会知性基礎科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
社会知性基礎科目	専修大学入門ゼミナール					・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を履修し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。		
	データ分析入門							
	データサイエンス入門							
	データサイエンス実践							
		A I基礎	データサイエンス活用演習					
	キャリア入門							
	キャリアマッチング							
	キャリア長期体験(プロジェクト型)							
		キャリア科目1						
		キャリア科目2						
S i応用科目	グローバルスタディ (1)	グローバルスタディ	グローバルスタディ (3)	グローバルスタディ (4)				
		分野横断科目						
		S iゼミナール1 (4)	S iゼミナール2 (4)	S iゼミナール3 (4)				
			S iゼミナール論文					
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4	・卒業要件単位10単位を超えて履修した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ、履修することができません。 ・アドバンススポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も履修目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。		
	人文科学基礎科目	日本の文化 歴史と地域・民衆 論理学入門 ことばと論理	日本の文学 歴史と社会・文化 ことばと論理	世界の文学 基礎心理学入門 芸術学入門				
	社会科学基礎科目	文と現代世界 応用心理学入門 哲学 倫理学	英語圏文学への招待 歴史の視点 倫理学	子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティング・ベーシック 企業と会計				
	自然科学系科目	日本国憲法 地理学への招待 法と社会 政治学入門 現代の社会学 経済と社会 現代の経済	生物科学C1 生物学C2 宇宙地球科学A1 宇宙地球科学A2 宇宙地球科学B1 宇宙地球科学B2	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2	物理科学B1 物理学C2 数学科学C2 数学科学A1 数学科学A2 数学科学B1 数学科学B2			
	保健体育系科目	あなたと自然科学 自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4)	生物科学C1 生物学C2 宇宙地球科学A1 宇宙地球科学A2 宇宙地球科学B1 宇宙地球科学B2	化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2	物理科学B1 物理学C2 数学科学C2 数学科学A1 数学科学A2 数学科学B1 数学科学B2			
		スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)					2	
			アドバンススポーツ スポーツ論(ウェルビーイング)	スポーツ論(サステイナブルスポーツ) スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ)				
	外国語科目	日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)					8
				応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)				
		母語以外の外国語	A Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)					
B Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)								
English Speaking a (1) English Speaking b (1)			Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				
Advanced English a English Presentation b English Language and Cultures a English Language and Cultures b			English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b					
導入		ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1)	中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1)	ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1)	コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1) コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1)		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。	
基礎		ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1)	中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1)	ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1)	コリア語中級1 a (1) コリア語中級1 b (1) コリア語中級2 a (1) コリア語中級2 b (1)			
応用			ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1)	ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) コリア語上級1 a (1) コリア語上級1 b (1)				
		選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1)	選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択コリア語1 a (1) 選択コリア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1)	選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1)				
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)		・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
	言語文化研究(ヨーロッパ)	言語文化研究(アジア)	言語文化研究(アメリカ)					
海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)				・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定されます。 ・海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。		
		海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)				
単位互換科目	単位互換1	単位互換2 (4)	単位互換3 (1)					
自由選択修得要件単位					24			

ジャーナリズム学科

文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧

凡例：○必修、△選択

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件単位	備考
	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選	科目名	必・選		
社会知性基盤科目										
教養科目									10	
外国語科目									8	
単位互換科目										
基礎科目	情報表現実習(基礎)	○	情報表現実習(展開)	○					10	
	情報表現実習(応用)	○	言論法	○						
基礎科目	ジャーナリズム論	○								
	新聞学					△				
	放送学					△				
	出版学					△				
	メディア・コミュニケーション史					△				
	現代社会とジャーナリズム					△				
	ウェブジャーナリズム論					△				
	パブリックメディア論					△				
	アーカイブ概論					△				
	電子出版論					△				
アーカイブ発達史					△					
情報とスポーツ								△		
現代社会とスポーツ								△		
基礎科目			科学ジャーナリズム論						△	
			フォト・ジャーナリズム論						△	
			国際ジャーナリズム論						△	
			経済ジャーナリズム論						△	
			政治ジャーナリズム論						△	
			戦争ジャーナリズム論						△	
			沖縄ジャーナリズム論						△	
			スポーツジャーナリズム論						△	
			憲法とジャーナリズム						△	
			ジャーナリズムの倫理						△	
			広告学						△	
			広報・PR論						△	
			コンテンツ産業論						△	
			情報アクセシビリティ論						△	
			市民とメディア						△	
			娯楽とメディア						△	
			教育とメディア						△	
			宗教とメディア						△	
			スポーツ情報戦略						△	
			スポーツ政策						△	
		心理情報とメンタルマネジメント						△		
		スポーツ心理の情報分析						△		
		コンディショニングのための情報分析						△		
専門科目			ゼミナール1			○	ゼミナール3		14	
			ゼミナール2			○	ゼミナール4			
発展・応用科目							卒業論文・制作 (6)		○	
			プロジェクトA			△			○	
			プロジェクトB			△			○	
			ライティング1						△	
			ライティング2						△	
			調査報道論						△	
			インタビュー論						△	
			世論調査						△	
			メディアコンテンツ制作						△	
			アニメ産業論						△	
			マンガ論						△	
			情報マーケティング						△	
			映像表現技法						△	
			視覚表現論						△	
			グラフィックデザイン						△	
			ウェブデザイン						△	
			知的財産権						△	
			アーカイブ制度・経営論						△	
			デジタルアーカイブ						△	
			図書館と出版文化						△	
		博物館と文化資源						△		
		記録・史料調査法						△		
		記録・史料調査実習						△		
		スポーツ医学情報						△		
		スポーツ栄養のイノベーション						△		
		コーチング論						△		
		コーチング実習						△		
		スポーツ文化の国際比較研究						△		
		スポーツと法						△		
		ライフステージと健康情報						△		
							難民とメディア	△		
							映像特殊実習	△		
							シナリオライティング実習	△		
							情報公開・公文書管理	△		
							スポーツインテリジェンス特講	△		
							スポーツ総合実習	△		
							測定・調査実習	△		
							ジャーナリズム学特殊講義1	△		
							ジャーナリズム学特殊講義2	△		
							ジャーナリズム学特殊講義3	△		
							ジャーナリズム学特殊講義4	△		
関連科目			中期留学プログラム1						△	
			中期留学プログラム2						△	
			中期留学プログラム3						△	
			中期留学プログラム4						△	
			中期留学プログラム5						△	
			中期留学プログラム6						△	
			中期留学プログラム7						△	
			中期留学プログラム8						△	
自由選択 修得要件 単位と なる科目	ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている、社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、文学部開講の専門科目。司書・学校司書課程の科目の一部(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)。全学公開科目。								24	教養科目、外国語科目、専門科目の超過修得単位および社会知性基盤科目、単位互換科目は自由選択修得要件単位に算入されません。
年次修得単位の目安	34		38		38		14		124	

ジャーナリズム学科

日本文学文化学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修, ◎：選択必修, △：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語	コミュニケーション	英語文化				
日本文学概論 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学概論 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 3	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 4	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 5	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講義 6	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 3	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 4	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 5	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 6	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 7	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化講義 8	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
出版文化論 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
出版文化論 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
ビジュアル文化論	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
児童文学研究 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
児童文学研究 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講読 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学講読 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 3	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 4	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 5	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 6	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 7	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学研究 8	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
現代文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
現代文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
比較文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
比較文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
文藝創作 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
文藝創作 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学通史 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文学通史 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学史 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
中国文学史 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 3	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 4	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 5	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 6	2	234	△	#	#	#	#	#	#	

科目名	単位	配当年次	○：必修, ◎：選択必修, △：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語	コミュニケーション	英語文化				
日本文化研究 7	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本文化研究 8	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
マンガ研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
マンガ研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
比較文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
比較文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
伝統文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
伝統文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
演劇研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
演劇研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
現代文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
現代文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
映画研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
映画研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
書道 1	2	1234	△							
書道 2	2	1234	△							
書道 3	2	1234	△							
書道 4	2	1234	△							
書道 5	2	1234	△							
書道 6	2	1234	△							
書道史	2	23	△							
書道美学論	2	23	△							
日本語学概論 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
日本語学概論 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#	
ゼミナール 1	4	2	○							
ゼミナール 2	4	3	○							
ゼミナール 3	4	4	○							
卒業論文	8	4	○							

専門科目一覧

英語英米文学科専門科目一覧

専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	シヤトリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
専門入門ゼミナール	2	1		○	○				
Reading 1	1	1		○	○				
Reading 2	1	1		○	○				
Composition 1	1	1		○	○				
Composition 2	1	1		○	○				
Speaking 1	1	1		○	○				
Speaking 2	1	1		○	○				
Integrated English 1	1	1		○	○				
Integrated English 2	1	1		○	○				
Listening 1	1	1		○	○				
Listening 2	1	1		○	○				
英語総合演習 1	2	2		○	○				
英語総合演習 2	2	2		○	○				
Speaking 3	1	2		○	○				
Speaking 4	1	2		○	○				
Advanced Reading 1	2	2		◎	◎				
Advanced Reading 2	2	2		◎	◎				
Advanced Reading 3	2	34		◎	◎				
Advanced Reading 4	2	34		◎	◎				
Advanced Composition 1	2	2		◎	◎				
Advanced Composition 2	2	2		◎	◎				
Advanced Composition 3	2	34		◎	◎				
Advanced Composition 4	2	34		◎	◎				
Advanced Speaking 1	2	34		◎	◎				
Advanced Speaking 2	2	34		◎	◎				
Advanced Listening 1	2	2		◎	◎				
Advanced Listening 2	2	2		◎	◎				
Advanced Listening 3	2	34		◎	◎				
Advanced Listening 4	2	34		◎	◎				
上級英語総合演習 1	2	34			◎				
上級英語総合演習 2	2	34			◎				
国際理解 1	2	234		◎	◎				
国際理解 2	2	234		◎	◎				
英語圏の歴史・社会・文化	2	234		◎	◎				
異文化交流	2	234		◎	◎				
英語プレゼンテーション1	2	2		○	◎				
英語プレゼンテーション2	2	2		○	◎				
通訳入門 1	2	2		○	△				
通訳入門 2	2	2		○	△				
翻訳入門 1	2	2		◎	◎				
翻訳入門 2	2	2		◎	◎				
通訳演習 1	2	34		◎					
通訳演習 2	2	34		◎					
翻訳演習 1	2	34		◎	◎				
翻訳演習 2	2	34		◎	◎				
翻訳演習 3	2	34		◎	◎				
翻訳演習 4	2	34		◎	◎				
Business & English 1	2	34		◎	◎				
Business & English 2	2	34		◎	◎				
Media English 1	2	34	#	◎	◎	#	#	#	#
Media English 2	2	34	#	◎	◎	#	#	#	#
Japan & the World 1	2	34		◎	◎				
Japan & the World 2	2	34		◎	◎				
英国・英語圏の文学と文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリス文学の世界	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
米国・英語圏の文学と文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
アメリカ文学の世界	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
文学作品と英語表現	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	シヤトリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
英米の小説・詩・演劇	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米ポップカルチャー論 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米ポップカルチャー論 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英文法のしくみ	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語のしくみ	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語の音声	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語の変遷史	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリスの歴史と文化 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリスの歴史と文化 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
アメリカの歴史と文化 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
アメリカの歴史と文化 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語教育の研究と実践 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語教育の研究と実践 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばと社会・文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
異文化コミュニケーション	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米映画論 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米映画論 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 3	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 4	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 5	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 6	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語学の諸問題 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語学の諸問題 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばの獲得 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばの獲得 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 3	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 4	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
外国語学習の科学 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
外国語学習の科学 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
特別総合講義	2	1234	#	△	△	#	#	#	#
中期留学 1	2	234		◎	△				
中期留学 2	2	234		◎	△				
中期留学 3	2	234		◎	△				
中期留学 4	2	234		◎	△				
中期留学 5	2	234		◎	△				
中期留学 6	2	234		◎	△				
中期留学 7	2	234		◎	△				
中期留学 8	2	234		◎	△				
長期留学 1	2	234		◎	△				
長期留学 2	2	234		◎	△				
長期留学 3	2	234		◎	△				
長期留学 4	2	234		◎	△				
Special Seminar	2	234	#	△	△	#	#	#	#
英語英米文学概論 1	2	1		○	○				
英語英米文学概論 2	2	1		○	○				
ゼミナール 1	2	3		○	○				
ゼミナール 2	2	3		○	○				
ゼミナール 3	2	4		○	○				
ゼミナール 4	2	4		○	○				
卒業研究	4	4		○	○				
英語英米文学特殊講義101	1	234		△	△				
英語英米文学特殊講義102	1	234		△	△				
英語英米文学特殊講義103	1	234		△	△				
英語英米文学特殊講義103	1	234		△	△				

哲学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位																
			日本学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	シヤトリズム									
				英語	コ	ミ													
専門入門ゼミナール	2	1																	
哲学概論	1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
哲学概論	2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
倫理学概論	1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
倫理学概論	2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
論理学概論	1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
論理学概論	2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
芸術学概論	1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
芸術学概論	2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#									
西洋哲学史(古代)	2	123	#	#	#	◎	#	#	#										
西洋哲学史(中世)	2	123	#	#	#	◎	#	#	#										
西洋哲学史(近代)	1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
西洋哲学史(近代)	2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
西洋哲学史(現代)	1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
西洋哲学史(現代)	2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
日本思想史	1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
日本思想史	2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#									
中国思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#										
アジア思想特殊講義	1	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
インド思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#										
アジア思想特殊講義	2	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
イスラム思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#										
アジア思想特殊講義	3	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
日本の思想(近現代以前)	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
近現代の日本の思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
日本の伝統芸能	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
精神分析学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
言語の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
宗教学	1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
宗教学	2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
心の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
科学哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
社会の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
倫理の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
音楽論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#										
美術論	1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
美術論	2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語入門	1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語入門	2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語入門	1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語入門	2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語文献講読	1	2	2	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語文献講読	2	2	2	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語文献講読	3	2	3	#	#	#	△	#	#	#									

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位																
			日本学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	シヤトリズム									
				英語	コ	ミ													
ギリシア語文献講読	4	2	3	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語文献講読	5	2	4	#	#	#	△	#	#	#									
ギリシア語文献講読	6	2	4	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	1	2	2	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	2	2	2	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	3	2	3	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	4	2	3	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	5	2	4	#	#	#	△	#	#	#									
ラテン語文献講読	6	2	4	#	#	#	△	#	#	#									
ポップカルチャー論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#										
映像文化論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#										
パフォーマンス論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#										
哲学特殊講義	1	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
哲学特殊講義	2	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
哲学特殊講義	3	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
哲学特殊講義	4	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
哲学の手ほどき	4	1	#	#	#	○	#	#	#										
ことばの哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
論理の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
文化の哲学	1	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
文化の哲学	2	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
フェミニズム思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
哲学特殊講義	5	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
現代思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
生命の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
社会学原論	1	2	12	#	#	#	△	#	#	#									
社会学原論	2	2	12	#	#	#	△	#	#	#									
憲法	1	2	23	#	#	#	△	#	#	#									
憲法	2	2	23	#	#	#	△	#	#	#									
現代社会論	1	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
現代社会論	2	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
現代文化論	1	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
現代文化論	2	2	234	#	#	#	△	#	#	#									
地域社会学 B-1	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
地域社会学 B-2	2	234	#	#	#	△	#	#	#										
ゼミナール	1	4	2				○												
ゼミナール	2	4	3				○												
ゼミナール	3	4	4				○												
卒業論文	8	4					○												
哲学特殊講義	101	1	234				△												
哲学特殊講義	102	1	234				△												
哲学特殊講義	103	1	234				△												
哲学特殊講義	104	1	234				△												

専門科目一覧

歴史学科専門科目一覧

専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化	英語英米文				
専門入門ゼミナール	2	1						○		
日本史概説 1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
日本史概説 2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
アジア史概説 1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
アジア史概説 2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
欧米史概説 1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
欧米史概説 2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#	
歴史資料研究法 1	2	2					◎			
歴史資料研究法 2	2	2					◎			
歴史資料研究法 3	2	2					◎			
歴史資料研究法 4	2	2					◎			
歴史資料研究法 5	2	2					◎			
歴史資料研究法 6	2	2					◎			
歴史資料研究法 7	2	2					◎			
歴史資料研究法 8	2	2					◎			
歴史資料研究法 9	2	2					◎			
歴史資料研究法 10	2	2					◎			
歴史資料研究法 11	2	2					◎			
歴史資料研究法 12	2	2					◎			
歴史資料研究法 13	2	2					◎			
歴史資料研究法 14	2	2					◎			
歴史資料研究法 15	2	2					◎			
歴史資料研究法 16	2	2					◎			
歴史資料研究法 17	2	2					◎			
歴史資料研究法 18	2	2					◎			
歴史資料研究法 19	2	2					◎			
歴史資料研究法 20	2	2					◎			
日本文化史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本文化史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
アジア文化史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
アジア文化史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
欧米文化史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
欧米文化史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
古墳からみた国家形成 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
古墳からみた国家形成 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本古代の国家と社会 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本古代の国家と社会 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本古代の国家と宗教 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本古代の国家と宗教 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本中世の法と政治 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本中世の法と政治 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本近世の政治と社会 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本近世の政治と社会 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
生きることの日本近代史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
生きることの日本近代史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本近現代の政治と社会 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本近現代の政治と社会 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
中国古代の国家と家族 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化	英語英米文				
中国古代の国家と家族 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
東アジア関係論 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
東アジア関係論 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
南アジア関係論 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
南アジア関係論 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
ヨーロッパの国家と民衆 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
ヨーロッパの国家と民衆 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
近代ヨーロッパの社会と政治 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
近代ヨーロッパの社会と政治 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
アメリカの人種と政治 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
アメリカの人種と政治 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 3	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 4	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 5	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 6	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 7	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
世界史講義 8	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
東アジア考古学 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
東アジア考古学 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
日本の宗教と社会	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
イスラーム史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
イスラーム史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
ジェンダー史 1	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
ジェンダー史 2	2	234	#	#	#	#	△	#	#	
古文書学概論 1	2	12	#	#	#	#	△	#	#	
古文書学概論 2	2	12	#	#	#	#	△	#	#	
考古学概論 1	2	12	#	#	#	#	△	#	#	
考古学概論 2	2	12	#	#	#	#	△	#	#	
総合世界史 1	2	12					△			
総合世界史 2	2	12					△			
総合世界史 3	2	12					△			
総合世界史 4	2	12					△			
考古学実習 1	4	23					△			
古文書学実習	4	34					△			
考古学実習 2	4	34					△			
発掘調査実習 1	2	2					△			
発掘調査実習 2	2	3					△			
発掘調査実習 3	2	4					△			
ゼミナール 1	4	2					○			
ゼミナール 2	4	3					○			
ゼミナール 3	4	4					○			
卒業論文	8	4					○			
歴史学講義 1	1	234					△			
歴史学講義 2	1	234					△			
歴史学講義 3	1	234					△			
歴史学講義 4	1	234					△			

環境地理学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修, ◎：選択必修, △：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			歴史	環境地理	ジャーナリズム	
			英語コミュニケーション	英語文化	英語文化	英語文化	英語文化	英語文化		
専門入門ゼミナール	2	1	/	/	/	/	/	/	○	/
地理学エクスカージョン	1	1	/	/	/	/	/	/	◎	/
環境地理学概論及び調査法	4	1	/	/	/	/	/	/	○	/
野外調査法	1	4	2	/	/	/	/	/	○	/
人文地理学概論1	2	12	#	#	#	#	#	#	◎	#
人文地理学概論2	2	12	#	#	#	#	#	#	◎	#
自然地理学概論1	2	12	#	#	#	#	#	#	◎	#
自然地理学概論2	2	12	#	#	#	#	#	#	◎	#
地誌学概論	2	12	#	#	#	#	#	#	◎	#
人文環境学調査法1	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
人文環境学調査法2	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
人文環境学調査法3	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
人文環境学調査法4	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
人文環境学調査法5	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
自然環境学調査法1	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
自然環境学調査法2	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
自然環境学調査法3	2	23	/	/	/	/	/	/	◎	/
野外調査法	2	4	34	/	/	/	/	/	◎	/
都市環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
都市環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
農村環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
農村環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
歴史環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
歴史環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
社会環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
社会環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地誌学	1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
地誌学	2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地形環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
地形環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
気候環境学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
気候環境学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#

科目名	単位	配当年次	○：必修, ◎：選択必修, △：選択 #：自由選択修得要件単位							
			日本文学文化	英語英米文			歴史	環境地理	ジャーナリズム	
			英語コミュニケーション	英語文化	英語文化	英語文化	英語文化	英語文化		
地域生態学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
地域生態学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
環境地図学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
環境地図学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
空間情報学1	2	23	#	#	#	#	#	#	◎	#
空間情報学2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地域研究1	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地域研究2	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地域研究3	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地域研究4	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地域研究5	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
文化地理学	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
経済地理学	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
陸水学	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
地理情報システム実習1	2	234	/	/	/	/	/	/	△	/
地理情報システム実習2	2	234	/	/	/	/	/	/	△	/
リモートセンシング実習1	2	234	/	/	/	/	/	/	△	/
リモートセンシング実習2	2	234	/	/	/	/	/	/	△	/
測量学	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
応用測量学	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
測量学実習	4	234	/	/	/	/	/	/	△	/
環境地理学特殊講義A	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
環境地理学特殊講義B	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
環境地理学特殊講義C	2	234	#	#	#	#	#	#	△	#
ゼミナール1	1	4	3	/	/	/	/	/	○	/
ゼミナール2	2	4	4	/	/	/	/	/	○	/
卒業論文	8	4	/	/	/	/	/	/	○	/

専門科目一覧

ジャーナリズム学科専門科目一覧

専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
			英語コミュニケーション	英語文化					
情報表現実習（基礎）	2	1	/	/	/	/	/	/	○
情報表現実習（応用）	2	1	/	/	/	/	/	/	○
ジャーナリズム論	2	1	#	#	#	#	#	#	○
情報表現実習（展開）	2	2	/	/	/	/	/	/	○
言論法	2	2	#	#	#	#	#	#	○
新聞学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
放送学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
出版学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
メディア・コミュニケーション史	2	123	#	#	#	#	#	#	△
現代社会とジャーナリズム	2	123	#	#	#	#	#	#	△
ウェブジャーナリズム論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
パブリックメディア論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ概論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
電子出版論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ発達史	2	123	#	#	#	#	#	#	△
情報とスポーツ	2	1234	#	#	#	#	#	#	△
現代社会とスポーツ	2	1234	#	#	#	#	#	#	△
科学ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
フォト・ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
国際ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
経済ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
政治ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
戦争ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
沖縄ジャーナリズム論	2	234	/	/	/	/	/	/	△
スポーツジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
憲法とジャーナリズム	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズムの倫理	2	234	#	#	#	#	#	#	△
広告学	2	234	#	#	#	#	#	#	△
広報・PR論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コンテンツ産業論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
情報アクセシビリティ論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
市民とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
娯楽とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
教育とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
宗教とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ情報戦略	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ政策	2	234	#	#	#	#	#	#	△
心理情報とメンタルマネジメント	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ心理の情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コンディショニングのための情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ゼミナール 1	2	3	/	/	/	/	/	/	○
ゼミナール 2	2	3	/	/	/	/	/	/	○
ゼミナール 3	2	4	/	/	/	/	/	/	○
ゼミナール 4	2	4	/	/	/	/	/	/	○
卒業論文・制作	6	4	/	/	/	/	/	/	○
プロジェクト A	2	23	/	/	/	/	/	/	△
プロジェクト B	2	23	/	/	/	/	/	/	△

科目名	単位	配当年次	○：必修、◎：選択必修、△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
			英語コミュニケーション	英語文化					
ライティング 1	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ライティング 2	2	234	#	#	#	#	#	#	△
調査報道論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
インタビュー論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
世論調査	2	234	#	#	#	#	#	#	△
メディアコンテンツ制作	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アニメ産業論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
マンガ論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
情報マーケティング	2	234	#	#	#	#	#	#	△
映像表現技法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
視覚表現論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
グラフィックデザイン	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ウェブデザイン	2	234	#	#	#	#	#	#	△
知的財産権	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ制度・経営論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
デジタルアーカイブ	2	234	#	#	#	#	#	#	△
図書館と出版文化	2	234	#	#	#	#	#	#	△
博物館と文化資源	2	234	#	#	#	#	#	#	△
記録・史資料調査法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
記録・史資料調査実習	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ医学情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ栄養のイノベーション	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コーチング論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コーチング実習	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ文化の国際比較研究	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツと法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ライフステージと健康情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△
難民とメディア	2	34	#	#	#	#	#	#	△
映像特殊実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
シナリオライティング実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
情報公開・公文書管理	2	34	#	#	#	#	#	#	△
スポーツインテリジェンス特講	2	34	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ総合実習	2	34	/	/	/	/	/	/	△
測定・調査実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズム学特殊講義 1	1	234	/	/	/	/	/	/	△
ジャーナリズム学特殊講義 2	1	234	/	/	/	/	/	/	△
ジャーナリズム学特殊講義 3	1	234	/	/	/	/	/	/	△
ジャーナリズム学特殊講義 4	1	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 1	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 2	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 3	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 4	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 5	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 6	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 7	2	234	/	/	/	/	/	/	△
中期留学プログラム 8	2	234	/	/	/	/	/	/	△

第4章

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について

- I 科目設置の趣旨と教育の目的
- II 文学部で取得できる資格について
- III 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目
- IV 文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格
- V 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料

I 科目設置の趣旨と教育の目的

現代社会におけるスポーツは、それ自身が目覚ましい発展を遂げたばかりでなく、極めて大きな社会的影響力を持つようになってきました。今やスポーツは、政治的、経済的、さらに文化的にも、人々の生き方や暮らし方に重要な影響を与えています。人々のスポーツへの関わり方は、単に「する」立場だけでなく、スポーツを「みる」立場、そしてスポーツを「ささえる」立場へとその領域を大きく広げています。

このスポーツの世界において、情報が一つの鍵を握るようになってきました。情報（Intelligence）は「ある特定の目的について適切な判断を下し、行動の意思決定をするために役立つ資料や知識」と定義づけられており、スポーツにおいては各種メディアで報じられているスポーツニュースをはじめ、自ら撮影した競技映像、試合後に公式発表される競技結果、現在では情報を分析する専門のアナリストも存在し、パフォーマンスの向上やゲーム分析など、情報の利用は活発に行われています。

文学部ジャーナリズム学科に設置されたスポーツインテリジェンス分野では、このようなスポーツフィールドに散在する様々な情報を、科学的な手法を通じて高次の情報、すなわちインテリジェンスへ分析・加工し、そのインテリジェンスをスポーツフィールドへ正しく還元できる能力を身につけるための授業を展開しています。コーチング、スポーツコンディショニング、情報戦略、メンタルマネジメント、健康、医・科学、栄養、法制、文化国際比較など、スポーツを取り巻く幅広い領域の科目が用意されています。そしてこれらの学びを通し、情報をキーワードとしてスポーツに幅広い視点から関わっていくことのできる人材を育成することを目的としています。また、これらの科目を履修し単位を修得することで、日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者」の共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの申請をすることができます（免除適応コース）。

当該科目を履修することは、単に自らの競技力向上に結び付けるだけではありません。自ら学び身に付けたことを、将来、どのように社会に対して還元できるかという立場から、応用力や人間力の獲得をも意識する必要があります。2019年度に改定された日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度では、「人間力」と称する「思考・判断（スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学等）」と、「態度・行動（対自分力、対他者力）」に関する内容の比重が、以前よりも増やされています。このことからわかるように、プログラムは必ずしもトップアスリートの育成や運動能力の向上のためだけでなく、スポーツを通して「より良い生き方」、「生きがい」を探究するとともに、将来的にスポーツを通じた社会貢献に繋がることも期待されています。将来の自らの姿を想像しつつ、明確な目標を持って授業に参加してくれることを願っています。

Ⅱ 文学部で取得できる資格について

文学部では所定の単位を修得することにより、日本スポーツ協会のスポーツコーチングリーダー（スポーツ指導者基礎資格）を申請することができます。また、その後の上位講習を受講することにより取得できる、「競技別指導者資格」や「フィットネス資格」、「マネジメント指導者資格」といった各種資格取得に必要な『共通Ⅰ』『共通Ⅱ』『共通Ⅲ』の講習・試験の一部またはすべてが免除されます。

上記の資格取得あるいは免除適応を受けるためには、事前に日本スポーツ協会のホームページより「マイページ」の登録及びリファレンスブックを購入する必要があります。また、指定された時間数を満たすよう、単位を修得する必要があります。修了判定については、検定試験（オンラインテスト）に合格した後、日本スポーツ協会から資格登録手続の案内がありますので、各自資格登録手続を行ってください。この手続を行わないと適応コースを修了したことにはなりません。

Ⅲ 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目

(1) 履修上の注意

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得に必要な科目は、文学部ジャーナリズム学科の専門科目として設置されており、文学部全学科の学生が履修することができます。ただし、文学部ジャーナリズム学科以外の学生がこれらの科目の単位を修得した場合には自由選択修得要件単位に算入されます。

〈日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目一覧〉

科目名	単 位	配 当 年 次	△：専門選択 #：自由選択修得要件単位							備 考
			日 本 文 学 文 化	英 語 コ ミュ ニ ケー ション	英 米 文 学	英 語 文 化	哲	歴 史	環 境 地 理	
コーチング論	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツ政策	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
ライフステージと健康情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
コーチング実習	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
コンディショニングのための情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツ医科学情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツ栄養のイノベーション	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツ心理の情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツと法	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
現代社会とスポーツ	2	1234	#	#	#	#	#	#	△	
心理情報とメンタルマネジメント	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
スポーツ情報戦略	2	234	#	#	#	#	#	#	△	
測定・調査実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△	

(2) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目概要

コーチング論

コーチングはあらゆる分野において、目的を達成するための手段の一つであり、人々が充実し満足した生活を送ることを手助けするものである。近年、様々な分野でコーチングが注目されており、教育現場や社会人教育に活用されている場面も多く見られる。本科目では、スポーツ現場に着目したコーチングの事例を参照にして授業を展開し、コーチングについて基本的な考え方を理解し、また国内外のスポーツの現場でのさまざまな応用・実践事例を取り上げてコーチングについて考察を進める。

スポーツ政策

現在、日本のスポーツ界は大きな変革の最中にある。2001年度のスポーツ振興基本計画に始まった初期の変革は、10年後のスポーツ基本計画へと引き継がれ、2015年にはスポーツ庁が文部科学省の外局として設置されるに至っている。その間、国の施設として国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターが稼働し、また呼応するように地域においてもスポーツの変革が始まっている。本科目ではこれらのスポーツ政策立案過程にまつわる動きについて多大に影響を与えた情報（インテリジェンス）の役割を中心に講義を展開し、スポーツと政治の関係性について考えていく。

ライフステージと健康情報

生涯にわたる健康の保持・増進に人々の関心が集まり、メディア等で見聞きする機会が多くなっている。身体活動や運動が健康に良い影響を及ぼすという科学的根拠も数多く発表され、スポーツが心、身体、文化的側面にもたらす効果への期待も高まっている。健康的な生活を実現するためには、人々の体験談やメディアなどから溢れる「健康」にまつわる正しい情報をライフステージにあわせて身につけ実践する必要がある。本科目では多様で広範な科学の諸分野から健康に関する情報を整理し、身近で優先度の高い課題を取り上げて理論と組み合わせて実践を試み、「健康」という言葉をキーワードとして過去、現在、そして未来の自分自身の健康について考えていく。

コーチング実習

一人ひとり異なる選手の能力・性格を見極め、本人が持つ潜在能力や可能性を引き出す「コーチング」について、実習を用いてチャレンジする。本科目では、指導計画、準備方法など、現場で必要なことについて学習し、実際に実践できる能力を身につけることを狙いとする。さらに、チームビルディング、思考力、問題解決力、自発的行動、コミュニケーションなどのスキルと、コーチングの考え方を実践より学び、より優れた各種プランの立案と、そのプランをマネジメントできるスキルを身につけることを狙う。

コンディショニングのための情報分析

ジャーナリズム活動の基礎も当然ながら、心と身体を健全に保つことから始まる。それは、健康で豊かな生活を送るためには、運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得して健康の保持・増進に努めること、体力値を高めることにほかならない。そのためにはまず現時点での自分の身体の「状態（コンディション）」を知ること、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための「方策（トレーニング）」を学び、良い方向に向かっていく「コンディショニング」が大切である。本科目では、自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートし、環境や運動の刺激に対する人体の適応性を利用し、自分の「心」と「身体」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得、継続することを目的とする。

スポーツ医科学情報

現代におけるスポーツ医科学の研究範囲は拡大し進歩し続けている。アスリート対象の研究として近年では競技分析やスキル分析、戦術・戦略分析の分野の研究が盛んに行われるようになり、スポーツ医科学の活用が競技成績を大きく左右する要因となっている。その一方、健康の維持・増進としてのスポーツについても同様に研究が進んでおり、実際に住民の医療費削減や生活の質的向上といった成果につながっていることが報告されている。本科目では、スポーツ医科学の最前線の情報を、スポーツ医学、ライフサイエンス、スポーツサイエンスの切り口から紹介する。

スポーツ栄養のイノベーション

人が生活を維持していくうえで、いかにコンディションを整えるかが重要であるかは言うまでもない。その究極の一例がアスリートで、トレーニングや試合でベストコンディションを維持するためには、栄養・食事に対する意識を高め、運動量や目的に合わせた食事の調整を身につける必要がある。本科目では、日常の栄養補給の理論とそれに基づく食事の知識、また栄養に関するイノベーションについて情報提供を行う。食生活における自己管理とは何か、栄養がヒトの何を変えるのか、実際の国際競技会などを例に、どのような栄養摂取戦略がなされているのかなど栄養のイノベーションについて学習する。

スポーツ心理の情報分析

人間が行動を起こす際には「心」が深く関わる。その典型例として、スポーツにおいても「心」の動きによって、成績が大きく変化してしまうことがある。本科目では、スポーツにおける人の行動を心の面から探り分析していくことで、人間行動を探求する。心を人の動きなどから探ったり、技術が向上する過程を様々な角度から科学的・客観的に分析・評価することによって、「心」と「身体」との関連を深く理解することを学ぶ。

スポーツと法

スポーツ法学は、日本ではスポーツ活動中の事故をめぐる責任問題を中心に発展してきた。しかし、スポーツが世界的メインカルチャーに成長してきた昨今、差別や人権問題、肖像権、選手選考、プロ・スポーツ選手の契約、スポーツビジネスにおける権利、紛争解決など多様な法的問題が発生するようになった。そのために、そのようなスポーツと法の関わりに対して関心が高まっている。本科目では、スポーツ法学全体像を把握するために、まず、スポーツ法とは何か、スポーツ法学の対象等について理解し、次に、スポーツ界で起きているさまざまな事例を通じて、学校体育・スポーツ、地域スポーツからオリンピックやプロ・スポーツにいたるあらゆるスポーツの場面においてスポーツが直面している法的問題について学習する。

現代社会とスポーツ

現代社会において、スポーツは著しい発展を遂げている。テレビや新聞などのメディアでスポーツが報道されない日はなく、更にはインターネット・メディアにおいてもスポーツに関する膨大な映像コンテンツが配信されており、スポーツは今やメディアが注目する最大のコンテンツに成長した。また、スポーツはアスリートの華やかな活躍のみならず、健康の維持・増進、スポーツが有する公共性や求心力、地域住民のコミュニティ推進など、現代社会に欠かすことのできない文化でもあり、市民生活の中でもその価値は高まっている。本科目はジャーナリズム活動を行うための基礎教養として、様々な事例をもとに市民社会におけるスポーツが有するポテンシャルについて理解を進め、スポーツの価値をジャーナリズムの観点から深く考察する。

心理情報とメンタルマネジメント

近年、スポーツ競技において、精神的な能力の発揮が競技成績を左右する重要な鍵となっている。これらはスポーツ心理学の分野で研究され実践された知見をもとに問題の本質を特定し、その特性を理解することが重要である。本科目では、スポーツをする人にとっての心理的な課題の具体的な解決方法について実際に体験し、心をマネジメントするための手段を探る。こうした心の自己管理は、スポーツ分野にかかわらず、多くの市民生活の局面において、役立つものである。

スポーツ情報戦略

情報とは、ある特定の目的について適切な判断を下し、行動の意志決定をするために役立つ資料や知識のことである。一方、戦略とは、目的達成のためのシナリオ、である。これらのことから、競技スポーツにおける情報戦略とは、競技力向上に有用な情報を戦略的に活用しようとする営み、ということができる。スポーツではさまざまな階層で意志決定が行われており、扱われる情報の範囲は広い。本科目では、競技スポーツにおける情報戦略について、その必要性と役割について学ぶ。そこでは、実例や具体的なケースをもとにスポーツにおける情報戦略のプロセスについて、情報の収集から加工、提供と活用までの範囲について学習する。

測定・調査実習

身体情報に関わる数多くの情報を取捨選択し、正しい判断を行うには主としていままでの経験に基づく「主観的」な情報とあわせて、測定・調査から得られる「客観的」な情報・評価が求められる。本実習では、身体情報に関する測定・調査を、(1) 体力・運動能力に関わる領域、(2) 身体活動に関わる領域、(3) 形態計測に関わる領域の3群に分け、それぞれの群の実習を行う。測定機器は日々進化し、測定項目も多岐にわたっている事から、ウェアラブル機器やアプリを使用した測定や競技種目特有の測定項目やテスト開発についても実習を行う。

Ⅳ 文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

(1) スポーツ指導者に求められているもの

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の詳細については後ほど述べますが、漫然と単位を修得しただけでは資格は与えられません。なぜなら、日本スポーツ協会が考えている公認スポーツ指導者とは常にプレーヤーを最優先するというスタンスで、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることのできる者であり、

- ◎ スポーツに初めて出会う子どもたちが、安心してスポーツ活動を楽しめるようサポートすること
- ◎ どの年代からでも、スポーツを始められるようサポートすること
- ◎ 生涯を通じてスポーツを楽しむ方法や機会を提供すること
- ◎ スポーツの経験がない人でも「スポーツ愛好家」に導くようサポートすること
- ◎ 技能をもっと高めたいという、ジュニアからトップレベルまでの競技者の願いが実現するようサポートすること
- ◎ スポーツを通して人間としてのマナー、エチケットなど豊かな人間性を涵養すること

が求められ、公認スポーツ指導者は、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」、「うまくなりたい、強くなりたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポートする」活動を通して、望ましい社会の実現に貢献するという役割を持つ。

また、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展するとともに、社会的評価を得られるよう努力することが重要である。(いずれもリファレンスブックより)
とされています。

(2) スポーツ指導者になるためには

① 本学で修得できる単位

スポーツといっても非常に多様なものがあるのはご存じの通りです。前項であげた指導者になるためには、どの分野のどの科目を履修していなければならないか、後ほど掲げる日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料をよく読んでください。なおそこには共通Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどと書かれていますが、これは p. 170 に記載の時間数を超える必要があります。

従って p. 170 の各科目をいかに履修するか、そしてどの資格を考えていくかを十分検討してください。

② 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の資格別専門科目について

本学では専門科目は開講していません。専門科目の修得については指導者となりたい競技団体にお問い合わせください。

③ 指導者の登録

指導者となるためにはカリキュラムを履修するだけでなく、日本スポーツ協会に登録する必要があります。登録料も競技によって異なりますので、日本スポーツ協会のホームページで確認してください。

(3) 登録の更新

指導者であり続けるためには4年に1回更新を行う必要があります。その際研修受講を義務づけている競技団体がほとんどです。資格によって4年に1回研修受講をすればよいもの、2年に1回研修受講が必要なものなど異なりますので確認をしてください。

(4) 期待される将来の進路

スポーツフィールドに横たわっているデータを有益な情報へと加工し、スポーツフィールドをより良く変えるために指導者・専門家を目指すのはもちろん、五輪ボランティア、スポーツメディアの分野などで生かすことができる内容になっています。将来のキャリア形成を視野に入れ、学んでほしいと考えています。また、スポーツアナリスト、スポーツインストラクター、フィットネスクラブの指導者・経営者になることはもちろん、広い意味でのスポーツ業界（プロリーグのフロント、マネージャー、スポーツ用品メーカーなど）への就職も視野に入れることができます。

V 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料

・公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト

日本スポーツ協会及び加盟団体等は、スポーツ文化を豊かに享受するというすべての人々がもつ基本的な権利を保障するため、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を公認スポーツ指導者として育成し、望ましい社会の実現に貢献する。

・公認スポーツ指導者とは

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる方です。

公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録規程

(趣旨)

第1条 本規程は、公益財団法人日本スポーツ協会（以下「JSPO」という。）公認スポーツ指導者制度第6条に基づき、公認スポーツ指導者の登録及び認定に関することについて定める。

(登録)

第2条 登録は、次の条件のいずれかを満たしたとしてJSPOが認めた者が個人で申請するものとする。

- (1) 公認スポーツ指導者養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、公認スポーツ指導者として必要な資質能力を身に付けた「新規登録」対象者
- (2) 公認スポーツ指導者として認定されている者のうち第6条に定める「更新登録要件」を満たした「更新登録」対象者
- (3) その他、登録の要件を満たした者としてJSPOが特別に認めた者

2. 前項の定めにかかわらず、以下に定める者については、公認スポーツ指導者として登録することができない。

- (1) JSPO 倫理規程又は JSPO 登録者等処分規程に基づく処分を受け、その後の再教育プログラムを修了していない者
- (2) 反社会的勢力（暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ又は特殊知能暴力集団、その他これらに準ずる者をいう。）
3. 公認スポーツ指導者としての登録の有無にかかわらず、過去4年間においてJSPO 倫理規程第4条又はJSPO 登録者等処分規程第3条に定める遵守事項に違反する行為を行ったが、当該行為に対してJSPO 倫理規程又はJSPO 登録者等処分規程に基づく処分を科せられていない者については、公認スポーツ指導者としての登録を拒絶することができる。
4. 登録は、公認スポーツ指導者制度に定める資格毎に行うものとする。
5. 登録にあたっては、第3条に定める登録料を納めるものとする。

(登録料)

第3条 登録料は、全資格者共通の基本登録料及び資格毎に設定する資格別登録料の合計金額とする。

2. 前項に加え資格毎に、その初回の登録に際して初期登録手数料を納めるものとする。なお、第7条第6項に基づく「復活登録」に際しても初期登録手数料を納めるものとする。
3. 公認スポーツ指導者として認定されている者が新たな資格を登録する場合（以下「資格追加」という。）は、前項の初期登録手数料に加え、新たな資格の資格別登録料を納めるものとする。新たな資格がすでに認定されている資格（以下「既認定資格」という。）と同一競技・種目における上位資格の場合（以下「資格昇格」という。）の資格別登録料は、昇格前と昇格後の資格別登録料の差額とする。

なお、第5条に基づく当該資格の有効期間が4年間に満たない場合の資格別登録料は、当該期間

に応じた金額とする。

4. 基本登録料、資格別登録料及び初期登録手数料の金額は別に定める。
5. 登録料を変更する際は、事前に告知するものとする。
6. 納入済の登録料は、理由がいかなる場合であっても返還しない。

(手続き・認定日)

- 第4条 登録に係る手続き（以下「登録手続き」という。）及び認定予定日は、第2条第1項に定める対象者に対しJSPOが案内する際に明示するものとし、認定予定日以前の所定の期間内に登録手続きを完了した場合、当該予定日を認定日とする。
2. 所定の期間内に登録手続きを完了しない場合は、登録する権利を失うものとする。ただし、第6条及び第7条に定める要件を満たした場合は、登録する権利を与えるものとする。
 3. JSPOが、第2条第1項第1号に定める「新規登録」対象者について、JSPO倫理規程第4条に違反する疑いにより調査を開始した場合は、同倫理規程第5条に基づく処分がなされ、あるいは、同条に基づく処分をしない決定がなされ、この処分・決定が確定するまでの間、当該対象者の登録手続きは完了しない。
 4. 「新規登録」対象者が、前項の規定に基づき、所定の期間内に登録手続きが完了しない場合は、所定の登録手続きの終期は調査終了日まで延長される。
 5. 認定の起算日は、4月1日又は10月1日とする。

(有効期間)

- 第5条 資格の有効期間は認定日から4年間とする。
2. 「資格追加」又は「資格昇格」にあつては、当該資格の認定日から既認定資格の有効期限までを当該資格の有効期間とする。ただし、当該資格の認定予定日と既認定資格の「更新登録」に伴う認定予定日が同日の場合の有効期間は、当該資格の認定日から4年間とする。
 3. JSPO登録者等処分規程第22条に基づき「資格停止」処分を科された場合の有効期限は、停止期間に関わらず変更しない。

(更新登録要件)

- 第6条 有効期間満了に伴う「更新登録」にあつては、有効期限の6か月前までに、資格毎にJSPO又はJSPO加盟団体等の定める更新研修を修了するなどの要件（以下「更新登録の要件」という。）を満たさなければならない。ただし、「資格追加」の場合で当該資格の認定日から既認定資格の有効期限までの期間が6か月以上の場合に限り、当該資格の更新登録の要件を満たしたものとして扱うこととする。
2. 更新登録の要件を満たした場合は「更新登録」の対象となる。
 3. JSPO登録者等処分規程に基づく再教育プログラムの受講は、更新登録の要件として認めない。

(保留・無効)

- 第7条 第4条に定める登録手続きを行わなかった場合、「新規登録」（「資格追加」又は「資格昇格」を含む）の場合は「未登録」、 「更新登録」の場合は「未更新」として当該資格の認定を「保留」とする。

2. 「保留」とする期間は最短6か月間、最長1年間とする。
3. 「未登録」の場合、「保留」期間中は登録する権利が与えられ「新規登録」の対象となる。
4. 「未更新」の場合、「保留」期間中の認定起算日前日の6か月前までに前条に定める更新登録要件を満たした場合は、登録する権利が与えられ「再登録」の対象となる。
5. 「保留」期間を超過した場合は、登録する権利を「無効」とする。
6. 「無効」の場合は、資格毎にJSPO又はJSPO加盟団体等の定める復活登録要件を満たすことにより、登録する権利が与えられ「復活登録」の対象となる。ただし、「保留」となってから「復活登録」を希望する旨をJSPO又はJSPO加盟団体等に申告した直後の認定の起算日までの期間が、資格毎にJSPO又はJSPO加盟団体等の定める期間を超過する場合は、「復活登録」を認めないこととする。なお、当該場合は、公認スポーツ指導者養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了することで、「新規登録」することが可能となる。
7. JSPO登録者等処分規程第22条に基づき「資格停止」処分を科された場合は、処分の効力発生日から再教育プログラムを修了し資格が回復するまでの期間、当該資格を登録する権利を「無効」とし、資格回復時は、当該資格の有効期限に応じて前各項の規定に基づくものとする。

(辞退)

第8条 第5条に定める有効期間内に、資格の「辞退」を希望する場合は、JSPO所定の方法により公認スポーツ指導者として認定されている本人又は代理人が手続きするものとし、本人の意思を確認できる場合に限り受理する。

2. 「辞退」した資格の登録を再び希望する場合、当該希望日が「辞退」時点の資格有効期限前の場合は、再び当該有効期限まで公認スポーツ指導者として認定する。当該希望日が「辞退」時点の資格有効期限を超過している場合、当該有効期限から1年以内の場合は第7条第4項、1年経過している場合は第7条第6項に定める要件を満たすことにより、登録する権利が与えられ、それぞれ「再登録」、「復活登録」の対象となる。
3. 公認スポーツ指導者として認定されている者に対して、JSPO登録者等処分規程第3条に定める遵守事項に違反する疑いによりJSPOが事実調査を開始した場合は、同登録者等処分規程第22条に基づく処分がなされ、あるいは、同条に基づく処分をしない決定がなされ、この処分・決定が確定するまでの間、当該指導者からの「辞退」申請は受理しない。

(登録証・認定証)

第9条 第4条に定める登録手続きを完了した者を公認スポーツ指導者として認定し、「登録証」を交付する。

2. 資格毎にその初回の登録に際しては、「認定証」を交付する。
ただし、スポーツドクター及びスポーツデンティストは、「更新登録」に際しても、「認定証」を交付する。
3. 前2項の定めにかかわらず、登録手続き時に指導者マイページにおいて「登録証」及び「認定証」の発送を希望しない旨を回答した場合は、発行しないものとする。
4. 資格の有効期間中は、指導者マイページにおいて「登録証」及び「認定証」を表示することができる。

(個人情報等)

第10条 第2条第1項により公認スポーツ指導者として登録する対象となった者や第4条に定める登録手続きを完了し公認スポーツ指導者として認定された者（以下「公認スポーツ指導者等」という。）の個人情報は、JSPO 個人情報保護方針をはじめとする関連諸規程等に基づき管理・運用する。

2. その他、個人情報の取り扱いの詳細については、別に定める。

(各種サービス)

第11条 公認スポーツ指導者として認定されている者は、公認スポーツ指導者制度第7条に定める権利をはじめとする各種サービスについて、JSPO が指定する方法により受けることができる。

2. JSPO は、各種サービスや関連規程等の変更が生じた場合、公認スポーツ指導者等が登録した住所や電子メール宛の発信、指導者マイページ等のJSPO オフィシャルサイト上での掲示、JSPO が発行する情報誌での掲載等のJSPO が適当と認める方法で通知することとする。

3. 前項の通知が電子メールで行われる場合、JSPO は、公認スポーツ指導者等が登録した電子メールアドレス宛に発信した時点をもって公認スポーツ指導者等への通知が完了したものとみなすこととし、公認スポーツ指導者等は、JSPO が電子メールで発信した通知を遅滞なく閲覧する義務を負うものとする。

4. JSPO は、以下のいずれかに該当する事象が発生した場合、公認スポーツ指導者等に事前に通知する事なく、一時的にサービスの提供を中断することがある。

(1) サービスを提供するため、システムを定期的若しくは緊急に保守点検するとき

(2) 天災、火災、停電、暴動、サーバーの停止等により、JSPO がサービスを提供できず若しくは提供が困難となったとき

(3) JSPO がサービスの運営上又は技術上の判断により、サービスの一時的な中断が必要と判断したとき

5. JSPO は、前項に定めるサービスの提供の中断により、公認スポーツ指導者等又は第三者に損害が発生してもこれを賠償する責務を負わないものとする。

(登録情報の変更)

第12条 公認スポーツ指導者等は、住所、連絡先等の登録情報に変更があった場合、指導者マイページ、書面、電話等により直ちにJSPO に届け出なければならない。

2. 前項の届け出がないために、JSPO 又はJSPO 加盟団体等からの通知等が延着し、又は到達しなかった場合は、前条第4項の場合を除き、通常到着すべきときに到達したとみなされることを予め異議なく承認するものとする。

3. 第1項の届け出を怠ったことによる公認スポーツ指導者等の損害について、JSPO 又はJSPO 加盟団体等は一切の責任を負わないものとする。

4. 公認スポーツ指導者等は、登録情報等の届け出た内容に間違いがあった場合に、必要な範囲において何ら通知することなくJSPO が当該届出内容の変更を行うことを了承するものとする。

5. 公認スポーツ指導者等が死亡した場合は、代理人等からの連絡等によりJSPO が知り得た時点をもって、届け出があったものとして取り扱い、死亡した時点で公認スポーツ指導者として認定されていた者にあつては、当該時点で認定を停止することとする。

(その他)

第13条 公認スポーツ指導者資格のうちスポーツリーダーの認定及び認定に伴う登録に関することについては、別に定める。

2. JSPO が認めた一部の資格・競技の認定及び認定に伴う登録に関することについては、当該資格・競技を協同認定する JSPO 加盟団体等の定めによるものとする。

(変更)

第14条 本規程は、JSPO 指導者育成委員会の議決により変更することができる。

(雑則)

第15条 本規程に定めるほか、登録に関して必要な事項は、別に定めることができる。

附 則 本規程は、平成元年4月1日から施行する。

本規程は、平成7年10月1日から施行する。

本規程は、平成17年4月1日から施行する。

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

本規程は、平成26年7月23日から施行する。

本規程は、平成30年4月1日から施行する。

本規程は、平成31年4月1日から施行する。

本規程は、令和元年6月21日から施行する。

本規程は、令和2年4月1日から施行する。

本規程は、令和4年4月1日から施行する。

本規程は、令和5年1月1日から施行する。

本規程は、令和6年2月9日から施行する。

本規程は、令和7年5月14日から施行する。

公認スポーツ指導者資格の種類と役割

年齢（発育発達段階）や技能レベル、興味や志向など多様なスポーツ活動に対応するため、指導対象や活動拠点を考慮し5領域19種類の指導者資格に分類されています。

(1) スポーツ指導者基礎資格

ア. スポーツコーチングリーダー（旧コーチングアシスタント）

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等において、安全・安心で基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

イ. スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

(2) 競技別指導者資格

ア. スタートコーチ

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等において、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する方のための資格です。スタートコーチには、競技別指導者資格のスタートコーチ、スタートコーチ（教員免許状所持者）の2種類があり、それぞれが別の資格となっております。

イ. コーチ1

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する方のための資格です。

ウ. コーチ2

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築、実行、評価し監督することと併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援する方のための資格です。

エ. コーチ3

トップリーグ・実業団等でのコーチングスタッフとして、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う方のための資格です。

オ. コーチ4

トップリーグ・実業団・ナショナルチーム等のコーチングスタッフとして、国際大会レベル

のプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う方のための資格です。

カ. 教師

クラブや商業・民間スポーツ施設等で幅広い年齢層の多様なスポーツライフスタイルを志向する会員や利用者に応じたコーチングを行うとともに、当該施設等の日常運営業務にあたる方のための資格です。

キ. 上級教師

クラブや商業・民間スポーツ施設等における実技指導の責任者・チーフを担うとともに、当該施設等の企画・経營業務にあたる方のための資格です。

(3) メディカル・コンディショニング資格

ア. スポーツドクター

医師の立場からプレーヤーの健康管理，スポーツ外傷・障害の診断，治療，予防，研究等にあたる方のための資格です。

イ. スポーツデンティスト

歯科医師の立場からプレーヤーの健康管理，歯科口腔領域におけるスポーツ外傷・障害の診断，治療，予防，研究等にあたる方のための資格です。

ウ. アスレティックトレーナー

スポーツドクターをはじめコーチ等との緊密な協力のもとに，1) スポーツ活動中の外傷・障害予防，2) コンディショニングやリコンディショニング，3) 安全と健康管理，および4) 医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応という4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し，スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで，パフォーマンスの回復や向上を支援する者のための資格です。

エ. スポーツ栄養士

地域におけるスポーツ活動現場や都道府県レベルの競技者育成において，スポーツ栄養の知識を持つ専門家として，プレーヤーの栄養・食事に関する専門的視点からの支援等，栄養サポートを行う方のための資格です。

(4) フィットネス資格資格

ア. フィットネストレーナー

商業・民間スポーツ施設等において，プレーヤーに対する相談及び指導助言を行うとともに，各種トレーニングの基本的指導等を主に職業として行う方のための資格です。

イ. スポーツプログラマー

地域スポーツクラブ等において、プレーヤーのフィットネスの維持や向上のための指導及び助言を行う方のための資格です。

ウ. ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う方のための資格です。

エ. スタートコーチ（ジュニア・ユース）

スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ・学校運動部活動等において、必要最低限度の知識・技能に基づき、子どもたちにスポーツ・運動（遊び）の楽しさ、安全・安心な活動を提供する方のための資格です。

(5) マネジメント指導者資格

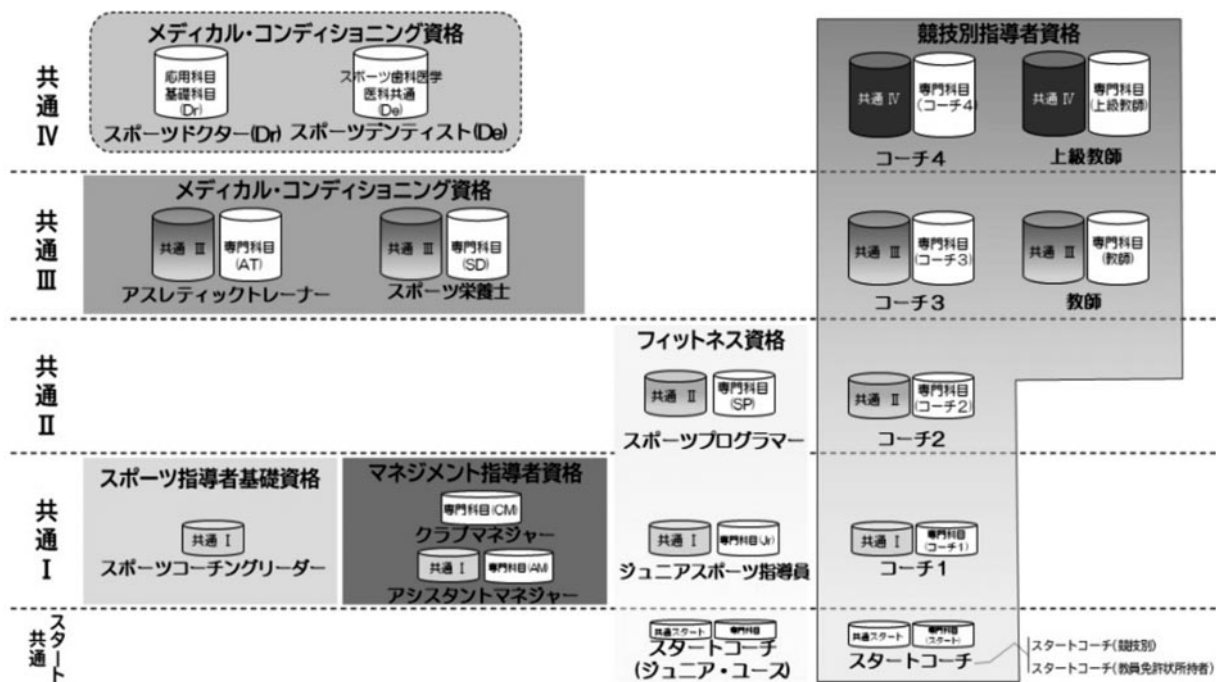
ア. アシスタントマネジャー

総合型地域スポーツクラブ等において、クラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントの諸活動をサポートする方のための資格です。

イ. クラブマネジャー

総合型地域スポーツクラブ等において、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行うとともに、クラブに必要なスタッフがそれぞれの役割に専念できるような環境を整備する方のための資格です。

カリキュラム相関図



第5章

資格課程について

- I 教 職 課 程
- II 司書・司書教諭・学校司書課程
- III 学 芸 員 課 程
- IV 大学院教職課程
- V 科目等履修生

資格課程について

I. 教職課程

本学では、中学校および高等学校の「教育職員免許状」（以下「免許状」という）を取得することを希望する学生のために、教職課程を設置しています。

現在の法律では、原則として免許状を取得していないものは教職に就くことができませんので、将来教職に就く意思のある学生は、教職課程を履修し、免許状を取得してください。

本学で免許状を取得するためには、原則として3年間以上教職課程の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。教職課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。

また、修得科目・修得単位は学部・学科によって異なります。詳細については、履修初年度のガイダンスで配布する「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照してください。

なお、教職課程を履修する場合は履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。

取得できる免許状は次のとおりです。

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
文学部	日本文学文化学科	国 語	国語, 書道
	英語英米文学科	英 語	英 語
	哲 学 科	社 会	地理歴史, 公民
	歴 史 学 科	社 会	地理歴史, 公民
	環 境 地 理 学 科	社 会	地理歴史, 公民

※ジャーナリズム学科の学生は教員免許状を取得できません。

Ⅱ. 司書・司書教諭・学校司書課程

司書課程は、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の資料室などで、資料や情報を収集・整理し、これらを利用者に対して適切に提供する専門職（司書）の養成を目的としています。

司書教諭課程は、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職（司書教諭）の養成を目的としています。なお、司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭課程の履修と併せて、教職課程を履修し、教育職員免許状を取得しなければなりません。

学校司書課程は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理や提供および授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について、司書教諭と協働しながら従事する学校司書の養成を目的としています。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上、司書課程の授業を履修し、15科目30単位以上を修得しなければなりません。また、司書教諭については5科目10単位以上、学校司書については13科目26単位を修得しなければなりません。

司書、司書教諭、学校司書課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「**教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック**」も併せて参照してください。

なお、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程を履修する場合は履修初年度に各課程の受講料を納入する必要があります。

※ジャーナリズム学科の学生は免許状を取得できないため、司書教諭課程を履修できません。

Ⅲ. 学芸員課程

学芸員課程は、博物館、美術館、歴史資料館、考古資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館、科学館等に勤務し、その事業の目的を達成するために、資料の収集、保管、展示および調査研究、その他これに関連する事業についての専門的事項を司る専門職員を養成することを目的としています。

本学で学芸員の資格を取得するためには、原則として2年間以上、学芸員課程の科目を履修し、13科目27単位以上を修得しなければなりません。

学芸員課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「**教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック**」も併せて参照してください。

なお、学芸員課程を履修する場合は履修初年度に、学芸員課程受講料を納入する必要があります。

IV. 大学院教職課程

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細は教務課資格課程事務室（生田）または教務課資格課程窓口（神田校舎）で確認してください。

V. 科目等履修生

在学中の単位不足等により本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は、科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし、科目等履修生となるためには、前年度の2月中旬～下旬に出願し、面接選考のうえ、合格した場合に限り許可されます。

なお、詳細については、教務課資格課程窓口（神田校舎）へお問い合わせください。

付 録

- I 専修大学履修規程
- II 専修大学定期試験規程
- III 定期試験における不正行為者処分規程

I 専修大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第4条第4項の規定に基づき、専修大学（以下「本学」という。）における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の種類)

第2条 授業科目の種類は、次のとおりとする。

- (1) 必修科目 当該学部・学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。
- (2) 選択科目 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する授業科目（選択必修科目及び必履修科目を含む。）をいう。
- (3) 自由科目 履修することはできるが、修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

(履修方法)

第3条 各学部・学科並びに教職課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程及び学芸員課程（以下「資格課程」という。）において履修する授業科目は、入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い、学生本人が決定するものとする。

(単位数及び授業科目)

第4条 各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は、別表第1から別表第3まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

(履修登録)

第5条 授業科目の履修登録は、前期及び通年の授業科目（後期の授業科目のうち、前期に履修登録することが必要な授業科目を含む。）にあつては前期履修科目登録期間、後期の授業科目にあつては後期履修科目登録期間に行うものとする。

(スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録)

第6条 スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「SWP学修ガイドブック」に定めるところによる。

(資格課程科目の履修登録)

第7条 教職課程科目は、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料、実習料等を納入することにより履修することができる。

- 2 司書課程科目及び司書教諭課程科目は、司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 3 学校司書課程科目は、学校司書課程を修了しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 4 学芸員課程科目は、学芸員の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。
- 5 資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

(履修上限単位数)

第8条 1年間に履修登録することができる履修上限単位数は、各学部・学科が別に定めるところによる。

2 履修上限単位数には、再履修科目の単位を含めるものとし、次に掲げる単位を含めないものとする。

- (1) 海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位
- (2) 資格試験により認定される単位
- (3) 専修大学科目等履修生（附属高等学校生徒）として履修し、本学に入学した後、単位認定される授業科目の単位
- (4) 資格課程科目として履修する授業科目の単位

(履修登録することができない授業科目)

第9条 教養科目及び外国語科目の授業科目のうち、外国人留学生のために開講する授業科目は、外国人留学生以外の学生は、履修登録することができない。

2 前項の授業科目を履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(再度の履修登録の禁止)

第10条 既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、再び履修登録することができない。

2 再び履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(重複した履修登録の禁止)

第11条 履修する年度において、同一の履修期間、曜日及び時限に行われる授業科目は、重複して履修登録してはならない。

2 重複して履修登録した場合は、いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

(履修登録の修正、削除、追加及び変更)

第12条 履修登録の修正、削除、追加及び変更は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、履修科目登録期間及び履修修正期間に限り認めるものとする。ただし、当該期間以外の期間であっても特別の理由があると認められる場合は、履修登録の修正、削除、追加及び変更を認めることができる。

2 あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については、原則として、履修クラスの変更を認めないものとする。

3 履修者制限が行われた授業科目で、一旦履修を許可されたものについては、原則として、その削除及び変更を認めないものとする。

(履修の中止)

第13条 履修を継続する意思のない授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、所定の履修中止申請期間に、所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

2 履修の中止については、次に定めるところにより取り扱うものとする。

- (1) 履修を中止した授業科目は、授業への出席、定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。
- (2) 履修を中止した授業科目の単位は、当該年度の履修上限単位数に含める。

- (3) 履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。
- (4) 履修を中止した授業科目は、GPA 及び平均点に算入しない。
- (5) 履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は、履修中止申請を認めない。
- (6) 履修中止申請は、取り下げることができない。

(単位の修得)

第 14 条 履修登録を行わない授業科目については、単位を修得することができない。ただし、履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については、この限りでない。

(事務所管)

第 15 条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第 16 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

[中略]

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第 3 の規定は、令和 6 年度以後の入学者について適用し、令和 5 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第 1 (第 4 条関係) 略

別表第 2 (第 4 条関係) 略

別表第 3 (第 4 条関係) 略

Ⅱ 専修大学定期試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条第3項の規定に基づき、試験の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- (4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実施の時期を変更することがある。

- (1) 前期試験 7月～8月
- (2) 後期試験 1月～2月
- (3) 前期追試験 8月
- (4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 試験監督は、当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて補助者を加えることがある。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(試験委員)

第7条 試験の実施に際し、試験委員を置く。

- 2 試験委員は、試験の実施を統轄する義務と権限を有する。
- 3 試験委員は、教授会の承認を得て、学長が委嘱する。
- 4 試験委員は、試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- (1) 履修科目登録の手続
 - (2) 学費の納入手続
 - (3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号に該当する者については、定期試験における不正行為者処分規程の定めるところによる。

- (1) 学生証を携帯していない者
 - (2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - (3) 試験監督者の指示に従わない者
 - (4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、教務部教務課の窓口に出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| (2) 就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| (3) 業務命令による出張又は超過勤務 | 所属長による証明書 |
| (4) 公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| (5) 天災その他の災害 | 被災を証明するもの |
| (6) 二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| (7) 本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| (8) 交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| (9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項
(成績発表) | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |

第11条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第12条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- (3) 学生証を机上に提出すること。
- (4) 解答にさきだって、学籍番号及び氏名を記入すること。
- (5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- (6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- (7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- (8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第13条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- (2) 第9条に該当する者の答案
- (3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- (4) 不正行為に該当する者の答案
- (5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第14条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- (1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)
- (2) 答案を交換したとき。
- (3) カンニングペーパーを廻したとき。
- (4) カンニングペーパーを使用したとき。
- (5) 所持品(電子機器を含む。)その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- (6) 他人の答案を写したとき。(見た者・見せた者)
- (7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。(連絡した者・連絡を受けた者)

- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- (9) 他人の学生証で受験したとき。(貸した者・借りた者)
- (10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- (11) 故意による答案無記名のとき。
- (12) 答案を提出しなかったとき。
- (13) 使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

(不正行為の確認)

第15条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

2 試験委員は、学生部委員の立ち合いのもとに、不正行為の事実確認を行う。

3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

(不正行為者の処分)

第16条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

(規程の改廃)

第17条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

〔中略〕

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

Ⅲ 定期試験における不正行為者処分規程

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第16条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- | | |
|---|--|
| (1) 代人受験（依頼した者・受験した者） | 2ヶ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (2) 答案交換 | 第1号に同じ |
| (3) カンニングペーパー廻し | けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (4) カンニングペーパーの使用 | 第3号に同じ |
| (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等） | 第3号に同じ |
| (6) 答案を写す（見た者・見せた者） | 第3号に同じ |
| (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者） | 第3号に同じ |
| (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用 | 第3号に同じ |
| (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者） | 第3号に同じ |
| (10) 偽名又は氏名抹消 | 第3号に同じ |
| (11) 故意による無記名 | 第3号に同じ |
| (12) 答案不提出 | 第3号に同じ |
| (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者） | けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。 |
| (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合 | 第1号から第13号に準じて処分する。 |

2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

〔中略〕

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2026 文学部学修ガイドブック

令和8年4月1日

編集・発行 専修大学文学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL 044-911-1254 (ダイヤルイン)

